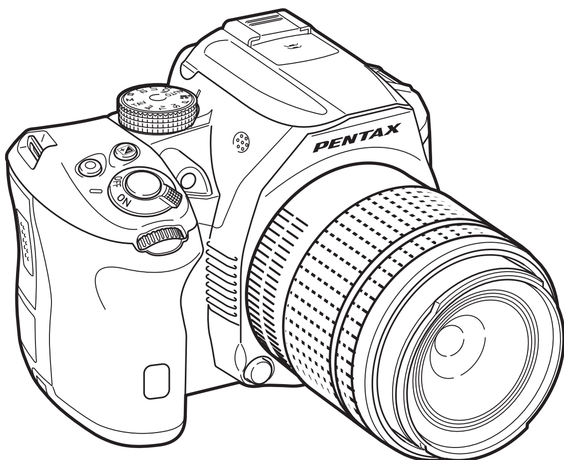
PENTAX



デジタル一眼レフカメラ

K-30

使用説明書







SILKYPIX®
The Excellent digital development technology











カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタル一眼レフカメラK-30をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからないときや、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

使用できるレンズについて

本機で使用できるレンズは、基本的にDA・DA L・D FA・FA Jまたは絞り**A**位置があるレンズです。それ以外のレンズやアクセサリーを使用するときは、本書のp.52、p.255をご覧ください。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンターでは、一部機能が反映されません。

AVC Patent Portfolio Licenseについて

本製品は、お客様が個人使用または報酬を受けないその他の利用で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio License に基づきライセンスされているものです。

(i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
(ii) 個人利用の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。
詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。
http：//www.mpegla.comをご参照ください。

本機を使用するにあたって

- テレビ塔など強い電波や磁気を発生する施設の周囲や、強い静電気が発生する場所では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが誤作動を起こす場合があります。
- 画像モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99％以上の有効画素数がありますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび画像モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。
本書では、SDメモリーカードならびにSDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことをSDメモリーカードと表現しています。
また、専用のリチウムイオンバッテリー D-LI109のことを「バッテリー」、市販の単３形電池のことを「電池」と表現しています。

ご注意ください

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。


警告 このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。


注意 このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について


警告

- カメラの分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 太陽などの強い光に向けての撮影や、レンズキャップを外した状態で直射日光のあたる場所に放置しないでください。カメラの故障や火災の原因になる場合があります。
- カメラから外したレンズを太陽に向けてのぞかないでください。失明や視力障害の原因になります。

- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、バッテリー／電池またはACアダプターを取り外した上、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。


注意

- ストロボの発光部に手を密着させたまま発光させないでください。やけどのおそれがあります。
- ストロボの発光部を衣服などに密着させたまま発光させないでください。変色などのおそれがあります。
- 本機には、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ち続けると、低温やけどを起こすおそれがありますのでご注意ください。
- 万一液晶が破損した場合、ガラスの破片には十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付いたり、口に入らないよう十分にご注意ください。
- お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異常が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。

バッテリー充電器とACアダプターについて


警告

- バッテリー充電器とACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外をご使用になったり、指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。AC指定電圧は、100-240Vです。
- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 万一、内部に水などが入った場合は、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグを外し、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よく拭いてください。火災の原因となります。


注意

- ACコードの上に重いものを載せたり、落としたり、無理に曲げたりしてコードを傷めないでください。もしACコードが傷んだら、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- コンセントに差し込んだまま、ACコードの接続部をショートさせたり、触ったりしないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。故障の原因となります。
- バッテリー充電器D-BC109で充電式リチウムイオンバッテリーD-LI109以外のバッテリーは充電しないでください。他のバッテリーを充電しようとすると、発熱や爆発、充電器の故障の原因となります。

バッテリーについて

 **警告**

- バッテリーの液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。

 **注意**

- 本機では、決められたバッテリー以外は使用しないでください。バッテリーの爆発、発火の原因となることがあります。
- バッテリーは分解しないでください。無理に分解をすると、爆発や液漏れの原因となります。
- 万一、カメラ内のバッテリーが発熱・発煙を起こしたときは、速やかにバッテリーを取り出してください。その際は、やけどに十分注意してください。
- バッテリーの「＋」と「－」の接点に、針金やヘアピンなどの金属類が触れないようにご注意ください。
- バッテリーをショートさせたり、火の中へ入れないでください。爆発や発火の原因となります。
- バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 発熱・発火・破裂のおそれがありますので、バッテリー使用の際は、下記注意事項を必ずお守りください。
  1. 専用充電器以外では絶対に充電しないこと。
  2. 火中投入、加熱、高温での充電・使用・放置をしないこと。
  3. 変形や、ショートさせたり分解・改造をしないこと。

電池の取り扱いについて

 **警告**

- 電池の液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。

 **注意**

- 別売の単3形電池ホルダー D-BH109使用時は、単3形アルカリ電池、単3形リチウム電池、単3形ニッケル水素電池のいずれか4本を使用します。これら以外の電池は使用しないでください。カメラの性能が十分に発揮できない場合や、電池の破裂、発火の原因となることがあります。
- 電池の「＋」と「－」の向きを間違えて入れないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
- 電池を交換するときは、メーカー、種類、容量の異なる電池を混ぜて入れないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて入れないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
- 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解しないでください。破裂・発火のおそれがあります。

- 充電式のニッケル水素電池以外は充電しないでください。破裂・発火のおそれがあります。このカメラに使用できる単3形電池の種類で、ニッケル水素電池以外は充電ができません。
- 電源が入っているときにバッテリーカバーを開けたり、電池を取り出したりしないでください。
- 長い間使わないときは、カメラから電池を取り出しておいてください。長期間入れたままにしておくと、電池が液漏れを起こすことがあります。
- 電池の液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。その際は、やけどに十分ご注意ください。

カメラや付属品は乳幼児の手の届かない場所に

 **警告**

- カメラや付属品を、乳幼児の手の届く場所には置かないでください。
  1. 製品の落下や不意の動作により、傷害を受けるおそれがあります。
  2. ストラップを首に巻き付け、窒息するおそれがあります。
  3. バッテリー／電池や SD メモリーカードなどの小さな付属品を飲み込むおそれがあります。
     万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。

取り扱い上の注意

お使いになる前に

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の保証についてはご容赦ください。

バッテリー・充電器について

- バッテリーをフル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。特に高温下での保管は避けてください。
- バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電になり、バッテリー寿命を縮める原因となります。
- 充電は使用する当日か前日にすることをお勧めします。

- 本製品に付属しているACコードは、バッテリー充電器 D-BC109専用です。他の機器に接続してお使いにならないでください。

持ち運びとご使用の際のご注意

- 高温多湿のところは避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 強い振動、ショック、圧力などを加えないでください。オートバイ、車、船などの振動からは、クッションなどでくるんで保護してください。
- カメラの使用温度範囲は-10～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥、砂、ほこり、水、有害ガス、塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- 破損や故障の原因になりますので、画像モニターの表面を強く押さないでください。
- 三脚使用時は、ねじの締め過ぎに十分ご注意ください。

お手入れについて

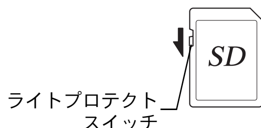
- 汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- レンズ、ファインダー窓のほこりは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロアーは、レンズを破損させるおそれがありますので、使用しないでください。
- CMOSセンサーの清掃につきましては、できるだけ弊社修理センターまたは、お客様窓口にご用命ください。（有料）
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。

保管について

- 防腐剤や有害薬品がある場所では保管しないでください。また高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用・保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用・保管は避けてください。

その他

- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録できなくなり、カメラやパソコンで削除やフォーマットができなくなります。



- カメラを使用した直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合があります。
- SDメモリーカードへのアクセス中は、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データやカードの破損の原因となります。
- SDメモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SDメモリーカードのフォーマット中は絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で失われる場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  1. 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  2. SDメモリーカードを静電気や電気ノイズがある場所に置いたとき
  3. 長期間SDメモリーカードを使用しなかったとき
  4. SD メモリーカードのアクセス中にカードを取り出したり、バッテリー／電池を抜いたとき
- 長期間使用しない場合は、保存したデータを読むことができなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- SDメモリーカードをご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。
- 未使用品や他のカメラや機器で使用したSDメモリーカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。
- フォーマットしたカードでも、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。廃棄にはSDメモリーカード本体を物理的に破壊し、譲渡の際は市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってSDメモリーカード内のデータを完全に消去することをお勧めします。
- SDメモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属のCD-ROMと当社ホームページから登録が可能です。p.233を参照してください。

目次

使ってみよう 61

いろいろな撮影 73

撮影のための設定 139

いろいろな再生と画像編集 173

その他の設定を変更する 203

パソコンと接続する 227

ストロボの活用 235

付録 247

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1 お使いになる前に

付属品や各部の名称、機能について説明しています。

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮影するまでの準備操作について説明しています。必ずお読みになり、撮影を始める前に操作を行ってください。

3 使ってみよう

基本の撮影方法と再生方法を説明しています。

4 いろいろな撮影

撮影に関するさまざまな機能を説明しています。

5 撮影のための設定

保存形式など、撮影時の設定を説明しています。

6 いろいろな再生と画像編集

さまざまな再生方法や画像の編集について説明しています。

7 その他の設定を変更する

画面表示やフォルダー命名規則など、カメラ全般とファイル管理に関する設定を説明しています。

8 パソコンと接続する

カメラとパソコンのつなぎ方や、付属ソフトウェアのインストール方法と概要を説明しています。

9 ストロボの活用

内蔵ストロボと外付けストロボの使用方法を説明しています。

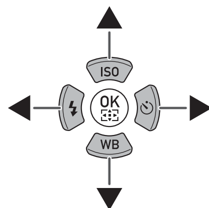
10付録

困ったときの対処のしかたや各種資料を掲載しています。

本書で使用している表記の意味は次のようになっています。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。

本書では、十字キーを次のように表記します。

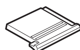


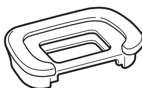
1 お使いになる前に

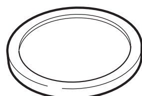
お使いになる前に、同梱品と各部の名称や機能を確認してください。

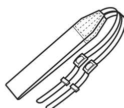
主な同梱品の確認

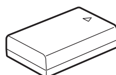
本機には以下の付属品が同梱されています。
お使いになる前に、付属品に不足がないかお確かめください。

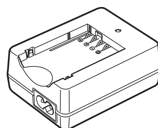

ホットシューカバー FK
（カメラ装着）

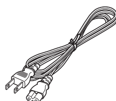

アイカップFR
（カメラ装着）

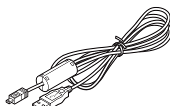

ボディマウントカバー
（カメラ装着）

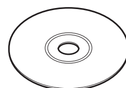

ストラップ
O-ST53


充電式リチウムイオン
バッテリー D-LI109


バッテリー充電器
D-BC109


ACコード
D-CO2J


USBケーブル
I-USB7

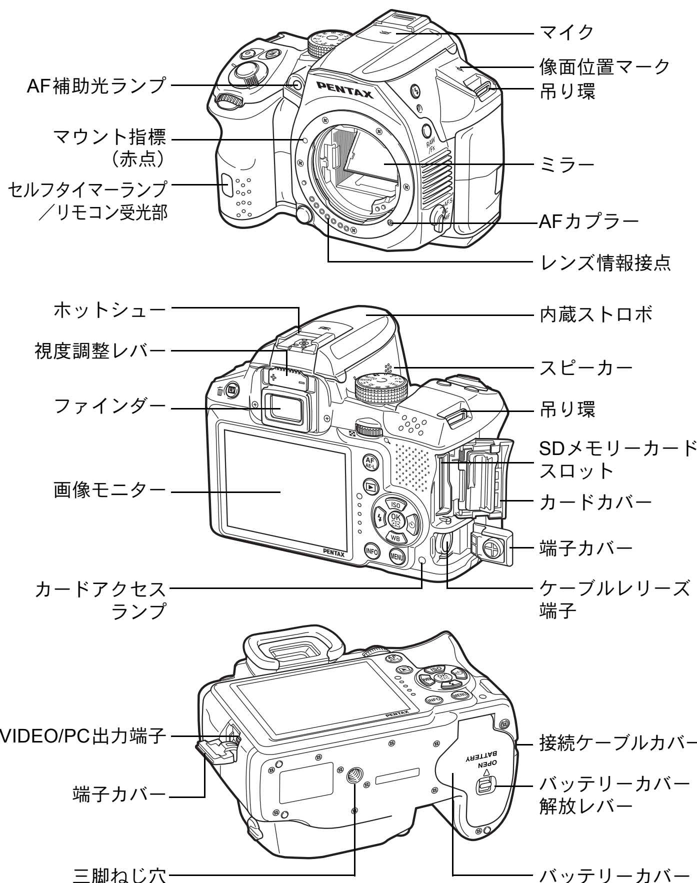

ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW128



使用説明書（本書）


保証書

各部の名称と機能



※ 背面の図はホットシューカバー FKとアイカップFRを外した状態のイラストです。

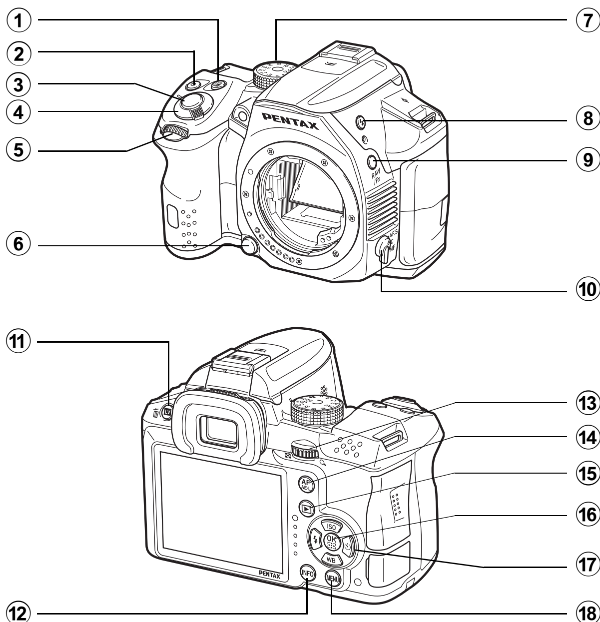
注意　端子カバーが正しく閉まっていないと、防塵・防滴効果が損なわれますのでご注意ください。

撮影時

撮影時に使用するボタンやダイヤル、レバーの機能を示します。



ここでは工場出荷時の状態の機能を説明します。ボタンによっては、機能を変更することができます。



① **±（露出補正）ボタン**

露出補正値を変更するときに押します。（p.90）

±ボタンを押してから、または押しながら後電子ダイヤル（ ）を回して設定を変更します。

② **⊙（グリーン）ボタン**

設定中の値をリセットします。

③ **シャッターボタン**

画像を撮影します。（p.64）

④ **電源レバー**

電源のオン／オフを行います。（p.55）

⑤ **前電子ダイヤル（ ）**
設定値の変更などを行います。
メニュー画面が表示されているときは、メニューの種類を切り替えます。（p.39）

⑥ **レンズ取り外しボタン**
レンズを取り外すときに押します。（p.53）

⑦ **モードダイヤル**
撮影モードを切り替えます。（p.80）

⑧ **（ストロボポップアップ）ボタン**
内蔵ストロボをポップアップします。（p.69）

⑨ **RAW/Fxボタン**
機能を割り当てて使用します。（p.165）

⑩ **フォーカスモードレバー**
フォーカスモードを切り替えます。（p.99）

⑪ **LV/（ライブビュー）ボタン**
ライブビューを表示します。（p.24）
クイックビュー中に押すと、画像を消去します。（p.64）

⑫ **INFOボタン**
コントロールパネルを表示します。（p.26）もう一度押すと、撮影待機画面の表示情報を設定できます。（p.27）

⑬ **後電子ダイヤル（ ）**
シャッター速度／絞り値／露出補正値を設定します。（p.88）
コントロールパネルが表示されているときは、設定を切り替えます。（p.38）
メニュー画面が表示されているときは、メニューを切り替えます。（p.39）

⑭ **AF/AE-Lボタン**
ピントを合わせたり、露出値を記憶するように設定できます。（p.94、p.167）

⑮ **（再生）ボタン**
再生モードに切り替えます。（p.70）

⑯ **OKボタン**
コントロールパネルやメニュー画面が表示されているときに、選択した項目を決定します。
測距点切替／コントラストAFが「セレクト」に設定されているときは、測距点／AF領域の設定の有効／無効を切り替えます。（p.103、p.106）
ライブビュー撮影でのフォーカスロック時や**MF**モードのときは、画像モニターを拡大表示します。（p.107）

⑰ **十字キー（▲▼◀▶）**

ISO感度／ホワイトバランス／ストロボモード／ドライブモードの設定画面を呼び出します。（p.74）

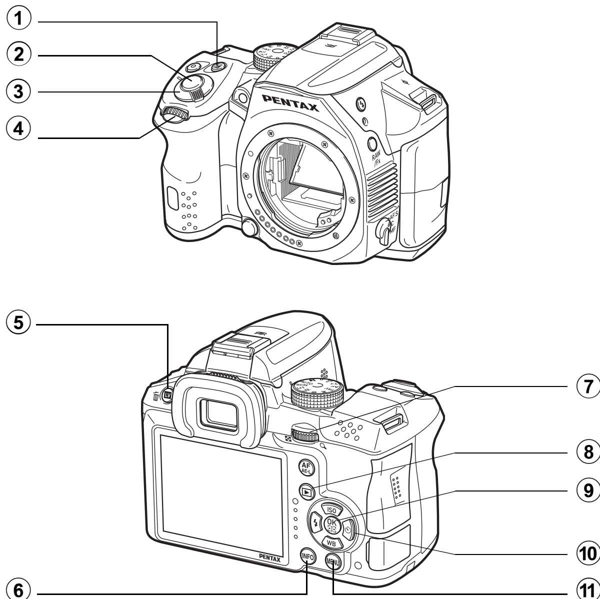
コントロールパネルやメニュー画面が表示されているときは、カーソルの位置や項目を変更します。

⑱ **MENUボタン**

「A撮影1」メニューを表示します。（p.75）メニューが表示されているときに押すと、1つ前の画面に戻ります。（p.38）

再生時

再生時に使用するボタンやダイヤル、レバーの機能を示します。



① **（露出補正）ボタン**
JPEG 形式で撮影した直前の画像が撮影バッファに残っている場合に、RAW形式の画像を追加保存します。（p.70）

② **シャッターボタン**
半押しすると撮影モードに切り替わります。

③ **電源レバー**
電源のオン／オフを行います。（p.55）

④ **前電子ダイヤル（）**
前後の画像を表示します。（p.70）

⑤ **LV/ （消去）ボタン**
画像を消去します。（p.71）

⑥ **INFOボタン**
再生画面の表示情報を設定できます。（p.28）

⑦ **後電子ダイヤル（）**
再生画像を拡大表示、または複数画像を表示します。（p.177、p.178）

⑧ **（再生）ボタン**
撮影モードに切り替えます。

⑨ **OK ボタン**
メニュー画面や再生画面で選択した項目を決定します。

⑩ **十字キー（▲▼◀▶）**
メニュー画面や再生画面でカーソルの位置や項目を変更します。
1画像表示で十字キー（▼）を押すと、再生モードパレットを表示します。（p.174）

⑪ **MENUボタン**
「 再生1」メニューを表示します。（p.175）

画像モニター

画像モニターには、カメラの状態によってさまざまな情報が表示されます。



画像モニターの明るさと色味を調整することができます。（p.211）

撮影時

本機はファインダーをのぞいて撮影する方法と、画像モニターを見ながら撮影する方法があります。
ファインダーを使った撮影では、画像モニターのステータススクリーンとファインダー内の表示を確認しながら撮影します。ファインダーを使わない場合は、画像モニターにライブビュー画像を表示しながら撮影します。
ステータススクリーンまたはライブビュー画像が表示されている状態を「撮影待機状態」といいます。撮影待機状態で**INFO**ボタンを押すと「コントロールパネル」が表示され、設定が変更できます。（p.26）
「コントロールパネル」が表示された状態でさらに**INFO**ボタンを押すと、撮影待機状態の表示画面の選択ができます。（p.27）



撮影待機状態
（ステータススクリーン）





コントロールパネル

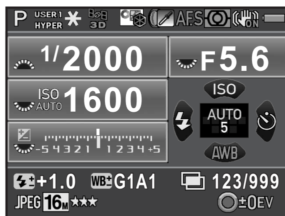


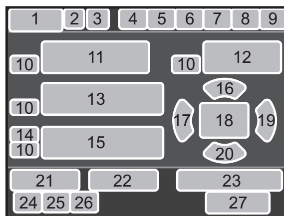


撮影情報表示選択

● ステータススクリーン

ファインダー撮影時の設定を表示します。
（説明のため全項目を表示しています。実際に表示される画面とは異なります。）





1 撮影モード（p.80）
2 AEロック（p.94）
3 GPS測位状態
4 カスタムイメージ（p.155）
5 HDR撮影（p.149）／
デジタルフィルター（p.159）
6 フォーカスモード（p.99）
7 測光方式（p.95）
8 Shake Reduction（p.114）／
自動水平補正（p.116）
9 バッテリー／電池残量（p.47）
10 前／後電子ダイヤル操作ガイド
11 シャッター速度
12 絞り値
13 ISO感度（p.85）
14 露出補正（p.90）／
露出ブラケット（p.91）
15 露出バー
16 ISO感度（p.85）
17 ストロボモード（p.66）
18 測距点（p.102）
19 ドライブモード（p.74）
20 ホワイトバランス（p.143）
21 ストロボ光量補正（p.68）
22 ホワイトバランス微調整（p.144）
23 インターバル撮影枚数／
多重露出撮影枚数
24 記録形式（p.141）
25 JPEG記録サイズ（p.141）
26 JPEG画質（p.142）
27 撮影可能枚数／
⦿ボタン操作ガイド

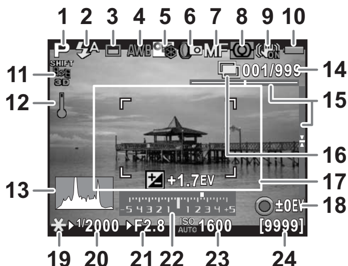
※ 3は別売のGPSユニットを装着し、GPSユニットが動作している場合のみ表示されます。（p.263）

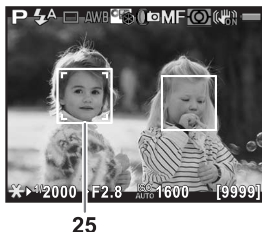


ステータススクリーンは何も操作しないと、30秒で消灯します。また、撮影直後は2秒後に消灯します。**INFO**ボタンを押すと、再度表示されます。

●ライブビュー

LV/🗑ボタンを押すと表示され、画像モニターで構図を確認しながら撮影ができます。
（説明のため全項目を表示しています。実際に表示される画面とは異なります。）





1	撮影モード（p.80）	**13**	ヒストグラム（p.31）
2	ストロボモード（p.66）／録音レベル（p.129）	**14**	インターバル撮影枚数／多重露出撮影枚数
3	ドライブモード（p.74）	**15**	電子水準器
4	ホワイトバランス（p.143）	**16**	インターバル撮影（p.123）／多重露出（p.126）
5	カスタムイメージ（p.155）	**17**	AFフレーム
6	HDR 撮影（p.149）／デジタルフィルター（p.159）	**18**	⦿ボタン操作ガイド
7	フォーカスモード（p.99）	**19**	AEロック（p.94）
8	測光方式（p.95）	**20**	シャッター速度
9	Shake Reduction（p.114）／自動水平補正（p.116）／Movie SR（p.129）	**21**	絞り値
		22	露出バー
		23	ISO感度（p.85）
10	バッテリー／電池残量（p.47）	**24**	撮影可能枚数
11	GPS測位状態	**25**	顔検出枠
12	温度警告		

※ 11は別売のGPSユニットを装着し、GPSユニットが動作している場合のみ表示されます。（p.263）
※ 15は「電子水準器」をオンに設定している場合に表示されます。（p.210）
※ 17は白で表示され、ピントが合うと緑、合わなかったときは赤になります。**MF**モードのときは表示されません。（p.65）
※ 25は「コントラストAF」を「顔検出」に設定していて顔を検出した場合に、メイン顔検出枠は黄色、その他は白で表示されます。（p.104）

注意

- 低輝度または高輝度の撮影条件の場合、ライブビュー画像と撮影結果が異なる場合があります。
- ライブビュー中に光源が変化すると、画面がちらつくことがあります。「🔧詳細設定2」メニューの「フリッカー低減」でご使用の地域の電源周波数に設定することで、ちらつきを抑えることができます。
- ライブビュー中にカメラの向きを変えるなどの急激な変化があると、適切な明るさで表示されない場合があります。表示が安定するのを待ってから撮影してください。
- 暗い場所ではライブビュー画像にノイズが生じる場合があります。
- ISO感度を高くすると、ノイズや色ムラが生じる場合があります。
- 長時間連続して撮影を行うとカメラ内部の温度が上がり、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切るようにしてください。画質低下を軽減するため、長時間露光や動画撮影時は撮影の間隔をあけ、カメラ内の温度が上昇しないようにしてください。
- ライブビューの表示時間は最長5 分です。5分経過してライブビューが解除されたときは、LV/🗑ボタンを押すとライブビューが再開します。
- カメラ内部の温度が高いと🌡（温度警告）が表示され、ライブビューが表示できない場合があります。その場合は撮影を中断するか、ファインダーを使用して撮影してください。

メモ

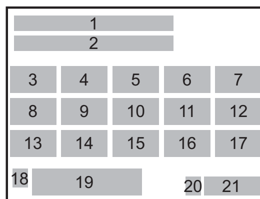
「📷撮影4」メニューの「ライブビュー」で、ライブビュー中の表示について設定できます。（p.105）

● コントロールパネル

撮影待機状態で**INFO**ボタンを押すと表示され、設定が変更できます。（p.37）

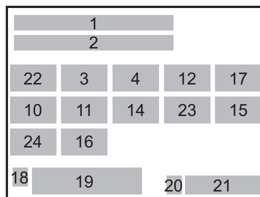
静止画撮影モード





モード





1	機能名称
2	設定
3	カスタムイメージ（p.155）／SCNモード（p.82）
4	デジタルフィルター（p.159）
5	HDR撮影（p.149）
6	測距点切替（p.102）
7	AF.A（p.101）
8	ディストーション補正（p.151）
9	倍率色収差補正（p.151）
10	ハイライト補正（p.148）
11	シャドー補正（p.148）
12	測光方式（p.95）
13	記録形式（p.141）
14	JPEG記録サイズ（p.141）／動画記録サイズ（p.129）
15	JPEG画質（p.142）／動画画質（p.129）
16	Shake Reduction（p.114）／Movie SR（p.129）
17	コントラストAF（p.104）
18	目的地設定（p.207）
19	現在日時（p.58）
20	SDメモリーカードの状態
21	撮影可能枚数／録画可能時間
22	露出設定（p.128）
23	フレームレート（p.129）
24	録音レベル（p.129）



- コントロールパネルは何も操作しないと、1分で撮影待機状態に戻ります。
- ステータススクリーンとコントロールパネルの配色を変更することができます。「🔧詳細設定1」メニューの「画面表示」で設定します。（p.210）

● 撮影情報表示選択

コントロールパネルが表示されているときに**INFO**ボタンを押すと、ファインダー撮影時の待機中の表示情報が選択できます。十字キー（▲▼◀▶）で画面の種類を選択して**OK**ボタンを押します。

画面の種類	表示情報
ステータススクリーン	ファインダー撮影時の設定を表示します。（p.23）
電子水準器	カメラの傾きを表示します。下側に左右方向、右側に上下方向の傾きが表示されます。傾きが検出できないときは、バーグラフの両端・中央が赤で点滅します。 シャッターボタンを半押しすると、ステータススクリーンの表示に戻ります。 （例）左1.5°（黄） 上下傾きなし（緑）
画像モニターオフ	画像モニターを表示しません。
電子コンパス	現在地の緯度・経度・高度とカメラの向き（方位）、協定世界時を表示します。シャッターボタンを半押しするか電源を入れ直すと、ステータススクリーンの表示に戻ります。 別売のGPSユニットを装着してGPSユニットが動作しているときのみ選択できます。（p.263）



モードダイヤルが🎥になっているときは、撮影情報表示選択画面は表示されません。



- 電子水準器／画像モニターオフに設定した場合、電源を入れ直すとステータススクリーンの表示に戻ります。「📷撮影4」メニューの「モードメモリ」で「撮影情報表示」をオンに設定すると、次に電源を入れたときに設定した画面から表示されます。（p.216）
- ライブビュー撮影時は、ライブビュー画像と撮影の設定情報が表示されます。設定情報を表示したくない場合は「📷撮影4」メニューの「ライブビュー」で変更できます。（p.105）

再生時

再生モードの1画像表示では、撮影した画像と撮影時の情報が表示されます。

☞画像を再生する（p.70）

INFOボタンを押すと、1画像表示中の表示情報が選択できます。十字キー（▲▼◀▶）で画面の種類を選択して**OK**ボタンを押します。



1画像表示
（標準情報表示）





再生情報表示選択

画面の種類	表示情報
標準情報表示	撮影画像と記録形式、操作ガイドを表示します。
詳細情報表示	撮影時の詳細情報を2ページで表示します。（p.29）
ヒストグラム表示	画像と輝度ヒストグラムを表示します。（p.31） 動画のときは、選択できません。
RGBヒストグラム表示	画像とRGBヒストグラム表示します。（p.31） 動画のときは、選択できません。
情報表示なし	撮影画像のみを表示します。

次に再生モードにしたときには、ここで選択した情報が表示されます。



- 「撮影4」メニューの「モードメモリ」で「再生情報表示」をオフに設定すると、電源を入れるたびに「標準情報表示」から表示されます。（p.215）
- 「再生1」メニューの「白とび黒つぶれ警告」（p.176）をオンに設定すると、白とび部分は赤、黒つぶれ部分は黄色で点滅表示されます。詳細情報表示／RGBヒストグラム表示のときは表示されません。

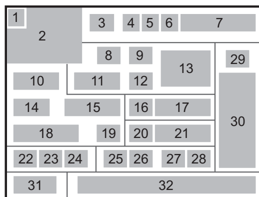
● 詳細情報表示

十字キー（▲▼）でページを切り替えます。
（説明のため全項目を表示しています。実際に表示される画面とは異なります。）

1ページ目

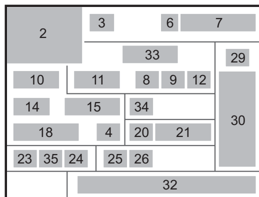
静止画





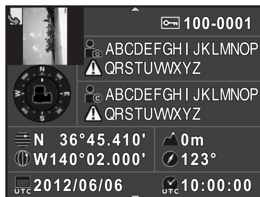
動画

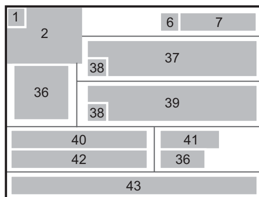






2ページ目





1 回転情報（p.183）
2 撮影画像
3 撮影モード（p.80）
4 デジタルフィルター（p.159）
5 DPOF設定（p.224）
6 プロテクト（p.220）
7 フォルダー No.-ファイルNo.
8 ドライブモード（p.74）
9 測光方式（p.95）
10 シャッター速度
11 レンズ焦点距離

12 Shake Reduction（p.114）／
自動水平補正（p.116）／
Movie SR（p.129）

13 フォーカスモード（p.99）／
測距点（p.102）／コントラスト
AF（p.104）

14 絞り値

15 露出補正（p.90）

16 ストロボモード（p.66）

17 ストロボ光量補正（p.68）

18 ISO感度（p.85）

19 HDR撮影（p.149）／
多重露出（p.126）

20 ホワイトバランス（p.143）

21 ホワイトバランス微調整（p.144）

22 記録形式（p.141）

23 JPEG記録サイズ（p.141）／
動画記録サイズ（p.129）

24 JPEG画質（p.142）／
動画画質（p.129）

25 ハイライト補正（p.148）

26 シャドー補正（p.148）

27 ディストーション補正（p.151）

28 倍率色収差補正（p.151）

29 画像仕上（p.155）

30 カスタムイメージパラメーター
（p.156）

31 色空間（p.142）

32 撮影日時

33 記録時間

34 録音レベル（p.129）

35 フレームレート（p.129）

36 方位

37 撮影者名（p.222）

38 情報改ざん警告

39 著作権者名（p.223）

40 緯度

41 高度

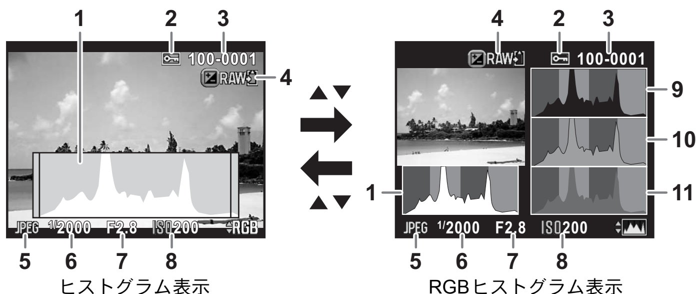
42 経度

43 協定世界時

※ 36・40～43はGPS情報が記録されている場合のみ表示されます。

● ヒストグラム表示／RGBヒストグラム表示

十字キー（▲▼）でヒストグラム表示とRGBヒストグラム表示を切り替えられます。



ヒストグラム表示　　RGBヒストグラム表示

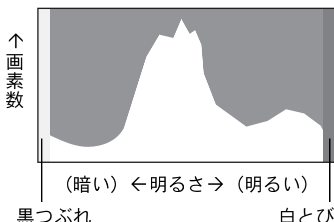
1	ヒストグラム（輝度）	7	絞り値
2	プロテクト	8	ISO感度
3	フォルダー No.-ファイルNo.	9	ヒストグラム（R）
4	RAW形式追加保存可能	10	ヒストグラム（G）
5	記録形式	11	ヒストグラム（B）
6	シャッター速度		

※ 4は直前に撮影した画像がJPEG 形式で、RAW画像の追加保存ができる場合のみ表示されます。（p.70）

ヒストグラムの見かた

ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表したグラフです。横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさの画素数を積み上げて示します。

撮影の前後にヒストグラムの形状や分布を見ることで、露出レベルと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断に利用できます。



☞露出を補正する （p.90）
☞明るさを補正する （p.148）

画像の中で、暗すぎてヒストグラムの左端よりも左になる部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明るすぎてヒストグラムの右端よりも右になる部分は真っ白になってしまいます（白とび）。
本機は、撮影時または再生時に、黒つぶれ／白とび部分を警告表示することができます。

☞再生モードの表示を設定する （p.176）
☞クイックビューの表示を設定する （p.212）

「RGBヒストグラム表示」では各色の強度分布を表示します。ホワイトバランスがうまく調整されている画像は、各色のグラフ右部分が似た形になります。1色だけ左に偏っている場合などは、色がかぶっているといえます。

☞ホワイトバランスを設定する （p.143）

操作ガイド

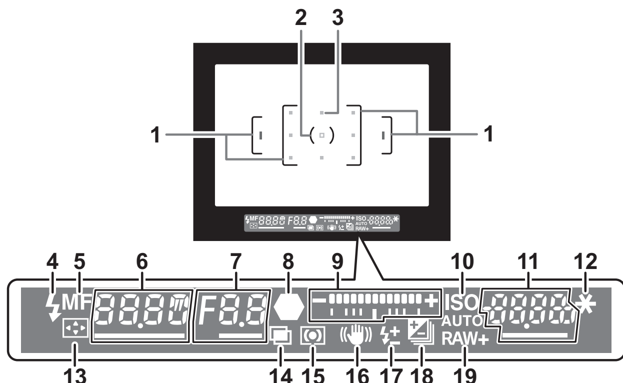
画像モニターには、その状態で操作できるボタン等を示すガイドが表示されます。

（表示例）

▲	十字キー（▲）	◉	◉ボタン
▼	十字キー（▼）	INFO	**INFO**ボタン
◀	十字キー（◀）	☑	☑ボタン
▶	十字キー（▶）	🗑	**LV**/🗑ボタン
MENU	**MENU**ボタン	AF/AE-L	**AF**/**AE-L**ボタン
OK	**OK**ボタン	RAW/Fx Fx	**RAW**/**Fx**ボタン
前ダイヤル	前電子ダイヤル	SHUTTER	シャッターボタン
後ダイヤル	後電子ダイヤル		

ファインダー

ファインダー撮影時は、ファインダー内に以下の情報が表示されます。



1　AFフレーム

2　スポット測光フレーム（p.95）

3　測距点（p.102）
シャッターボタン半押しでオートフォーカスに使われた測距点が赤く点灯（スーパーインポーズ）（p.102）

4　ストロボマーク（p.69）
点灯：ストロボ発光可能
点滅：ストロボ充電中、またはストロボ発光が必要なとき

5　フォーカスモード（p.99）
MFのときに点灯

6　シャッター速度
調整可能なときはアンダーラインが点灯
ノイズリダクション処理中は、処理時間をカウントダウン表示（p.96）

7　絞り値
調整可能なときはアンダーラインが点灯
ノイズリダクション処理中は「**nr**」が点滅表示（p.96）

8　合焦マーク（p.63）
点灯：ピントが合ったとき
点滅：ピントが合わなかったとき

9　露出バー
露出補正値、または**M**モードの適正露出値との差を表示（p.88、p.90）
「電子水準器」がオンに設定されているときは、カメラの傾きを表示（p.35）

10 **ISO／ISO AUTO**（p.85）
ISO感度表示中に点灯

11 **ISO感度／撮影可能枚数**
調整可能なときはアンダーラインが点灯
撮影直後は撮影可能枚数を表示（最大「9999」）
露出補正中は補正値を表示
Mモードで「電子水準器」がオンに設定されているときは、適正露出との差を表示

12 **AEロック**（p.94）
AEロック中に点灯

13 **測距点移動**（p.103）
測距点が移動できるときに点灯

14 **多重露出**（p.126）
多重露出が設定されているときに点灯

15 **測光方式**（p.95）
中央重点／スポットのときに点灯

16 **手ぶれ補正**（p.114）
Shake Reductionが有効なときに点灯

17 **ストロボ光量補正**（p.68）
ストロボ光量補正時に点灯

18 **露出補正**（p.90）／**露出ブラケット**（p.91）
露出補正時、露出ブラケット設定時に点灯

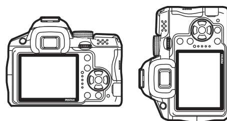
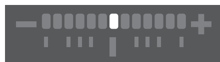
19 **記録形式**（p.141）
RAW／RAW+のときに点灯



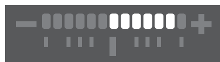
ファインダー内の表示は、シャッターボタン半押し時と、測光作動時間（初期設定：10秒）の間に表示されます。（p.95）

● 電子水準器表示

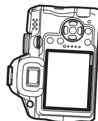
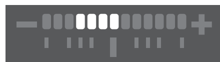
「◘撮影3」メニューの「電子水準器」をオンに設定すると、カメラが左右方向に傾いているときに露出バーに傾きを表示します。初期設定はオフに設定されています。（p.210）

水平時（傾き0°）

左下がりに5°傾いているとき

縦位置に構えて右下がりに3°傾いているとき

機能の設定方法

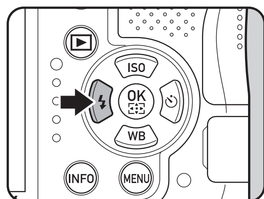
機能は、ダイレクトキー／コントロールパネル／メニューのいずれかで設定します。
ここでは、基本的な機能の設定方法を説明します。

ダイレクトキーで設定する

撮影待機状態で十字キー（▲▼◀▶）を押すと、ISO感度／ホワイトバランス／ストロボモード／ドライブモードが設定できます。（p.74）
ここでは「ストロボモード」を設定する場合を例に説明します。

1 撮影待機状態で十字キー（◀）を押す

ストロボモードを設定する画面が表示されます。

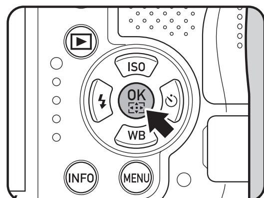


2 十字キー（◀▶）でストロボモードを選ぶ



3 OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

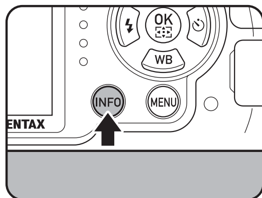


コントロールパネルで設定する

撮影待機中にコントロールパネルに切り替えて設定が変更できます。
ここでは「JPEG画質」を設定する場合を例に説明します。

1 撮影待機状態で INFO ボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。



2 十字キー（▲▼◀▶）で変更する項目を選ぶ

変更できない項目は選択できません。



3 OK ボタンを押す

選択した項目の設定画面が表示されます。



4 十字キー（◀▶）または後電子ダイヤル（）で設定値を選ぶ



5 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。
続けて他の項目が設定できます。

6 MENUボタンを押すか、シャッターボタンを半押しする

撮影できる状態になります。



手順2で変更する項目を選択している状態で、後電子ダイヤル（）を回して設定を変更することもできます（モードの「録音レベル」は、手順4の画面が表示されないため、この操作で設定します）。カスタムイメージ／デジタルフィルターの詳細設定は、**OK**ボタンを押してから変更します。

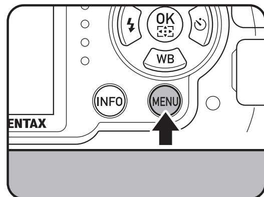
メニューで設定する

「撮影」／「動画」／「再生」／「詳細設定」／「**C**カスタム」メニューの操作方法を説明します。
ここでは「撮影3」メニューの「長秒時NR」を設定する場合を例に説明します。

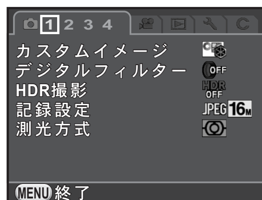
1 撮影待機状態で MENU ボタンを押す

画像モニターに「撮影1」メニューが表示されます。
次のときは、それぞれ以下のメニューが表示されます。

モードダイヤル	「動画1」メニュー
再生モード	「再生1」メニュー



2 十字キー（▶）を2回押す

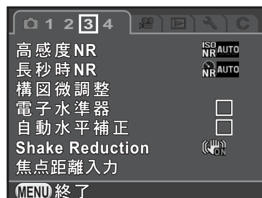


1回押すごとに「📷撮影2」→「📷撮影3」→「📷撮影4」→「🎥動画1」・・・と順に切り替わります。

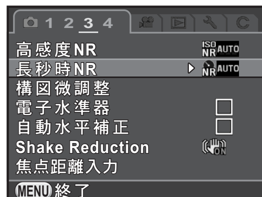
後電子ダイヤル（）を回して切り替えることもできます。

前電子ダイヤル（）を右に回すと、「📷撮影1」→「🎥動画1」→「▶再生1」→「🔧詳細設定1」→「Cカスタム1」と切り替わります。

3 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ



4 十字キー（▶）を押す



ポップアップまたはサブメニューに設定できる項目が表示されます。

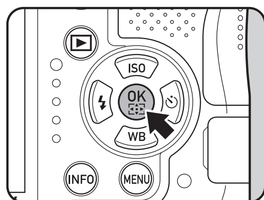
5 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ



MENUボタンを押すと、ポップアップの取り消し、または1つ前の画面に戻ります。

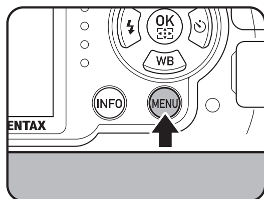
6 OKボタンを押す

設定が決定されます。
サブメニューが表示されていたときは、**MENU**ボタンを押します。
続けて他の項目が設定できます。



7 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。





電源を入れたままバッテリーを取り出したりするなど誤った操作で電源を切ると、設定が保存されないことがあります。



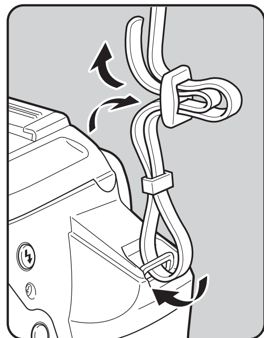
- 次にメニューを表示したときに、直前に選択したメニューのページから表示するか、常に「撮影1」から表示するかを設定できます。(p.213)
- 各メニューの設定内容は、以下を参照してください。
  - 「撮影」メニュー ☞p.75
  - 「動画」メニュー ☞p.77
  - 「再生」メニュー ☞p.175
  - 「詳細設定」メニュー ☞p.204
  - 「**C** カスタム」メニュー ☞p.78

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮影するまでに必要な準備を説明しています。必ずお読みになり、撮影を始める前に操作をしてください。

ストラップを取り付ける

1 **ストラップの先端をカメラの吊り環に通し、留め具の内側に固定する**



2 **もう一方も同様に取り付ける**

バッテリー／電池をセットする

カメラにバッテリーまたは電池をセットします。

バッテリーを使用する

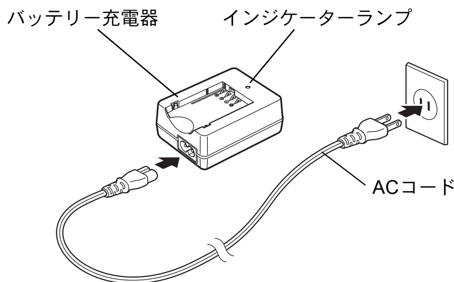
バッテリーは専用の充電式リチウムイオンバッテリー D-LI109を使用します。

バッテリーを充電する

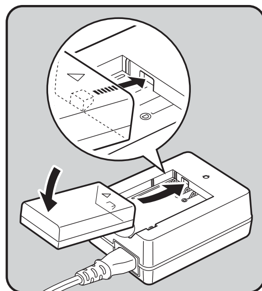
初めて使用するときや長時間使用しなかったとき、「電池容量がなくなりました」というメッセージが表示されたときは、バッテリーを充電してください。

1 バッテリー充電器にACコードを接続する

2 ACコードをコンセントに差し込む



3 バッテリーを ▲ マークがある面を上にしてセットする



図のようにバッテリーをバッテリー充電器に斜めに差し込んでからはめ込みます。

充電中はインジケーターランプが点灯します。

充電が完了すると、インジケーターランプが消灯します。

4 充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り外す



- 付属のバッテリー充電器 D-BC109では、D-LI109以外は充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- 次の場合は、新しいバッテリーと交換してください。
  - バッテリー充電器に正しくセットしてもインジケーターランプが点滅する、または点灯しない
  - 正しく充電しても使用できる時間が短い（バッテリーの寿命）



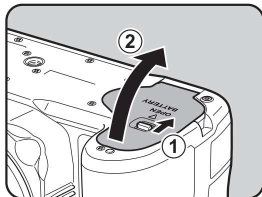
充電時間は、最大で約240分です（周囲の温度や充電状態によって異なります）。周囲の温度が0〜40℃の範囲で充電してください。

バッテリーを入れる

注意

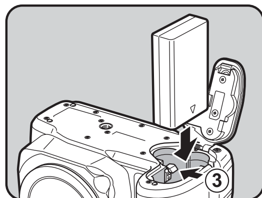
- 電源が入っているときにバッテリーカバーを開けたり、バッテリーを取り出したりしないでください。
- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると、取り出せなくなる場合があります。また、バッテリーの電極は、乾いた柔らかい布で拭いてから入れてください。
- カメラを長時間連続で使用した場合は、本体やバッテリーが熱くなっていることがありますのでご注意ください。
- 長い間使わないときは、カメラからバッテリーを取り出しておいてください。長期間入れたままにしておくと、バッテリーが液漏れを起こすことがあります。また、取り出したバッテリーを半年以上使用しない場合は、30分程度充電してから保管してください。その後も半年から1年ごとに再充電してください。
- バッテリーは、高温になる場所を避け、室温以下を保持できる場所に保管してください。
- 長期間バッテリーをセットしていないと、日時がリセットされることがあります。その場合は、「日時を設定する」（p.58）の手順に従って、設定し直してください。

1 バッテリーカバー開放レバーを矢印の方向（①）にスライドさせてバッテリーカバーを開ける（②）



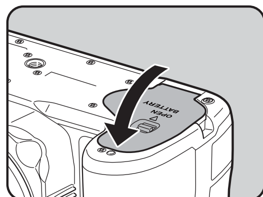
2 バッテリーの ▲ マークをカメラの外側に向けてロックするまで挿入する

バッテリーを取り出すときは、バッテリーロックレバーを矢印③の方向に押します。



3 バッテリーカバーを閉める

バッテリーカバーがロックされます。



電池を使用する

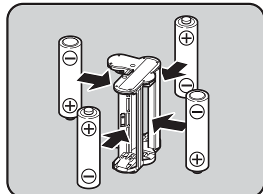
単3形電池を使用する場合は、別売の単3形電池ホルダー D-BH109をご用意ください。
電池は、単3形リチウム電池／単3形ニッケル水素充電池／単3形アルカリ電池のいずれか4本を使用します。

対応電池	特性
単3形リチウム電池	低温に強く、寒い地域での撮影に向いています。
単3形ニッケル水素充電池（Ni-MH）	充電して繰り返し使用できます。 充電には、ご使用の充電池に対応した充電器が必要です。
単3形アルカリ電池	手軽に入手できますが、使用条件によってはカメラの性能が十分に発揮できない場合があります。緊急時や動作確認用としてご使用ください。

注意
- 電池使用時の注意事項は、「電池の取り扱いについて」（p.3）を参照してください。
- 容量が1000mAh程度の単3形ニッケル水素充電池を使用すると、すぐに使えなくなる場合があります。ニッケル水素充電池を使用する場合は、容量が大きいものを使用してください。

1 電池ホルダーに単3形電池をセットする

電池ホルダーの＋／－の表示に合わせて入れてください。



2 バッテリーカバーを開ける

p.45の手順1を参照してください。
バッテリーがセットされていた場合は、バッテリーを取り出します。

3 バッテリー室に電池ホルダーを挿入し、バッテリーカバーを閉める



- 単3形電池を使用するときは、「詳細設定3」メニューの「単3形電池の種類」を設定してください。（p.214）
- 正しく作動しないときは、電池の向きを確認してください。

バッテリー／電池残量の確認

ステータススクリーン／ライブビューに表示された で、バッテリー／電池の残量が確認できます。

表示	バッテリー／電池の状態
（緑）	容量が十分に残っています。
（緑）	少し減っています。
（黄）	だいぶ減っています。
（赤）	残量がほとんどありません。
「電池容量がなくなりました」	メッセージ表示後、電源が切れます。



- 低温下や連続撮影を続けた場合、容量が十分に残っていても ／ （赤）が点灯することがあります。
- 使用環境の温度が下がると、バッテリーや電池の性能が低下します。寒冷地で使用する場合は、予備のバッテリー／電池を用意して、衣服の中で保温するなどしてご使用ください。なお、低温によって低下したバッテリー／電池の性能は、常温の環境で元に戻ります。
- 海外旅行などで大量に撮影する場合は、予備のバッテリーや電池をご用意ください。

リサイクルについて



このマークは小型充電式電池のリサイクルマークです。
ご使用済みの小型充電式電池を廃棄するときは、端子部に絶縁テープを貼って、小型充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

ACアダプター（別売）を使用する

画像モニターを長時間使用するときや、パソコンやAV機器と接続するときは、別売のACアダプターキット K-AC128Jのご使用をお勧めします。



ACアダプターキット K-AC128Jは、ACアダプター D-AC120、DCカプラー D-DC128、ACコード D-CO2J のセットです。

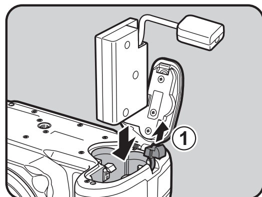
1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 バッテリーカバーを開ける

p.45の手順1を参照してください。

バッテリー／電池がセットされていた場合は、バッテリー／電池を取り出します。

3 バッテリーカバー右側の接続ケーブルカバー（①）を引き出してから、バッテリー室にDCカプラーを挿入する

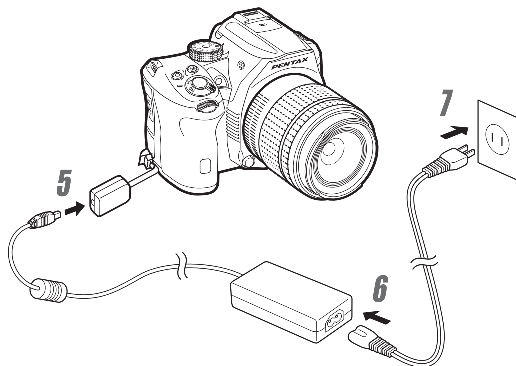


4 バッテリーカバーを閉める

接続ケーブルカバー部分から接続ケーブルが引き出されます。



5 DCカプラーとACアダプターを接続する



6 ACアダプターをACコードに接続する

7 ACコードをコンセントに差し込む

注意
- ACアダプターを接続または外すときは、必ずカメラの電源をオフにしてください。
- 各端子は正しく接続してください。カメラがSDメモリーカードにアクセス中に接続部が外れると、SDメモリーカードやデータが破損するおそれがあります。
- ACアダプターを使用しているときは、カメラから接続ケーブルが引き出された状態になりますので注意してください。
- DCカプラーを取り出したら、接続ケーブルカバーを元に戻してください。

メモ
- ACアダプターを接続しているときは、バッテリー／電池残量表示が DC IN になります。
- ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキットの使用説明書を併せて参照してください。

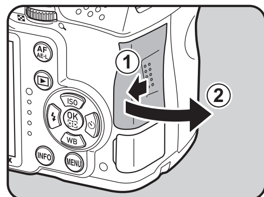
SDメモリーカードを入れる

本機では、市販のSDメモリーカードが使用できます。
SDメモリーカードを入れるときや取り出すときは、必ず電源をオフにしてください。

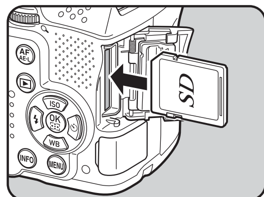
注意
- カードアクセスランプ点灯中は、絶対にSDメモリーカードを取り出さないでください。
- 使用中にカードカバーを開けないでください。
- 未使用または他の機器で使用したSDメモリーカードは、必ず本機でフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットの方法は「SDメモリーカードをフォーマットする」（p.219）を参照してください。
- 動画を撮影する場合は、高速のSDメモリーカードを使用してください。書き込みが間に合わなくなると、撮影途中で終了する場合があります。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

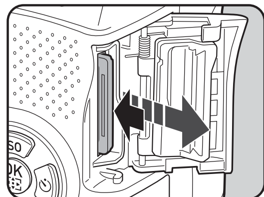
2 カードカバーを矢印の方向にスライドさせてから開く（①→②）



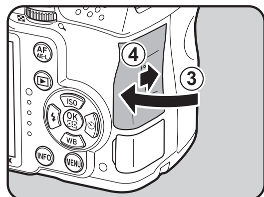
3 SD メモリーカードのラベル面を画像モニター側に向け、奥まで押し込む



SDメモリーカードを取り出すときは、カードをさらに押し込みます。



4 カードカバーを閉じ（③）、矢印の方向にスライドさせる（④）





カードカバーは完全に閉じてください。カードカバーが開いていると電源が入りません。



SDメモリーカードに記録できる枚数の目安は、「記録サイズ別撮影可能枚数の目安」（p.277）を参照してください。

レンズを取り付ける

カメラ本体にレンズを取り付けます。
本機では、以下のレンズを使うと、カメラの撮影モードがすべて利用できます。

(a) DA・DA L・D FA・FA Jレンズ
(b) 絞り**A**（オート）位置があるレンズを**A**位置で使用

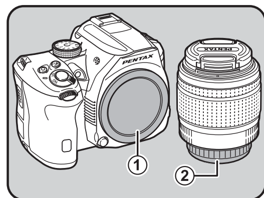
注意

- レンズの取り付け／取り外しは、ゴミやほこりの少ない場所で行ってください。
- 持ち運ぶときなどカメラ本体にレンズを取り付けていないときは、必ずボディマウントカバーを装着してください。
- 取り外したレンズには、必ずレンズマウントカバーとレンズキャップを取り付けてください。
- カメラのマウント内に指を入れたり、ミラーを触ったりしないでください。
- カメラやレンズのマウント部分には、レンズ情報接点があります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系統のトラブルの原因になる場合があります。もし汚れたときは、弊社修理センターにご相談ください。
- (b）のレンズを絞り**A** 位置以外で使用した場合や、上記以外のレンズやアクセサリーを使用する場合は、機能が制限されます。「各種レンズを組み合わせたときの機能」(p.255）を参照してください。
- 焦点距離が自動取得できないレンズを装着した場合は、電源を入れると「焦点距離入力」画面が表示されます。「レンズ焦点距離を入力する」(p.258）を参照してください。
- 本製品に他社製レンズを使用されたことによる事故、故障、不具合などにつきましては保証いたしかねます。

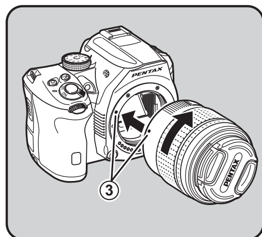
1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 ボディマウントカバー（①）とレンズマウントカバー（②）を取り外す

レンズマウントカバーを外したレンズは、マウント周辺を傷つけないため、カメラに取り付ける面を上にして置いてください。

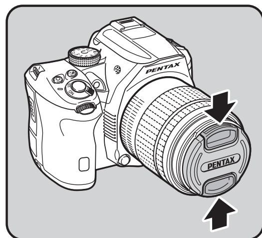


3 カメラとレンズのマウント指標（赤点、③）を合わせて差し込み、「カチッ」と音がするまでレンズを右に回してレンズを取り付ける



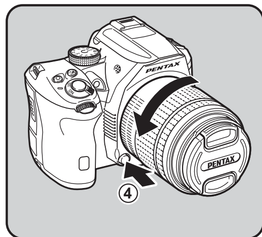
レンズ取り付け後、レンズを左に回してロックされていることを確認してください。

4 図の矢印部分を内側に押してレンズキャップを取り外す



レンズの取り外し

レンズキャップを取り付け、レンズ取り外しボタン（④）を押しながらレンズを左へ回します。



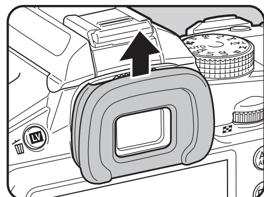


ボディマウントカバー（①）は工場出荷時の傷やほこり防止用のものです。別売アクセサリーとして、ロック機構付きのボディマウントキャップ Kをご用意しています。

ファインダーの視度を調整する

撮影者の視力に合わせて、ファインダーの視度が調整できます。
工場出荷時には、ファインダー部にアイカップFRが装着されています。
アイカップを付けたままでも視度調整は可能ですが、アイカップを外すと調整しやすくなります。

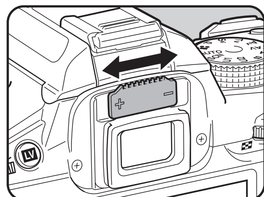
1 アイカップを矢印の方向に引っ張って外す



2 ファインダーをのぞきながら視度調整レバーを左右に動かす

ファインダー内のAFフレームがはっきり見える位置に調整します。

白い壁などの明るくて色ムラのない方へカメラを向けると調整しやすくなります。





AFフレーム

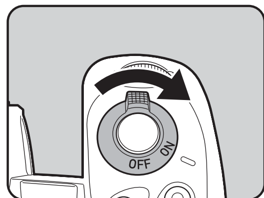
3 アイカップをファインダーアイピースの溝にはめる



別売の拡大アイカップ O-ME53もご使用いただけます。

電源を入れる

1 電源レバーを「ON」に合わせる



電源が入ります。
電源レバーを「OFF」に合わせると電源が切れます。



- カメラを使用しないときは、必ず電源を切ってください。
- 一定時間操作をしないと、自動的に電源が切れます（オートパワーオフ）。復帰するときは電源を入れ直すか、次のいずれかの操作をしてください。
  - シャッターボタンを半押しする
  - **MENU**ボタン／**INFO**ボタンのどちらかを押す
- オートパワーオフの初期設定は1分です。「詳細設定2」メニューの「オートパワーオフ」で変更できます。（p.214）
- ボタンを押しながら電源を入れると、再生モードで起動します。

初期設定をする

工場出荷後にカメラの電源を初めて入れると、画像モニターに「Language/言語」画面が表示されます。以下の手順に従って、画像モニターに表示される言語と現在の日時を設定してください。

日本語で「日時設定」画面が表示されたときは、「日時を設定する」（p.58）に進んでください。

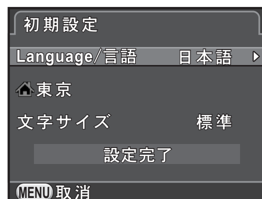


言語を設定する

使用する言語を設定します。

1 十字キー（▲▼）で「日本語」を選択してOKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。
右図のように⌂が「東京」に設定されていた場合は、手順6に進んでください。



2 十字キー（▼）でカーソルを⌂に移動し、十字キー（▶）を押す

「⌂現在地」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で都市を「東京」にする

後電子ダイヤル（）を回すと、地図表示が切り替わります。

指定できる都市については、「都市名一覧」（p.209）を参照してください。



4 十字キー（▼）で「夏時間」を選び、十字キー（◀▶）で□に設定する

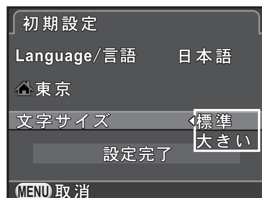
5 OKボタンを押す

「初期設定」画面に戻ります。

6 十字キー（▼）で「文字サイズ」を選び、十字キー（▶）を押す

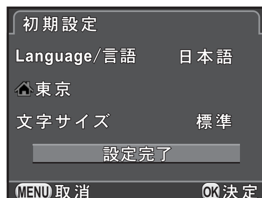
7 十字キー（▲▼）で標準／大きいを選択してOKボタンを押す

「大きい」を選ぶと、選択中のメニュー項目が拡大して表示されます。



8 十字キー（▼）で「設定完了」を選び、OKボタンを押す

「日時設定」画面が表示されます。





- 現在地や日時を設定していない場合は、電源を入れ直したときに再度「初期設定」画面または「日時設定」画面が表示されます。
- 「文字サイズ」は、「詳細設定1」メニューであとから変更することもできます。本書では、以降のメニュー画面は「文字サイズ」を「標準」に設定して説明します。

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付、時刻を設定します。

1 **十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを選択する**

年/月/日／月/日/年／日/月/年から選択できます。



2 **十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で24h／12hを選択する**

3 **OKボタンを押す**

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

4 **十字キー（▼）を押してから十字キー（▶）を押す**

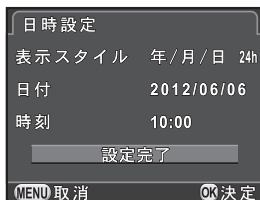
選択枠が西暦年に移動します。

5 **十字キー（▲▼）で西暦年を設定する**

同様に「月」「日」を設定します。
続いて時刻を設定します。
手順2で「12h」を選択した場合は、時刻に連動してAM／PMが切り替わります。



6 十字キー（▼）で「設定完了」を選び、OKボタンを押す



撮影できる状態になります。

メニュー操作で設定した場合は「🔧詳細設定1」メニューに戻るので、**MENU**ボタンを押します。



- 手順6で**OK**ボタンを押したときに、秒数は0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確な日時設定ができます。
- 日時設定の途中で**MENU**ボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされ、撮影できる状態になります。
- 設定した言語や日時は、「🔧詳細設定 1」メニューであとから変更することができます。

メモ

3 使ってみよう

この章では、簡単な操作で失敗のない写真が撮影できる方法として、モードダイヤルを**AUTO**（オートピクチャー）に設定した場合の基本操作を説明しています。

高度な機能や意図に合った撮影をするための設定については、4章以降を参照してください。

撮影の基本操作

カメラまかせで撮影する

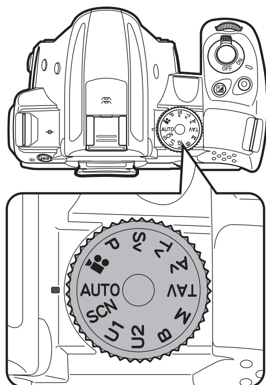
本機には、さまざまな撮影モードやフォーカスモード、ドライブモードが備わっています。ここでは、基本的にシャッターボタンを押すだけの最も簡単な撮影方法を説明します。
ファインダーをのぞいて撮影する方法と、画像モニターを見ながら撮影する方法があります。

ファインダーを使って撮影する

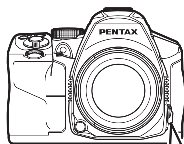
1 **モードダイヤルを AUTO に合わせる**

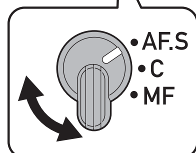
撮影モードが**AUTO**モードになります。

☞撮影モードを選ぶ（p.80）



2 フォーカスモードレバーを AF.S に合わせる

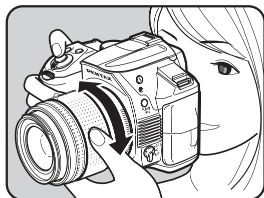




AUTO モードでは、**AF.A**（オートフォーカス・オート）モードになります。

☞フォーカスモードを設定する （p.99）

3 ファインダーをのぞいて被写体を確認する



ズームレンズを装着している場合は、ズームリングを左右に回すと画角が変わります。

4 AFフレームに被写体を入れてシャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります（フォーカスロック）。

AUTO モードでは、（標準）／（人物）／（風景）／（マクロ）／（動体）／（夜景人物）／（夕景）／（青空）／（フォレスト）から最適な撮影モードをカメラが自動的に選択します。（p.81）



ストロボ発光表示　合焦マーク

周囲が暗い場合はAF補助光が発光します。ストロボ発光が必要な場合には、ファインダー内のストロボ発光表示⚡が点滅します。⚡ボタンを押してストロボをポップアップしてください。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。
この動作を「シャッターをきる」「レリーズ」といいます。

6 画像モニターで撮影した画像を確認する

撮影直後には、画像モニターに画像が1秒間表示されます（クイックビュー）。

クイックビュー表示中は、以下の操作ができます。

ボタン・ダイヤル等の操作

LV/🗑ボタン	画像消去（p.71）
後電子ダイヤル（⚙）	拡大表示（p.177）
⊠ボタン	RAW画像を追加保存（p.70）

☞クイックビューの表示を設定する （p.212）



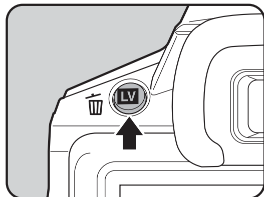
- 合焦時の電子音を鳴らないように設定することもできます。（p.206）
- **AF**/**AE-L** ボタンで合焦動作を行うこともできます。（p.167）
- 撮影前にプレビューを表示して、被写界深度が確認できます。（p.112）



本機は、パワーズーム機能（イメージサイズ指定、ズームクリップ、露光間ズームなど）は使用できません。

ライブビューで撮影する

1 p.63の手順3で LV/🗑 ボタンを押す



画像モニターにライブビュー画像が表示されます。

2 画像モニターのAFフレームに被写体を入れてシャッターボタンを半押しする



AFフレーム

合焦動作が行われます。

ピントが合うとAFフレームが緑になります。

以降の操作は、ファインダーでの撮影と同じです。

ライブビュー撮影を終了するときは、LV/🗑 ボタンを押します。



- フォーカスロック中に**OK**ボタンを押すと、ピントが合った位置を中心に拡大表示ができます（コントラストAF「追尾」以外）。（p.107）
- 本書では、ファインダー撮影を中心に説明します。

内蔵ストロボを使う

周囲が暗い場合や逆光の場合は、ストロボを使用して撮影します。
内蔵ストロボは、被写体との距離がおおよそ0.7～5mの範囲のときに有効です。0.7mより近いと、ケラレ（画像の周辺部が配光不足で黒くなる現象）などが発生します。（この距離は使用するレンズや、ISO感度の設定によって多少異なります。（p.238））



- 内蔵ストロボを使用する場合は、レンズフードを外してください。また、使用するレンズや撮影条件によっては、ケラレが生じることがあります。「使用レンズと内蔵ストロボについて」（p.257）を参照してください。
- 絞り**A**（オート）位置のないレンズでは、内蔵ストロボは常にフル発光になります。

メモ
内蔵ストロボの特徴や外付けストロボを使った撮影など、ストロボについての詳細は「ストロボの活用」（p.235）を参照してください。

ストロボモードを設定する

ストロボモード		機能
⚡A	自動発光	周りの明るさを自動的に測定し、ストロボの発光をカメラが判断します。
⚡A👁	自動発光＋赤目軽減	自動発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
⚡	強制発光	ストロボが常に発光します。
⚡👁	強制発光＋赤目軽減	強制発光の前に、赤目軽減のための予備発光をします。
SLOW⚡	スローシンクロ	明るさによって、遅いシャッター速度に設定されます。夕景などを背景に人物撮影をするときに利用すると、人物も背景もきれいに写すことができます。（p.236）
SLOW👁⚡	スローシンクロ＋赤目軽減	スローシンクロで発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
SLOW▶▶⚡ / ▶▶⚡	後幕シンクロ	シャッターが閉じる直前に発光します。乗り物など動く被写体の光跡を、後ろに流れるように写し込むことができます。
W⚡	ワイヤレスモード	別売の外付けストロボとシンクロコードを使わずに同調させます。（p.242）

撮影モードによって、選択できるストロボモードが異なります。

撮影モード	選択できるストロボモード
AUTO／SCN	⚡A／⚡◉A／⚡／⚡◉／W⚡
P／Sv／Av	⚡／⚡◉／SLOW⚡／SLOW◉⚡／SLOW▶▶⚡／W⚡
Tv／TAv／M／B	⚡／⚡◉／▶▶⚡／W⚡



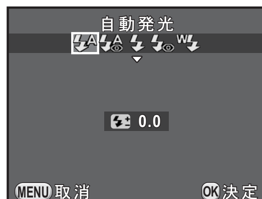
以下の撮影モードではストロボは発光しません。
- 🎥モード
- AUTOモードの（夕景）／（青空）
- SCNモードの（夕景）／（青空）／（夜景）／（夜景HDR）／（逆光シルエット）／（キャンドルライト）／（ステージライト）／（美術館）

1 撮影待機状態で十字キー（◀）を押す

ストロボモードを設定する画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でストロボモードを選択してOKボタンを押す

撮影できる状態になります。





スローシンクロ／後幕シンクロでは、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため「Shake Reduction」をオンに設定するか、カメラを三脚などに固定してください。

ストロボ光量を補正する

ストロボの光量を–2.0～+1.0の範囲で調整することができます。「**C**カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」の設定によって、光量補正値は以下のように設定できます。

露出設定ステップ	設定できる光量補正値
1/3 EV	–2.0／–1.7／–1.3／–1.0／–0.7／–0.3／0.0／+0.3／+0.7／+1.0
1/2 EV	–2.0／–1.5／–1.0／–0.5／0.0／+0.5／+1.0

1 p.67の手順2の画面で十字キー（▼）を押す

2 後電子ダイヤル（）を回す

光量補正値が設定されます。
⦿ボタンを押すと0.0にリセットされます。

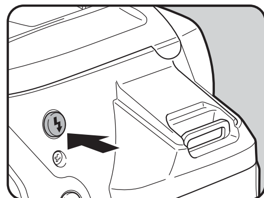




- +側に補正しても、ストロボの最大発光量以上になると効果はありません。
- 被写体に近すぎる場合、絞り値が小さい場合、ISO感度を高く設定している場合などは、–側に補正をしても効果がないことがあります。
- ストロボ光量補正は、P-TTL対応の外付けストロボでも有効です。

内蔵ストロボを使用して撮影する

1 ϟボタンを押す



内蔵ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。充電中は、ファインダー内またはライブビューのϟが点滅表示します。

充電が終わると、ϟが点灯します。

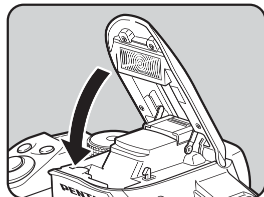
ストロボを発光させたくないときは、内蔵ストロボを収納しておきます。

2 撮影する

ストロボが発光します。

ϟA／ϟ👁A に設定しているときは、内蔵ストロボがポップアップしていても適正露出であれば発光しません。

3 内蔵ストロボを押し下げて収納する





内蔵ストロボの充電中は撮影ができません。充電中にも撮影をしたい場合は、「Cカスタム3」メニューの「17. 充電中のレリーズ」を「オン」に設定します。

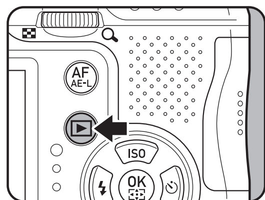
画像を確認する

画像を再生する

撮影した画像をカメラで確認します。

1 ▶ボタンを押す

再生モードの1画像表示になり、最後に撮影した画像が画像モニターに表示されます。



2 画像を確認する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（◀）／ 前電子ダイヤル（ ）左	前の画像を表示
十字キー（▶）／ 前電子ダイヤル（ ）右	次の画像を表示
ボタン	RAW画像追加保存（保存可能なときのみ）



- JPEG 形式で撮影した直前の画像が撮影バッファに残っている場合は、クイックビューまたは再生時にRAW画像を追加保存することができます。（「 撮影4」メニューの「クイックビュー」の「RAW追加保存」をオンに設定している場合（p.212））
  以下の機能を設定して撮影した場合は、それぞれ次の画像が保存されます。
  - 露出ブラケット　　3枚目の画像のRAW画像
  - 多重露出　　多重露出されたRAW画像
  - インターバル撮影　　最後に撮影した画像のRAW画像
  - HDR撮影　　標準露出のRAW画像
  - デジタルフィルター　　フィルターオフのRAW画像

  SCNモードの （夜景HDR）と連続撮影は、RAW画像の追加保存はできません。
- 再生機能の詳細は、「いろいろな再生と画像編集」（p.173）を参照してください。

画像を消去する

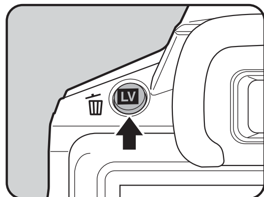
画像を1つずつ消去します。



- 消去した画像は復元できません。
- プロテクトされている画像は消去できません。（p.220）

1 ▶ボタンを押し、消去したい画像を表示する

2 LV/🗑ボタンを押す



消去画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「消去」を選んでOKボタンを押す



画像が消去されます。



- 複数の画像をまとめて消去することもできます。「複数画像を消去する」（p.184）を参照してください。
- 「記録形式」（p.141）がRAW+の画像の場合は、手順3で消去する記録形式が選択できます。

メモ

4 いろいろな撮影

この章では、撮影の基本から応用まで、本機でできるさまざまな撮影方法を説明しています。

撮影関連機能の操作

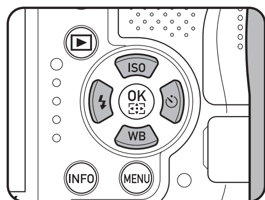
撮影に関する機能は、ダイレクトキー／コントロールパネル／「◘撮影」メニュー／「動画」メニュー／「Cカスタム」メニューで指定します。



ダイレクトキー／メニューの操作方法は、「機能の設定方法」（p.36）を参照してください。

ダイレクトキーの設定項目

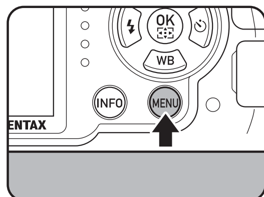
撮影待機状態で十字キー（▲▼◀▶）を押すと、以下の項目が設定できます。



キー	項目	機能	参照
▲	ISO感度	ISO感度を設定します。	p.85
▼	ホワイトバランス	被写体の色を光源に合った適正な色に補正します。	p.143
◀	ストロボモード	ストロボの発光方式を設定します。	p.66
▶	ドライブモード	連続撮影／セルフタイマー／リモコン／露出ブラケットを選択します。	p.121 p.117 p.119 p.91

撮影メニューの設定項目

「📷 撮影1～4」メニューでは、以下の設定を行います。
撮影待機状態で**MENU**ボタンを押すと、「📷 撮影1」メニューが表示されます。



メニュー	項目		機能	参照
📷1	露出モード *1		**U1**／**U2**モードのときの撮影モードを切り替えます。	p.172
	カスタムイメージ *2 *3		色味やコントラストなどの画像の仕上がりイメージを設定します。	p.155
	デジタルフィルター *2		フィルター効果をかけて撮影します。	p.159
	HDR撮影 *2		ハイダイナミックレンジ撮影を行います。	p.149
	記録設定	記録形式 *2	ファイルフォーマットを設定します。	p.140
		JPEG記録サイズ *2	JPEGで記録した場合の記録サイズを設定します。	
		JPEG画質 *2	JPEGで記録した場合の画質を設定します。	
		色空間	使用する色空間を設定します。	
	測光方式 *2		センサーのどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。	p.95
📷2	AF設定	AF.A *2	ファインダー撮影時の **AF.S** ／ **AF.C** の動作を設定します。	p.101
		セレクトエリア拡大	測距点が「セレクト」に設定されているときに、設定した測距点の周囲の情報を利用してファインダー撮影時のピント合わせを行います。	p.103
		測距点切替 *2	ファインダー撮影時にどの部分にピントを合わせるかを設定します。	p.102
		AF補助投光	暗い場所でオートフォーカスするときに、AF補助投光を行うかどうかを設定します。	p.101

メニュー	項目	機能	参照
2	レンズ補正 *2	レンズの特性によって生じる歪曲収差と倍率色収差を軽減します。	p.151
	多重露出	任意の枚数を1枚の画像に合成しながら撮影します。	p.126
	インターバル撮影	指定した時刻から等間隔で自動撮影します。	p.123
	D-Range設定 *2	ダイナミックレンジを拡大し、白とび・黒つぶれを防ぎます。	p.148
3	高感度NR	高感度撮影時のノイズリダクションを設定します。	p.96
	長秒時NR	低速シャッター時のノイズリダクションを設定します。	p.98
	構図微調整	Shake Reductionユニットを移動させることで、構図の位置と傾きを補正します。	p.153
	電子水準器	カメラの傾きを検知する電子水準器をファインダー内とライブビューに表示するかどうか設定します。	p.210
	自動水平補正	画像の左右の傾きを補正します。	p.116
	Shake Reduction *2	手ぶれ補正機能を設定します。	p.114
	焦点距離入力	レンズ焦点距離の情報が取得できないレンズを使用している場合に、レンズ焦点距離を設定します。	p.258
4	ライブビュー	ライブビューの表示とフォーカス方法を設定します。	p.105
	クイックビュー	クイックビューの表示を設定します。	p.212
	電子ダイヤル	前／後電子ダイヤルを操作したときの動作を露出モードごとに設定します。	p.162
	ボタンカスタマイズ	**RAW/Fx**ボタンと**AF/AE-L**ボタンの機能を割り当てます。	p.165
	モードメモリ	電源を切ったときに設定を保存しておく項目を選択します。	p.215
	GPS	別売のGPSユニットを装着したときの動作を設定します。	p.263
	USERモード登録	現在のカメラの設定をモードダイヤルの**U1**／**U2**に登録します。	p.168

*1 モードダイヤルが**U1**／**U2**になっているときのみ表示されます。
*2 コントロールパネルで設定することもできます。
*3 モードダイヤルが**SCN**になっているときは、「シーンモード」が表示されます。

動画メニューの設定項目

「動画1」メニューでは、以下の設定を行います。
モードダイヤルがになっているときに**MENU**ボタンを押すと、「動画1」メニューが表示されます。

メニュー	項目		機能	参照
1	露出設定 *1		動画の露出モードを**P**／**Av**／**M**から選択します。	p.128
	記録設定	記録サイズ *1	動画の記録サイズを設定します。	
		フレームレート *1	1秒あたりのコマ数を設定します。	
		画質 *1	動画の画質を設定します。	
	録音レベル *1		マイクの感度を設定します。	
	Movie SR *1		手ぶれ補正機能を設定します。	
	インターバル動画		指定した時刻から一定間隔で静止画を撮影し、1つの動画ファイルとして記録します。	p.132

*1 コントロールパネルで設定することもできます。

カスタムメニューの設定項目

「Cカスタム1～4」メニューでは、本機の機能を生かして撮影するための設定を行います。

メニュー	項目	機能	参照
C1	1. 露出設定ステップ	露出設定の調整ステップを設定します。	p.90
	2. ISO感度ステップ	ISO感度の調整ステップを設定します。	p.86
	3. 拡張感度	ISO感度の設定範囲を拡張します。	p.86
	4. 測光作動時間	測光タイマーの作動時間を設定します。	p.95
	5. AFロック時のAE-L	フォーカスロック時に露出値も固定するかどうかを設定します。	p.94
	6. 測距点と露出の関連付	「測光方式」が「分割」のときに露出値とAF領域内の測距点を関連付けるかどうかを設定します。	p.95
	7. B時の撮影方法	**B**モードのシャッターボタンの動作を設定します。	p.89
C2	8. ブラケット撮影順	露出ブラケット撮影時の撮影順を設定します。	p.91
	9. ワンプッシュブラケット	露出ブラケット撮影時に1回のレリーズで3枚撮影するかどうかを設定します。	p.93
	10. ストロボ発光時のWB	ストロボ発光時のホワイトバランスの設定を行います。	p.145
	11. 白熱灯下のAWB	ホワイトバランスが**AWB**のときに、白熱灯の色味を残すか補正するかを設定します。	—
	12. 色温度ステップ	色温度の調整ステップを設定します。	p.147
	13. スーパーインポーズ	選択された測距点をファインダー内に表示するかどうかを設定します。	p.102
	14. リモコン時のAF	リモコン撮影するときに、オートフォーカスするかどうかを設定します。	p.120

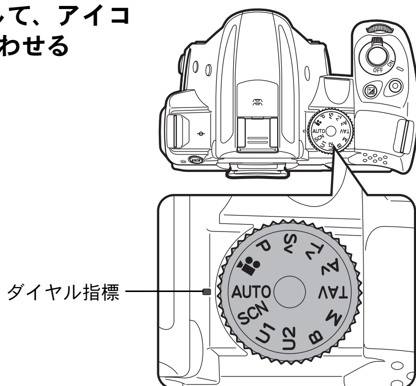
メニュー	項目	機能	参照
C3	15. AF.Sの動作	フォーカスモードが **AF.S** でシャッターボタンを全押ししたときの優先動作を設定します。	p.100
	16. AF.Cの動作	フォーカスモードが **AF.C** で連続撮影するときの優先動作を設定します。	p.100
	17. 充電中のレリーズ	内蔵ストロボの充電中に撮影可能にするかどうかを設定します。	p.69
	18. ワイヤレス時の発光	内蔵ストロボのワイヤレス時の発光方法を設定します。	p.243
	19. 回転情報の記録	撮影時に回転情報を記録するかどうかを設定します。	p.176
	20. メニュー選択の記憶	直前に操作したメニューを記憶し、次に **MENU** ボタンを押したときも同じ画面を表示するかどうかを設定します。	p.213
	21. キャッチインフォーカス	マニュアルフォーカスレンズを取り付けたときに、ピントが合うと自動的にシャッターがきれるキャッチインフォーカス撮影ができます。	p.111
C4	22. AF微調整	オートフォーカスのピント位置の微調整を行います。	p.110
	23. 絞りリングの使用	レンズの絞りリングが **A** 位置以外のときに撮影可能にするかどうかを設定します。	p.259
	カスタムのリセット	「**C** カスタム1～4」メニューの各項目の設定内容を初期状態に戻します。	p.217

撮影モードを選ぶ

本機には多彩な撮影モードがあります。用途に合わせて、撮影モードを選択してください。
本書では撮影モードを以下のように呼びます。

撮影モード	特徴	参照
AUTO（オートピクチャー）モード	カメラが自動的に最適な撮影モードを選択します。	p.81
SCN（シーン）モード	さまざまな撮影シーンから撮影モードを選択します。	p.82
露出モード（P／Sv／Tv／Av／TAv／M／B）	シャッター速度と絞り値を設定して撮影します。	p.84
（動画）モード	動画を撮影します。	p.130
USERモード（U1／U2）	任意に登録した設定で撮影します。2種類の設定が登録できます。	p.168

1 モードダイヤルを回して、アイコンをダイヤル指標に合わせる



画像モニターに選択した撮影モードが3秒間表示されます（ガイド表示）。





ガイド表示を表示したくない場合は、「詳細設定1」メニューの「画面表示」で変更できます。（p.210）

オートピクチャーモード

AUTO（オートピクチャー）モードでは、カメラが以下の撮影モードの中から最適なモードを自動的に選択します。

モード	特徴
標準	以下のモードに該当しない場合に選択されます。
人物	人物の撮影時に選択されます。肌の色が健康的に仕上がります。
風景	風景の撮影時に選択されます。木々の緑の彩度が強調され、鮮やかな色の画像に仕上がります。
マクロ	被写体に近づいた撮影で選択されます。花などが鮮やかに撮影されます。
動体	スポーツなど動きのある被写体に適しています。
夜景人物	夕暮れや夜景を背景とした人物の撮影時に選択されます。 ストロボを使用しても、ストロボの光が届かない背景を写し込むためにシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ（p.236））。「Shake Reduction」をオンに設定するか、三脚などを使用して手ぶれを起こさないように注意してください。
夕景	夕焼けや朝焼けの撮影時に選択されます。
青空	青空の撮影時に選択されます。青空が深い青で印象的に表現されます。
フォレスト	木漏れ日や木々の緑を鮮やかに表現します。



ファインダー撮影時のAFモードは**AF.A**固定です。（p.101）と判定された場合は**AF.C**、それ以外は**AF.S**で動作します。

シーンモード

SCN（シーン）モードでは、次の撮影シーンから選択して撮影ができます。

モード	特徴
人物	人物の撮影に適しています。肌の色を健康的に仕上げます。
風景	木々の緑の彩度を強調して鮮やかな色に仕上げます。
マクロ	近くにある花などを鮮やかに撮影できます。
動体	スポーツなど動きのある被写体に適しています。 ドライブモードは「連続撮影（Hi）」固定です。
夜景人物	夕暮れや夜景を背景とした人物撮影に適しています。ストロボを使用しても、ストロボの光が届かない背景を写し込むためにシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ（p.236））。「Shake Reduction」をオンに設定するか、三脚などを使用して手ぶれを起こさないように注意してください。
夕景	夕焼けや朝焼けの写真を美しく仕上げます。
青空	青空を深い青で印象的に表現します。
フォレスト	木漏れ日や木々の緑を鮮やかに表現します。
夜景	夜景撮影に最適です。三脚などで固定して撮影してください。
夜景HDR	暗いところでスナップ写真を撮影するときに、標準／-3 EV／+3 EVの画像を合成してノイズを抑えて仕上げます。 記録形式はJPEG固定です。
ナイトスナップ	暗いところでスナップ写真を撮影するのに適しています。
料理	料理の撮影に適しています。彩度をやや高めにし、色鮮やかに仕上げます。
ペット	動き回るペットを撮影するのに適しています。 ドライブモードは「連続撮影（Hi）」固定です。
キッズ	動きの多い子供を撮影するのに適しています。肌の色を健康的に仕上げます。 ドライブモードは「連続撮影（Hi）」固定です。
サーフ＆スノー	砂浜や雪山など背景の明るい場所での写真をきれいに仕上げます。
逆光シルエット	逆光時に被写体がシルエットになるように仕上げます。
キャンドルライト	キャンドルライトの雰囲気を生かして撮影します。

モード	特徴
 ステージライト	暗いところで動きのある被写体を撮影するのに適しています。
 美術館	美術館などストロボを発光させたくない場所での撮影に適しています。

注意

／／／／／／／ では、ストロボは発光しません。「Shake Reduction」をオンに設定するか、三脚などを使用して手ぶれを起こさないように注意してください。

メモ

ファインダー撮影時のAFモードは、選択したシーンによって自動的に設定されます。（p.101）

撮影シーンを選ぶ

1 モードダイヤルをSCNに合わせる

SCNモードのステータススクリーンになります。



2 INFOボタンを押す

コントロールパネルが表示され、現在設定されている撮影シーンのアイコンが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で「シーンモード」を選択し、OKボタンを押す

シーンモードを選択する画面が表示されます。



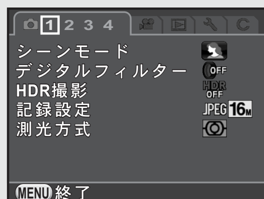
4 **十字キー（▲▼◀▶）または後電子ダイヤル（）でシーンを選択し、OKボタンを押す**

コントロールパネルに戻り、撮影できる状態になります。





モードダイヤルをSCNに合わせてMENUボタンを押すと、「撮影1」メニューに「シーンモード」が表示されます。十字キー（▶）を押すと、手順4と同じ画面が表示され、シーンが選択できます。



露出モード

シャッター速度と絞り値を任意に変更して撮影します。

モード		特徴	参照
P	プログラム自動露出	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞り値が自動的に設定され、適正露出で撮影できます。	p.87
Sv	感度優先自動露出	ISO感度を任意の値に設定します。	
Tv	シャッター優先自動露出	シャッター速度を任意の値に設定します。	
Av	絞り優先自動露出	絞り値を任意の値に設定します。	
TAv	シャッター＆絞り優先自動露出	任意に設定したシャッター速度と絞り値で適正露出になるように、ISO感度が自動的に設定されます。	
M	マニュアル露出	ISO感度／シャッター速度／絞り値を任意に設定し、より撮影意図に合った画作りをしたいときに使用します。	
B	バルブ露出	長時間シャッターを開いたままで、花火や夜景などを撮影したいときに使用します。	p.89

ISO感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて、ISO感度を設定します。
ISO感度は、「ISO AUTO（自動調整）」か、ISO 100～12800相当の間で設定できます。初期設定は「ISO AUTO」です。

1 撮影待機状態で十字キー（▲）を押す

ISO感度を設定する画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）でISO AUTO／ISOを選択する

ISO AUTO	自動調整する範囲を設定
ISO	固定値を設定



3 後電子ダイヤル（）でISO感度を変更する

「ISO AUTO」のときは、前電子ダイヤル（）で最低感度を変更します。

4 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。



- TAv モード、またはSCNモードの（夜景HDR）／（ナイトスナップ）／（ステージライト）を選択しているときは、「ISO AUTO（SCNモードは上限ISO 6400）」固定です。
- Sv／Bモードのときは、「ISO AUTO」は表示されません。「ISO AUTO」の設定でモードダイヤルをMにした場合は、TAvモードとして動作します。モードダイヤルをBにした場合は、最後に設定した固定値に設定されます。
- ISO感度を高感度に設定するほど、撮影画像にノイズが発生しやすくなります。「撮影3」メニューの「高感度NR」でノイズ軽減について設定できます。（p.96）
- ISO感度の設定ステップを1 EVにするか、露出設定ステップ（p.90）に合わせるかを「Cカスタム1」メニューの「2. ISO感度ステップ」で設定できます。
- 「Cカスタム1」メニューの「3. 拡張感度」を「オン」に設定すると、ISO感度の範囲がISO 100～25600まで拡張されます。

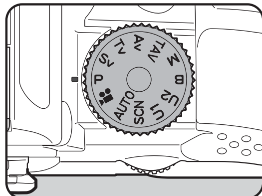
露出モードを切り替える

本機には、以下の露出モードがあります。
各露出モードで設定できる項目は以下のとおりです。

露出モード		シャッター速度変更	絞り値変更	ISO感度変更	露出補正
P	プログラム自動露出	△[*1]	△[*1]	○	○
Sv	感度優先自動露出	×	×	○[*2]	○
Tv	シャッター優先自動露出	○	×	○	○
Av	絞り優先自動露出	×	○	○	○
TAv	シャッター＆絞り優先自動露出	○	○	×	○
M	マニュアル露出	○	○	○[*3]	×
B	バルブ露出	×	○	○[*2]	×

*1「撮影4」メニューの「電子ダイヤル」で、前／後電子ダイヤル操作でシャッター速度または絞り値が変更できるように設定できます。（p.162）
*2「ISO AUTO」は選択できません。
*3「ISO AUTO」の設定で**M**モードにすると、**TAv**モードとして動作します。

1 モードダイヤルを P／Sv／Tv／Av／TAv／M／Bに合わせる



ステータススクリーンには、変更できる値に / が表示されます。



ファインダー内には、変更できる値にアンダーラインが表示されます。



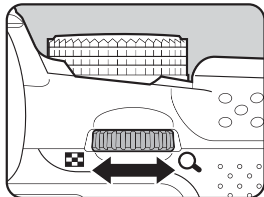
ライブビューのときは、変更できる数値の前に▶が表示されます。



2 後電子ダイヤル（ ）を回す

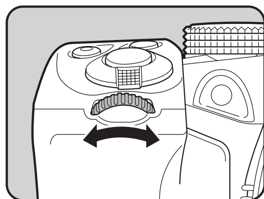
Av／**TAv**／**M**／**B**モードの絞り値が変更できます。

SvモードはISO感度が変更できます。

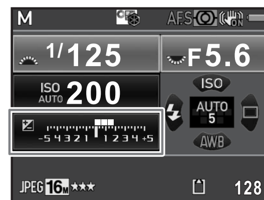


3 前電子ダイヤル（ ）を回す

Tv／**TAv**／**M**モードのシャッター速度が変更できます。



Mモードでは、シャッター速度／絞り値調整中に適正露出との差がバーグラフで表示されます。適正露出との差が±3.0 以上になると、数字が赤で点滅表示されます。





- ISO感度を固定値で設定する（p.85）と、設定したシャッター速度／絞り値で適正露出が得られない場合があります。
- 前／後電子ダイヤルと ⦿ ボタンを操作したときにどのように動作するかを、露出モードごとに設定できます。「撮影4」メニューの「電子ダイヤル」で設定します。（p.162）

バルブ撮影を利用する

花火や夜景などの撮影で、長時間露光したいときに利用します。

1 **モードダイヤルをBに合わせる**

2 **シャッターボタンを押す**

シャッターボタンを押している間、シャッターが開きます。

3 **シャッターボタンから指を放す**

露光が終了します。



Bモードでは、以下の機能は使用できません。

- 連続撮影
- 露出補正
- インターバル撮影
- Shake Reduction
- 露出ブラケット
- AEロック
- HDR撮影



- **B**モードでのシャッターボタンの動作については、「**C**カスタム1」メニューの「7. B時の撮影方法」で設定します。

Mode1	シャッターボタンを押している間に露光します。（初期設定）
Mode2	シャッターボタンを押すと露光を開始し、もう一度押すと終了します。

- シャッター速度を遅くするほど、撮影画像にノイズが発生しやすくなります。「撮影3」メニューの「長秒時NR」でノイズ軽減について設定できます。（p.98）
- バルブ撮影を行うときは、ぶれ防止のため三脚を使用し、別売のケーブルスイッチやリモコンを使用することをお勧めします。
- バルブ撮影ではバッテリーを消費するため、別売のACアダプターキットのご使用をお勧めします。
- 別売のGPSユニットを装着し、「撮影4」メニューの「GPS」で「B時の動作」をアストロトレーサーに設定している場合は、アストロトレーサーモードになります。（p.264）

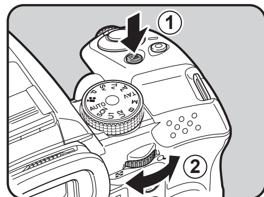
露出を補正する

意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）で撮影することができます。
補正値は-5～+5 EV（動画モードは-2～+2 EV）の範囲で設定できます。「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」の設定によって、設定できる値が異なります。

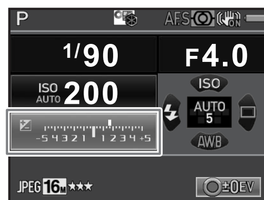
露出設定ステップ	露出補正値
1/3 EV	±0.3／±0.7／±1.0／±1.3／±1.7／±2.0／±2.3／±2.7／±3.0／±3.3／±3.7／±4.0／±4.3／±4.7／±5.0
1/2 EV	±0.5／±1.0／±1.5／±2.0／±2.5／±3.0／±3.5／±4.0／±4.5／±5.0

1 露出補正ボタン（①）を押してから後電子ダイヤル（②）を回す

露出が補正されます。



補正中はステータススクリーン／ファインダー内／ライブビューに露出補正マークと補正値が表示されます。







ボタン・ダイヤル等の操作

ボタン	設定の開始／終了
⦿ボタン	補正値をリセット



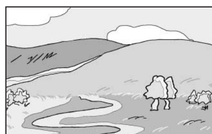
- **M**／**B**モードのときは、露出補正はできません。
- 電源を切ったり、他の撮影モードにしても露出補正は解除されません。

露出を自動的に変化させて撮影する（露出ブラケット）

露出が異なる画像を連続して3枚撮影します。


標準露出


アンダー露出


オーバー露出

撮影される順番は「**C**カスタム2」メニューの「8. ブラケット撮影順」で設定します。

0 – +	標準 → アンダー → オーバー（初期設定）
– 0 +	アンダー → 標準 → オーバー
+ 0 –	オーバー → 標準 → アンダー
0 + –	標準 → オーバー → アンダー



以下のときは、露出ブラケット撮影はできません。
- Bモード、またはSCNモードの（動体）／（夜景HDR）／（ペット）／（キッズ）を選択しているとき
- インターバル撮影／多重露出／HDR撮影を設定しているとき

1 撮影待機状態で十字キー（▶）を押す

ドライブモードを設定する画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でを選ぶ

3 十字キー（▼）を押してからブラケット幅を設定する



「Cカスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」の設定によって、設定できる値が異なります。（p.90）

ボタン・ダイヤル等の操作

後電子ダイヤル（）右（）	ブラケット幅大
後電子ダイヤル（）左（）	ブラケット幅小
ボタン →後電子ダイヤル（）	露出補正（オーバー方向またはアンダー方向で露出ブラケット撮影を行う場合）
◉ボタン	補正値をリセット

4 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、ステータススクリーン／ファインダー内／ライブビューに露出補正値が表示されます。

6 シャッターボタンを全押しする

3枚の撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続けます。
「**C** カスタム2」メニューの「8. ブラケット撮影順」で設定した順番に補正して、連続撮影されます。



- フォーカスモードが **AF.S** に設定されているときは、1枚目のピント位置にフォーカスロックされます。
- 撮影途中でシャッターボタンから指を離しても、測光作動時間（p.95）の2倍（初期設定：約20秒）は設定値が保持され、次の補正値で撮影ができます。測光タイマーの2倍の時間が過ぎると、1枚目からの撮影状態に戻ります。
- 「**C** カスタム2」メニューの「9. ワンプッシュブラケット」を「オン」に設定すると、シャッターボタンを押し続けなくても1回のレリーズで3枚撮影できます。
- 露出ブラケットを解除するときは、ドライブモードの設定画面で「1コマ撮影」を選択します。「撮影4」メニューの「モードメモリ」で「ドライブモード」をオフに設定しておくと、カメラの電源を切ったときに自動的に解除されます。（p.215）
- 内蔵ストロボまたは外付けストロボ（P-TTLオートの場合）と露出ブラケット撮影を併用することで、ストロボ光量だけを連続的に変化させて撮影することができます。
- 露出ブラケットを頻繁に使用する場合は、**RAW/Fx** ボタンに割り当てて利用することもできます。（p.165）

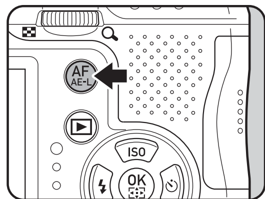
露出を記憶する（AEロック）

AEロックは、撮影前の露出（明るさ）を記憶する機能です。撮りたいものが小さくて適正な露出を得るのが難しいときや、逆光撮影のときなどに利用してください。

1 AF/AE-Lボタンに「AEロック」を割り当てる

「**AF**/**AE-L**ボタンの動作を設定する」（p.167）を参照してください。

2 露出を設定し、AF/AE-Lボタンを押す



その時点の露出をカメラが記憶します。
AEロック中は、ステータススクリーン／ファインダー内／ライブビューに✱が表示されます。
もう一度**AF**/**AE-L**ボタンを押すと解除されます。



- 以下の間は、露出が記録されています。
  - **AF**/**AE-L**ボタンを押し続けているとき
  - シャッターボタンを半押ししているとき
  - 測光作動時間（p.95）の2倍の時間
- AEロック時と解除時は電子音が鳴ります。電子音を鳴らないように設定することもできます。（p.206）
- **B**モードのときは、AEロックは利用できません。
- フォーカスロック時にAEロックさせたい場合は、「**C**カスタム1」メニューの「5. AFロック時のAE-L」を「オン」に設定します。
- **M**モードのときは、AEロックした状態でシャッター速度／絞り値を変更すると、露出値を保持したままシャッター速度と絞り値の組み合わせが変化します。
- 焦点距離によって開放F値が変化するズームレンズでは、AEロック中でもズームを動かすことで、シャッター速度と絞り値の組み合わせが変化します。

測光方式を選択する

センサーのどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。

分割	センサーを分割して明るさを測定します。（初期設定） 逆光などで人物が暗くなるときでも、どの部分にどんな明るさのものがあるかを自動的に判断して補正します。
中央重点	センサー中央部分に重点を置いて測光します。 中央部分ほど感度が高く、逆光の場合でも自動補正されません。
スポット	センサー中央の限られた範囲の明るさだけを測光します。 撮影したいものが小さくて適正な露出を得るのが難しいときは、AEロック（p.94）と組み合わせて利用すると便利です。

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「測光方式」を選択し、OKボタンを押す

「測光方式」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で測光方式を選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。





- メニューから設定するときは、「撮影1」メニューで設定します。
- 電源を入れた直後と撮影モードを切り替えたときは、測光が行われます。測光を続ける時間（測光タイマー）を、「Cカスタム1」メニューの「4. 測光作動時間」で設定します。10秒（初期設定）／3秒／30秒が選択できます。
- 「Cカスタム1」メニューの「6. 測距点と露出の関連付」で、のときに露出値とAF領域内の測距点（ピントを合わせた位置）を関連付けることができます。

オフ	測距点に関係なく分割測光の露出が決定します。（初期設定）
オン	測距点によって分割測光の露出を調整します。

ノイズを減らす（ノイズリダクション）

デジタルカメラは、次のときに画像にノイズ（画像のざらつきやムラ）が目立つようになります。

- ISO感度を高く設定しているとき
- 長時間露光のとき
- CMOSセンサーが高温になっているとき

ノイズリダクションを設定すると、ノイズを低減させることができます。

注意 ノイズリダクション処理中は、次の撮影はできません。特に、「長秒時NR」は処理に時間がかかる場合があるので注意してください。

高感度NR

ISO高感度時のノイズリダクション処理を設定します。

1 「撮影3」メニューの「高感度NR」を選び、十字キー（▶）を押す

「高感度NR」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押してから十字キー（▲▼）で設定を選択する



オート	ISO感度の設定に応じて最適なノイズリダクションを行います。（初期設定）
弱／中／強	ISO感度の設定に関係なく、一定のノイズリダクションを行います。
カスタム	ISO感度別にノイズリダクション処理を設定できます。
オフ	ノイズリダクションを行いません。

3 OKボタンを押す

オート／弱／中／強／オフを選択した場合は、手順7に進みます。

4 十字キー（▲▼）で「設定」を選び、十字キー（▶）を押す

ISO感度別に設定する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）でISO感度を選び、十字キー（◀▶）で強度を選択する



表示されるISO感度は、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」「2. ISO感度ステップ」の設定によって異なります。

ボタン・ダイヤル等の操作

後電子ダイヤル（ ）	高感度NR 1／高感度NR 2画面切り替え
⦿ボタン	設定をリセット

6 MENUボタンを押す

手順2の画面に戻ります。

7 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

長秒時NR

長時間露光したときのノイズリダクション処理を設定します。

1 **「◘撮影3」メニューの「長秒時NR」を選び、十字キー（▶）を押す**

2 **十字キー（▲▼）で設定を選択してOKボタンを押す**



オート	シャッター速度・ISO感度・カメラ内部温度等を判断して、自動的にノイズリダクションを行います。（初期設定）
オン	シャッター速度が1秒を超えた場合にノイズリダクションを行います。
オフ	ノイズリダクションを行いません。

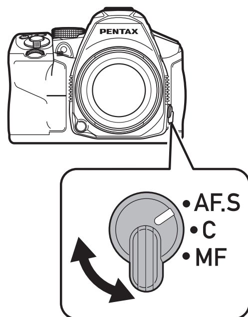
3 **MENUボタンを押す**

撮影できる状態になります。

ピントを合わせる

フォーカスモードを設定する

フォーカスモードレバーで**AF.S**／**C**／**MF**を切り替えます。



ファインダー撮影とライブビュー撮影では、オートフォーカスの方法が異なります。

ファインダー撮影	TTL位相差検出式 **AF.S**／**AF.C**とこれを自動で切り替える**AF.A**が選択できます。（p.100）「測距点切替」でピントを合わせる位置を設定します。（p.102） 「コントラスト検出式」よりも高速なオートフォーカスが可能です。
ライブビュー撮影	コントラスト検出式 顔検出や追尾ができます。（p.104） フォーカスモードレバーが**AF.S**／**C**のどちらでも、動作は同じです。

MFについては、「マニュアルでピントを合わせる（マニュアルフォーカス）」（p.108）を参照してください



AF/**AE-L**ボタンにAF作動1／AF作動2を割り当てると、シャッターボタン半押しの代わりに**AF**/**AE-L**ボタンで合焦動作ができます。初期設定ではシャッターボタン半押し／**AF**/**AE-L**ボタンのどちらでもオートフォーカスができるように設定されています。（p.167）

ファインダー撮影でのAFモード

ファインダー撮影では、以下のAFモードが選択できます。

<table>
<tr>
<td>AF.S
シングルモード</td>
<td>シャッターボタン半押しでピントが合うと、その位置にピントを固定（フォーカスロック）します。ピントを合わせたい被写体が構図の中心にないときなどは、被写体をファインダーの中心にしてフォーカスロックしてから構図を調整します。
• SCNモードの（人物）／（風景）／（マクロ）／（夜景人物）／（フォレスト）／（夜景）／（夜景HDR）／（料理）／（夕景）／（サーフ＆スノー）／（逆光シルエット）／（キャンドルライト）／（美術館）は、AF.S固定です。
• 必要に応じてAF補助光が発光します。
•「Cカスタム3」メニューの「15. AF.Sの動作」で、シャッターボタンを全押ししたときの優先動作が設定できます。
<table>
<tr><td>フォーカス優先</td><td>ピントが合うまでシャッターがきれません。（初期設定）
被写体に近づきすぎている場合は、離れた位置から撮影してください。オートフォーカスができない場合は、マニュアルでピントを調整してください。</td></tr>
<tr><td>レリーズ優先</td><td>ピントが合っていなくても撮影できます。</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>C（AF.C）
コンティニュアスモード</td>
<td>シャッターボタンを半押ししている間、被写体に合わせて常にピントを調整します。ピントが合うとファインダー内の合焦マーク ● が点灯し、電子音が鳴ります。ピントが合っていなくてもシャッターがきれます。
• P／Sv／Tv／Av／TAv／Mモードのときに設定できます。
• SCNモードの（動体）／（ナイトスナップ）／（ペット）／（キッズ）／（ステージライト）は、AF.C固定です。
• シャッターボタン半押しでピント合わせを行っているときにカメラが被写体を動体と判断すると、動体予測を行います。
•「Cカスタム3」メニューの「16. AF.Cの動作」で、連続撮影時の優先動作が設定できます。
<table>
<tr><td>フォーカス優先</td><td>被写体の追従を優先して連続撮影します。（初期設定）</td></tr>
<tr><td>コマ速優先</td><td>撮影速度を優先して連続撮影します。</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>AF.A
オートモード</td>
<td>被写体の状況に応じてAF.S／AF.Cを自動で切り替えます。「撮影2」メニューの「AF設定」の「AF.A」で設定します。
<table>
<tr><td>□</td><td>フォーカスモードレバーの設定に従って動作します。（初期設定）</td></tr>
<tr><td>☑</td><td>フォーカスモードレバーがAF.S／Cのどちらに設定されていてもAF.Aで動作します。</td></tr>
</table>

AUTOモードは、AF.A固定です。
SCNモードは、選択したシーンによってAFモードが自動的に設定されるため、変更できません。
P／Sv／Tv／Av／TAv／Mモードでライブビュー撮影を行っているときは、AF.Aを選択していてもAF.S固定です。

</td>
</tr>
</table>



AF.Sモードで補助光を発光させたくない場合は、「撮影2」メニューの「AF設定」の「AF補助投光」をオフに設定します。

ピント合わせ位置（測距点）を選択する

ファインダー撮影時にピントを合わせる位置を設定します。
選択された測距点は、ファインダー内で赤く点灯します（スーパーインポーズ）。

オート（5点）	被写体が中央になくても、5点の測距点から自動的にファインダー内の最適な位置にピントを合わせます。（初期設定）
オート（11点）	被写体が中央になくても、11点の測距点から自動的にファインダー内の最適な位置にピントを合わせます。
セレクト	AFフレーム内の11点の測距点から任意のエリアにピントを合わせます。
スポット	ファインダー内の中央にピントを合わせます。

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「測距点切替」を選択し、OKボタンを押す

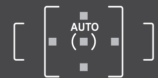
「測距点切替」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で測距点を選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

測距点切替
オート（5点）





MENU 取消　　OK 決定



- メニューから設定するときは、「撮影2」メニュー「AF設定」の「測距点切替 」で設定します
- 「Cカスタム2」メニューの「13. スーパーインポーズ」で「オフ」を選択すると、ファインダー内に測距点が表示されません。
- DA・DA L・D FA・FA J・FA・Fレンズ以外では、設定にかかわらず固定です。

4
いろいろな撮影

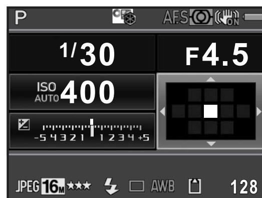
任意の位置にピントを合わせる

1 p.102の手順3で ▦ を選択し、OKボタンを押す

2 MENUボタンを押すか、シャッターボタンを半押しする

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

3 測距点を指定する



ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	測距点を移動
OKボタン	測距点を中央に戻す
OKボタン長押し	測距点移動を無効にし、十字キーをダイレクトキー操作に戻す ダイレクトキー操作有効時に**OK**ボタンを押すと、測距点移動操作に戻る



- 移動した測距点は、AUTO 5／AUTO 11／▪に変更したり、電源を切っても記憶されています。
- 「撮影4」メニューの「ボタンカスタマイズ」で**RAW/Fx**ボタンに「測距点切替」を設定している場合（p.165）は、**RAW/Fx**ボタンで測距点移動の有効／無効が切り替わり、手順4の測距点移動が前／後電子ダイヤルで操作できます。前電子ダイヤル（）で上下、後電子ダイヤル（）で左右に移動し、⦿ボタンで中央に戻ります。ファインダーをのぞきながら操作するときに便利です。
- 「撮影2」メニューの「AF設定」の「セレクトエリア拡大」をオンに設定すると、フォーカスモードが**AF.C**（または「AF.A」がオン）のときに設定した測距点の周囲の情報を利用してピント合わせを行います。利用される測距点は、ステータススクリーンにピンクで表示されます。
- 測距点移動の有効／無効の切り替え時には電子音が鳴ります。電子音を鳴らないように設定することもできます。（p.206）

ライブビューのコントラストAFを設定する

ライブビュー撮影時のオートフォーカスの方法を以下から選択できます。

顔検出	人物の顔を検出して追尾します。（初期設定） AF・AEの対象となるメインの顔検出枠は黄色で表示されます。
追尾	シャッターボタン半押しでピントが合った被写体を追尾します。
セレクト	任意の領域にピントを合わせます。 センサーを100分割（横10×縦10）し、AF領域を任意の範囲に設定します。AF領域の大きさは、100分割中の4／16／36個のサイズが選択できます。（p.106）
スポット	中央の限られた範囲にピントを合わせます。

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「コントラストAF」を選択し、OKボタンを押す

「コントラストAF」画面が表示されます。

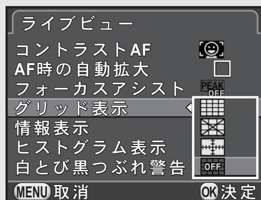
3 十字キー（◀▶）でコントラストAFを選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。





- メニューから設定するときは、「撮影4」メニューの「ライブビュー」の「コントラストAF」で設定します。
- AUTOモードの（標準）／（人物）／（夜景人物）、またはSCNモードの（人物）／（夜景人物）／（キッズ）を選択しているときは、固定です。
- フォーカスロックしてから構図を調整したいときは、／に設定します。
- ピントが合っていなくても撮影したいときは、「C カスタム 3」メニューの「15. AF.Sの動作」で「レリーズ優先」に設定します。
- 「撮影4」メニューの「ライブビュー」で、ライブビュー中にグリッド表示／情報表示／ヒストグラム表示／白とび黒つぶれ警告を表示するかどうか設定できます。「情報表示」をオフに設定すると、撮影の設定情報を表示しません（シャッターボタン半押しで、シャッタースピード／絞り値／ISO感度／撮影可能枚数が表示されます）。



任意の範囲にピントを合わせる

オートフォーカスする範囲（AF領域）を任意の領域に設定します。

1 p.104の手順3で ⊡ を選択し、OK ボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

2 MENUボタンを押すか、シャッターボタンを半押しする

撮影できる状態になります。

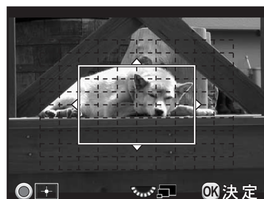
3 LV/🗑 ボタンを押す

ライブビューになります。

4 OK ボタンを押す

設定できる範囲が破線で表示され、AF領域が変更できる状態になります。

5 AF領域を指定する



ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	AF領域を移動
後電子ダイヤル（⌒）	AF領域の大きさを変更
⦿ボタン	AF領域を中央に戻す

6 OK ボタンを押す

AF領域が確定します。



設定したAF領域は、コントラストAFを変更したり、電源を切っても記憶されています。

ピントを確認する

ライブビュー撮影時にフォーカスロックした位置を中心に拡大表示して確認できます。

1 画像モニターで被写体を確認し、シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

2 シャッターボタンを半押ししたままOKボタンを押す

シャッターボタンを半押ししている間、測距点を中心に拡大表示されます。

3 後電子ダイヤル（ ）で拡大倍率を変更する

2倍／4倍／6倍に拡大できます。



4 OKボタンを押すか、シャッターボタン半押しを解除する

撮影できる状態になります。



- 「 撮影4」メニューの「ライブビュー」の「AF時の自動拡大」をオンに設定しているときは、フォーカスロックから1秒経過すると自動的に拡大表示になります。
- **MF**モードのときは、**OK**ボタンを押すだけで拡大表示ができます。（p.109）



「コントラストAF」を「追尾」に設定しているときは、拡大表示はできません。

マニュアルでピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

ファインダーまたはライブビュー画像を見ながらレンズのピントリングを操作して、手動でピントを合わせます。**MF**ではピントが合っていなくても、シャッターボタンを全押しすれば撮影ができます。

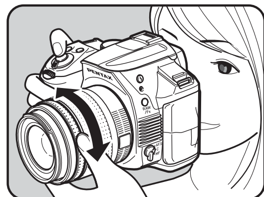
ファインダーを利用してピントを合わせる

ファインダーのマット面を利用して、手動でピントを調整します。

1 フォーカスモードレバーを MF に合わせる

2 ファインダーをのぞきながらレンズのピントリングを回す

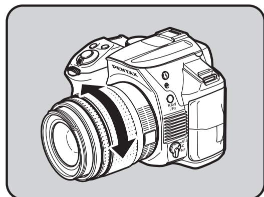
シャッターボタンを半押ししながら距離リングを回したときは、ピントが合うとファインダー内の合焦マーク ⬣ が点灯し、電子音が鳴ります。



ライブビューでピントを合わせる

1 **フォーカスモードレバーをMFに合わせる**

2 **画像モニターを見ながらレンズのピントリングを回す**



3 **ピントが確認しづらいときは、OKボタンを押す**

画面が拡大表示されます。



ボタン・ダイヤル等の操作

後電子ダイヤル（ダイヤル）右（Q）	拡大（6倍まで）
後電子ダイヤル（ダイヤル）左（⊞）	縮小（2倍まで）
十字キー（▲▼◀▶）	表示範囲を移動
⦿ボタン	中央を表示

4 **OKボタンを押すか、シャッターボタンを半押しする**

撮影できる状態になります。



「◘撮影4」メニューの「ライブビュー」の「フォーカスアシスト」をオンに設定すると、ピントが合った部分の輪郭が強調され、確認しやすくなります。フォーカスアシストは、**AF**モードでも有効です。

AF微調整

オートフォーカスのピント位置を微調整できます。

注意
- **AF微調整は、必要な場合のみ行ってください。調整することで適切なピントで撮影できなくなることがありますので、注意してください。**
- テスト撮影の際、手ぶれすると正確なピント位置が確認しづらくなります。必ず三脚を使用してテスト撮影をしてください。

1 「Cカスタム4」メニューの「22. AF微調整」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「オン」を選び、十字キー（▶）を押す

「22. AF微調整」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で一律／個別を選ぶ

一律	すべてのレンズで同じ調整値を適用します。
個別	レンズIDが取得できた場合に表示されます。レンズの種類ごとに調整値を登録／適用します。（最大20種類）
リセット	登録済みの調整値をリセットします。

4 十字キー（▶）を押してから調整する



ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▶）／ 後電子ダイヤル（）右（）	前ピン方向に調整
十字キー（◀）／ 後電子ダイヤル（）左（）	後ピン方向に調整
⦿ボタン	調整値をリセット

5 OKボタンを押す

調整値が登録されます。

6 MENUボタンを3回押す

撮影できる状態になります。

7 テスト撮影する

ライブビューの拡大表示（p.107）やデジタルプレビュー（p.113）を使用するとピント確認が容易にできます。

キャッチインフォーカス撮影

「**C** カスタム3」メニューの「21. キャッチインフォーカス」を「オン」に設定すると、下記の条件にあてはまるレンズを取り付けている場合に、ピントが合うと自動的にシャッターがきれるキャッチインフォーカス撮影ができます。

- マニュアルフォーカスレンズ
- レンズ側で **AF**／**MF** の切り替えが可能なDA・FAレンズ（**MF** に切り替えておく）

● **撮影方法**

1 フォーカスモードレバーを **AF.S** に合わせる
「AF.A」はオフに設定します。
2 写したいものが通りそうな位置にピントを合わせる
3 シャッターボタンを全押しする
写したいものがピントを合わせた位置に入ると、自動的に撮影されます。

被写界深度を確認する（プレビュー）

プレビュー機能を利用すると、被写界深度・構図・露出・ピントなどが撮影前に確認できます。
プレビューには、以下の2つがあります。

プレビュー方式	確認方法
光学プレビュー	被写界深度をファインダーで確認します。
デジタルプレビュー	構図・露出・ピントなどを画像モニターで確認します。



インターバル撮影／多重露出では、設定にかかわらず光学プレビューになります。

光学プレビューを表示する

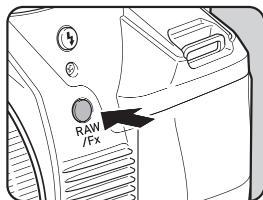
1 RAW/Fxボタンに「光学プレビュー」を割り当てる

「**RAW**/**Fx**ボタンの動作を設定する」（p.165）を参照してください。

2 撮りたいものをファインダーで確認し、ピントを合わせる

3 ファインダーをのぞきながらRAW/Fxボタンを押す

RAW/**Fx**ボタンを押している間、ファインダー内で被写界深度が確認できます。
この間はファインダー内の撮影情報の表示は消え、シャッターはきれません。



4 RAW/Fxボタンから指を離す

光学プレビューが終了し、撮影できる状態になります。

デジタルプレビューを表示する

1 RAW/Fxボタンに「デジタルプレビュー」を割り当てる

「**RAW/Fx**ボタンの動作を設定する」（p.165）を参照してください。

2 撮りたいものにピントを合わせ、RAW/Fxボタンを押す

画像モニターに が表示され、構図・露出・ピントが確認できます。



ボタン・ダイヤル等の操作

後電子ダイヤル（ ）	プレビュー画像を拡大表示（p.177）
ボタン	プレビュー画像を保存

3 シャッターボタンを半押しする

デジタルプレビューが終了し、合焦動作が行われます。



デジタルプレビューの表示時間は最長で60秒です。

手ぶれを防いで撮影する

手ぶれ補正機能を使って撮影する

手ぶれ補正機能（Shake Reduction）とは、シャッターボタンを押す瞬間に起こりやすい手ぶれを補正しながら撮影できる機能です。
次のようなシーンでの撮影に適しています。

- 室内、夕方、曇り、日陰など薄暗い環境で撮影するとき
- 望遠で撮影するとき

注意

- 手ぶれ補正機能は、被写体が動くことによるぶれには効果がありません。動いている被写体を撮影するときには、シャッター速度を速くして撮影してください。
- 近距離での撮影では、手ぶれ補正しきれないことがありますので、手ぶれ補正機能をオフに設定して三脚などを利用することをお勧めします。
- 流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件では、手ぶれ補正の効果が十分に現れないことがあります。その場合は、手ぶれ補正機能をオフに設定して三脚などを利用することをお勧めします。
- 本機に装着できる当社製レンズであれば、手ぶれ補正機能が使用できます。ただし、焦点距離が自動取得できないレンズを使用している場合は、焦点距離を設定する必要があります。「各種レンズを組み合わせたときの機能」（p.255）を参照してください。

縦・横方向の手ぶれを補正する

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「Shake Reduction」を選択し、OKボタンを押す

「Shake Reduction」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で(ON)／(OFF)を選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。



(ON)	手ぶれ補正を行う（初期設定）
(OFF)	手ぶれ補正を行わない

4 シャッターボタンを半押しする

ステータススクリーン／ファインダー内／ライブビューに((✋))が表示され、手ぶれ補正機能が有効になります。





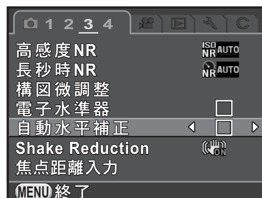
- 以下のときは、オフ固定です。
  - セルフタイマー撮影
  - リモコン撮影
  - **B**モードのとき
  - HDR撮影が設定されていて、「自動位置調整」がオフの場合
  - 構図微調整中
- SCNモードの(HDR)（夜景HDR）を選択しているときは、オン固定です。
- 電源を入れた直後やオートパワーオフからの復帰直後（約2秒間）は、手ぶれ補正機能が安定していません。手ぶれ補正機能が安定してから撮影してください。
- メニューから設定するときは、「📷撮影3」メニューで設定します。

画像の傾きを補正する

最大で±1.0°程度の傾きが補正できます。

1 「撮影3」メニューで「自動水平補正」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で□／☑を切り替える



3 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

4 カメラを被写体に向け、シャッターボタンを半押しする

ステータススクリーン／ライブビューに、次のマークが表示されます。

(ON)	Shake Reductionオン＋自動水平補正オン
(OFF)	Shake Reductionオフ＋自動水平補正オン

セルフタイマーで撮影する

⏲ セルフタイマー（12秒）	約12秒後にシャッターがきれます。撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。
⏲2s セルフタイマー（2秒）	シャッターボタンを押してから約2秒後にシャッターがきれます。シャッターボタンを押すことで生じるカメラぶれを防いで撮影するときに使います。



SCNモードの（動体）／（ペット）／（キッズ）を選択しているときは、セルフタイマー撮影はできません。

1 カメラを三脚などで固定する

2 撮影待機状態で十字キー（▶）を押す

ドライブモードを設定する画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で⏲を選ぶ

4 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で⏲／⏲2sを選択してOKボタンを押す

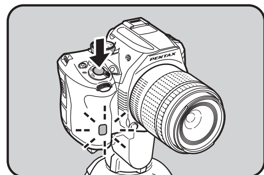
撮影できる状態になります。



5 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

6 シャッターボタンを全押しする



⏱の場合、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約2秒前から速い点滅に変わり、電子音も速い「ピッピッピッ」という継続音に変わります。シャッターボタン全押しから、約12秒後にシャッターがきれます。

⏱2sの場合は、約2秒後にシャッターがきれます。



- セルフタイマー撮影を解除するときは、ドライブモードの設定画面で「1コマ撮影」を選択します。「📷撮影4」メニューの「モードメモリ」で「ドライブモード」をオフに設定しておくと、カメラの電源を切ったときに自動的に解除されます。（p.215）
- 「Shake Reduction」はオフ固定です。
- セルフタイマーの電子音を鳴らないように設定することもできます。（p.206）
- セルフタイマー撮影では、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがあります（**M**モード以外）。AEロック（p.94）を利用するか、別売のMEファインダーキャップを利用してください。

リモコン（別売）を使って撮影する

別売のリモコンを使用すると、カメラから離れたところから撮影ができます。

リモコン	リモコンのシャッターボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。
3s リモコン（3秒後レリーズ）	リモコンのシャッターボタンを押すと、約3秒後にシャッターがきれます。

注意
以下のときは、リモコン撮影はできません。
- Bモード、またはSCNモードの（動体）／（ペット）／（キッズ）を選択しているとき
- インターバル撮影を設定しているとき

1 カメラを三脚などで固定する

2 撮影待機状態で十字キー（▶）を押す

ドライブモードを設定する画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で を選ぶ

4 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で ／3sを選択してOKボタンを押す

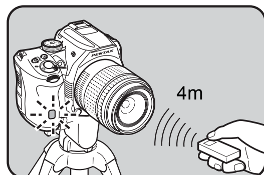


カメラ前面のリモコン受光部が点滅し、リモコン待機状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

6 リモコンをカメラ前面のリモコン受光部に向け、リモコンのシャッターボタンを押す



リモコン撮影できる距離はカメラ前面から約4mです。

撮影が終了すると、リモコン受光部が2秒間点灯し、その後点滅に戻ります。



- 初期設定では、リモコンの操作でピント合わせはできません。あらかじめカメラ側でピント合わせをしてから、リモコン操作をしてください。「**C** カスタム2」メニューの「14. リモコン時のAF」を「オン」に設定すると、リモコンでピント合わせができます。
- リモコン撮影を解除するときは、ドライブモードの設定画面で「1コマ撮影」を選択します。「撮影4」メニューの「モードメモリ」で「ドライブモード」をオフに設定しておくと、カメラの電源を切ったときに自動的に解除されます。（p.215）
- 「Shake Reduction」はオフ固定です。
- 3s を選択したときは、ストロボモードの「ワイヤレスモード」は選択できません。
- リモコン撮影では、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがあります（**M**モード以外）。AEロック（p.94）を利用するか、別売のMEファインダーキャップを利用してください。
- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
- 防水リモートコントロール O-RC1を使用した場合は、ボタンでAF動作ができます。**Fn**ボタンは機能しません。
- リモートコントロール Fは、約30,000回のリモコン送信ができます。電池の交換（有料）については当社の修理センター、またはお客様窓口にご依頼ください。

連続して撮影する

連続撮影

シャッターボタンを全押ししている間、連続的にシャッターをきります。

連続撮影（Hi）	最高約6コマ/秒で連続撮影します。（JPEG時）
連続撮影（Lo）	最高約3コマ/秒で連続撮影します。（JPEG時）

注意
- 以下のときは、連続撮影はできません。
  - Bモード、またはSCNモードの（夜景HDR）を選択しているとき
  - インターバル撮影／HDR撮影を設定しているとき
- ／を選択した場合、クイックビューまたは再生時にRAW画像を追加保存することはできません。

1 撮影待機状態で十字キー（▶）を押す

ドライブモードを設定する画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でを選ぶ

3 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で／を選択してOKボタンを押す

撮影できる状態になります。



4 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

5 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを押し込んでいる間、連続して撮影できます。シャッターボタンから指を放すと、連続撮影は終了します。



- SCNモードの（動体）／（ペット）／（キッズ）を選択しているときは、固定です。
- フォーカスモードが **AF.S** に設定されているときは、最初の合焦位置にピントが固定され、等間隔に撮影されます。
- フォーカスモードが **AF.C** に設定されているときは、連続撮影中も常にピント合わせが行われます。
- を選択した状態で「記録形式」をRAW／RAW+に変更すると、で動作します。
- 内蔵ストロボを使用している場合は、充電が完了してからシャッターがきれます。「**C** カスタム3」メニューの「17. 充電中のレリーズ」を「オン」に設定すると、ストロボが充電中でもシャッターがきれます。
- 連続撮影を解除するときは、ドライブモードの設定画面で「1コマ撮影」を選択します。「撮影4」メニューの「モードメモリ」で「ドライブモード」をオフに設定しておくと、カメラの電源を切ったときに自動的に解除されます。（p.215）

インターバル撮影

指定した時刻から一定間隔で自動撮影をします。
以下の設定を行います。

撮影間隔	3秒間～24時間で設定します。
撮影枚数	2～999枚で設定します。 SDメモリーカードの空き容量によって設定できる枚数が異なります。
開始トリガー	1枚目を撮影するタイミングを選択します。「即時」はすぐに撮影が開始され、「時刻指定」の場合は「撮影開始時刻」を設定します
撮影開始時刻	撮影を開始する時刻を設定します。



以下のときは、インターバル撮影はできません。
- B／動画モードのとき
- 多重露出を設定しているとき

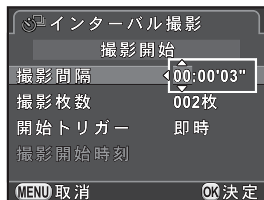
1 「撮影2」メニューの「インターバル撮影」を選び、十字キー（▶）を押す

「インターバル撮影」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「撮影間隔」を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（◀▶）で時／分／秒を選び、十字キー（▲▼）で時間を設定する

設定が終わったら、**OK** ボタンを押します。



4 十字キー（▲▼）で「撮影枚数」を選び、十字キー（▶）を押す

5 十字キー（◀▶）を押し、十字キー（▲▼）で枚数を設定する

設定が終わったら、**OK** ボタンを押します。

6 十字キー（▲▼）で「開始トリガー」を選び、十字キー（▶）を押す

7 十字キー（▲▼）で即時／時刻指定を選択してOKボタンを押す

「即時」を選択した場合は、手順10に進みます。

8 十字キー（▲▼）で「撮影開始時刻」を選び、十字キー（▶）を押す

9 十字キー（◀▶）で時／分を選び、十字キー（▲▼）で時刻を設定する

設定が終わったら、**OK**ボタンを押します。

10 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選び、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

11 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。
撮影中は、このときのピント位置にフォーカスロックされます。

12 シャッターボタンを全押しする

「開始トリガー」が「即時」の場合は、1枚目が撮影されます。「時刻指定」の場合は、設定した時刻に撮影が開始されます。

2枚以上撮影する場合は、手順3で設定した撮影間隔で撮影されます。

撮影を途中で終了する場合は、**MENU**ボタンを押します。

設定した枚数の撮影が終了すると、「インターバル撮影を終了しました」と表示され、通常の撮影待機状態に戻ります。



- 🎥 モードでのインターバル撮影については、「インターバル動画」(p.132)を参照してください。
- 撮影の途中でモードダイヤルまたは電源レバーを回すと、それまで撮影した画像が保存されてインターバル撮影が終了します。
- ドライブモードの設定にかかわらず、「1コマ撮影」になります。
- フォーカスモードが **AF.S** でピントが合わないときや、直前の画像処理が終了していないときなどは、撮影されない場合があります。
- 撮影されるごとにクイックビューが表示されますが、拡大表示/消去/RAW追加保存はできません。
- 撮影の待機中は、画像モニターはオフになります。
- オートパワーオフで電源が切れた場合は、撮影時刻が近づくと自動的に電源が入ります。



インターバル撮影を行う場合は、別売のACアダプターキットを使用するか、十分に充電したバッテリーを使用してください。インターバル撮影中にバッテリーがなくなると、撮影が途中で終了することがあります。

多重露出

任意の枚数を1枚の画像に合成しながら撮影します。

注意
以下のときは、多重露出はできません。
- 動画モード、またはSCNモードの夜景HDR（夜景HDR）を選択しているとき
- インターバル撮影／デジタルフィルター／HDR撮影を設定しているとき

1 「撮影2」メニューで「多重露出」を選び、十字キー（▶）を押す

「多重露出」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「撮影回数」を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で撮影回数を選択してOKボタンを押す

2～9回が選択できます。



4 十字キー（▲▼）で「自動露出調整」を選び、十字キー（◀▶）で□／☑を切り替える

☑にすると撮影回数に応じて露出が補正されます。

5 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選び、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

6 撮影する

シャッターボタンを1回押すごとに、合成された画像がクイックビューで表示されます。

クイックビュー表示中は、以下の操作ができます。

ボタン・ダイヤル等の操作

LV/🗑ボタン	撮影済み画像を破棄して、1回目から撮影し直し
MENUボタン	撮影済み画像を保存して終了

上記の操作をするか、設定した回数の撮影が終了すると、手順3の画面に戻ります。

7 MENUボタンを2回押す

多重露出が終了します。



露出ブラケットとレンズ補正は無効です。

動画を撮影する

本機では、以下の形式の動画が撮影できます。

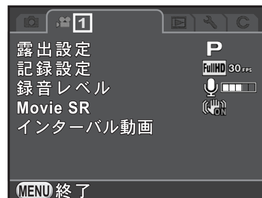
- 音声　モノラル
- ファイル形式　MPEG-4 AVC/H.264（拡張子：.MOV）

動画の設定を変更する

「動画」メニューまたはコントロールパネルで動画の設定を行います。ここでは、「動画1」メニューから設定する手順を説明します。

1 モードダイヤルをに合わせてMENUボタンを押す

「動画1」メニューが表示されます。
他の撮影モードでMENUボタンを押したときは、前電子ダイヤル（）を回して切り替えます。



2 十字キー（▲▼）で「露出設定」を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）でP／Av／Mを選択し、OKボタンを押す

P	露出は自動で設定されます。露出補正が設定できます。（初期設定）
Av	絞り値／露出補正が設定できます。
M	シャッター速度／絞り値／ISO感度が設定できます。

4 十字キー（▲▼）で「記録設定」を選び、十字キー（▶）を押す

「記録設定」画面が表示されます。

5 「記録サイズ」を選択する

記録サイズ	画素数	アスペクト比	フレームレート
FullHD（初期設定）	1920×1080	16:9	30fps／25fps／24fps
HD	1280×720	16:9	60fps ／ 50fps ／ 30fps ／25fps／24fps
VGA	640×480	4:3	30fps／25fps／24fps

設定を変更すると、その設定で撮影できる時間が画面右上に表示されます。

6 「フレームレート」を選択する

記録サイズによって、選択できるフレームレートが異なります。

7 「画質」を★★★／★★／★から選択する

8 MENUボタンを押す

「動画1」メニューに戻ります。

9 十字キー（▲▼）で「録音レベル」を選び、十字キー（◀▶）で録音レベルを選択する

0～5の範囲で設定します。

（0）を選択すると、音声は録音されません。

10 十字キー（▲▼）で「Movie SR」を選び、十字キー（▶）を押す

11 十字キー（▲▼）で ON／OFF を選択してOKボタンを押す

ON	手ぶれ補正を行う（初期設定）
OFF	手ぶれ補正を行わない

12 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。



上記の設定は、コントロールパネルで設定することもできます。

動画を撮影する

1 **モードダイヤルを🎥に合わせる**

動画撮影用のライブビューが表示されます。

2 **画像モニターで被写体を確認する**

必要に応じて露出を設定します。



ボタン・ダイヤル等の操作

後電子ダイヤル（R）	（露出設定 **Av**／**M**）絞り値設定（撮影前のみ）
前電子ダイヤル（Q）	（露出設定 **M**）シャッター速度設定
mボタン →後電子ダイヤル（R）	（露出設定 **P**／**Av**）露出補正（±2 EV）
十字キー（▲）	（露出設定 **M**）ISO感度設定

3 **シャッターボタンを半押しする**

合焦動作が行われます。

フォーカスモードを**MF**に設定しているときは、レンズのピントリングを回してピントを合わせます。

4 **シャッターボタンを全押しする**

動画の撮影が開始されます。

撮影中は、画面右上に赤の●が点滅表示されます。

5 **もう一度シャッターボタンを押す**

撮影が終了します。

注意

- 「録音レベル」を 🎙（0）以外に設定している場合、カメラの動作音なども録音されます。動画を撮影するときは三脚を使用し、撮影中はなるべくカメラを操作しないようにしてください。
- ストロボは使用できません。
- デジタルフィルターなどの画像処理を設定して撮影した場合、部分的にコマが抜けて記録されることがあります。
- 動画撮影中にカメラ内部が高温になったときは、回路保護のため強制終了する場合があります。

メモ

- 動画撮影時は、フォーカスモードの設定にかかわらず、ピントが合っていなくてもシャッターボタンを全押しすると撮影が開始されます。
- 動画は最大4GB、または最長25分まで連続して撮影できます。SDメモリーカードがいっぱいになると撮影が中断し、保存されます。
- 🎥モード中の画面表示は「📷撮影4」メニューの「ライブビュー」の設定に従います。（p.105）
- 前／後電子ダイヤルと ⦿ ボタンを操作したときにどのように動作するかを、「📷撮影4」メニューの「電子ダイヤル」で設定できます。（p.162）
- 長時間撮影するときは、別売のACアダプターキットのご使用をお勧めします。
- 別売のリモコンで動画撮影を開始することもできます。（p.119）🎥 モードで十字キー（▶）を押すと、通常のドライブモードの設定画面ではなく、リモコンのオン／オフを選択する画面が表示されます。

インターバル動画

設定した時刻から一定間隔で静止画を撮影し、1つの動画ファイル（Motion JPEG、拡張子：.AVI）として記録します。
以下の設定を行います。

撮影間隔	3秒／5秒／10秒／30秒／1分／5分／10分／30分／1時間から選択します。
撮影所要時間	撮影の開始から終了までの時間を12秒～99時間で設定します。「撮影間隔」によって、設定できる時間が異なります。
開始トリガー	1枚目を撮影するタイミングを選択します。「即時」はすぐに撮影が開始され、「時刻指定」の場合は「撮影開始時刻」を設定します
撮影開始時刻	撮影を開始する時刻を設定します。



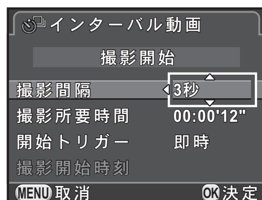
モードダイヤルが🎥になっているときだけ選択できます。

1 「🎥動画1」メニューの「インターバル動画」を選び、十字キー（▶）を押す

「インターバル動画」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「撮影間隔」を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で撮影間隔を選択してOKボタンを押す



4 十字キー（▲▼）で「撮影所要時間」を選び、十字キー（▶）を押す

5 十字キー（◀▶）で時／分／秒を選び、十字キー（▲▼）で時間を設定する

設定が終わったら、**OK** ボタンを押します。

6 十字キー（▲▼）で「開始トリガー」を選び、十字キー（▶）を押す

7 十字キー（▲▼）で即時／時刻指定を選択して OK ボタンを押す

「即時」を選択した場合は、手順10に進みます。

8 十字キー（▲▼）で「撮影開始時刻」を選び、十字キー（▶）を押す

9 十字キー（◀▶）で時／分を選び、十字キー（▲▼）で時刻を設定する

設定が終わったら、**OK** ボタンを押します。

10 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選び、OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

11 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

12 シャッターボタンを全押しする

「開始トリガー」が「即時」の場合は、すぐに撮影されてクイックビューが表示されてから画像モニターの表示が消えます。

設定した枚数の撮影が終了すると、「インターバル撮影を終了しました」と表示され、通常の撮影待機状態に戻ります。



インターバル動画を撮影する場合は、別売のACアダプターキットを使用するか、十分に充電したバッテリーを使用してください。インターバル動画撮影中にバッテリーがなくなると、撮影が途中で終了することがあります。

撮影した動画を再生する

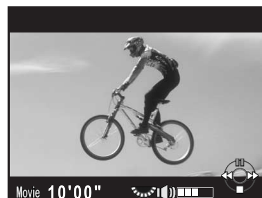
撮影した動画は、静止画と同様に再生モードで再生できます。

1 再生モードの1画像表示で再生する動画を選ぶ

動画の1コマ目の画像が表示されます。

2 十字キー（▲）を押す

動画が再生されます。



ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲）	一時停止／再開
十字キー（▶）	（一時停止中）コマ送り
十字キー（▶）長押し	早送り再生
十字キー（◀）	（一時停止中）コマ戻し
十字キー（◀）長押し	早戻し再生
十字キー（▼）	停止 （停止中）再生モードパレットを表示（p.174）
後電子ダイヤル（　）	音量調節（6段階）
INFOボタン	情報表示／情報表示なし切り替え
ボタン	（一時停止中）表示中の画像をJPEG形式で保存（p.135）

再生が終わると停止し、1コマ目の画像が表示されます。



- 別売のAVケーブルを利用すると、テレビなどのAV機器で再生ができます。（p.200）
- パソコンに転送して動画を再生する場合は、QuickTimeが必要です。（p.228）

動画から静止画を切り出す

動画の1コマをJPEG形式の静止画として保存することができます。

1 **p.134の手順2の画面で十字キー（▲）を押して一時停止させる**

2 **十字キー（◀▶）を押して静止画で保存する1コマを表示する**

フレーム番号/総フレーム数



3 **⊠ボタンを押す**

保存の確認画面が表示されます。

4 **十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す**

動画から切り出された画像がJPEG形式で保存されます。

動画を編集する

動画を分割したり、不要な範囲を消去することができます。

1 再生モードの1画像表示で再生する動画を選ぶ

動画の1コマ目の画像が表示されます。

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

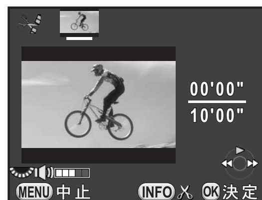
3 十字キー（▲▼◀▶）で ✂（動画編集）を選び、OK ボタンを押す

動画を編集する画面が表示されます。

4 分割する箇所を指定する

画面上部に分割位置の先頭のコマが表示されます。

4箇所（5分割）まで指定できます。



ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲）	再生／一時停止
十字キー（▶）	（一時停止中）コマ送り
十字キー（▶）長押し	早送り再生
十字キー（◀）	（一時停止中）コマ戻し
十字キー（◀）長押し	早戻し再生
後電子ダイヤル（⌒）	音量調節（6段階）
INFOボタン	分割位置指定／解除

消去しない場合は、手順8に進みます。

5 LV/🗑 ボタンを押す

消去範囲を指定する画面が表示されます。

6 十字キー（◀▶）で選択枠を移動し、OKボタンを押す



消去する範囲が選択されます。複数の範囲が選択できます。

もう一度OKボタンを押すと、選択が解除されます。

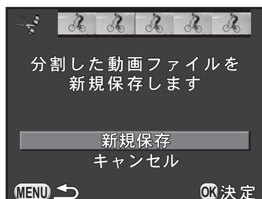
7 MENUボタンを押す

手順4の画面に戻ります。

8 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

9 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す



指定した箇所が分割／消去された画像が新規保存され、1画像表示に戻ります。



- 分割位置は、動画の時系列に沿って先頭から順に指定します。分割位置を解除するときは、逆方向（後ろから前）に順に指定します。分割指定している途中に分割位置を追加したり、途中の分割指定を解除することはできません。
- 録画時間が短い動画は分割できません。

メモ

5 撮影のための設定

この章では、画像の保存形式や撮影時の動作の設定を説明しています。

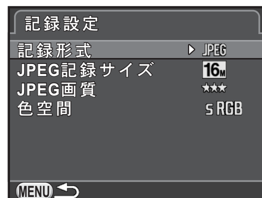
画像の記録形式を設定する

静止画のファイルフォーマット／記録サイズ／画質／色空間を設定します。

1 **「📷撮影1」メニューの「記録設定」を選択し、十字キー（▶）を押す**

「記録設定」画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）で記録形式／JPEG記録サイズ／JPEG画質／色空間を選択し、十字キー（▶）を押す**



各設定の詳細は、p.141～p.142を参照してください。

3 **十字キー（▲▼）で設定を変更し、OKボタンを押す**

4 **MENUボタンを2回押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。



- 記録形式／JPEG記録サイズ／JPEG画質は、コントロールパネルで設定することもできます。
- 記録形式／JPEG記録サイズ／JPEG画質を変更すると、その設定で撮影できる枚数が画像モニターに表示されます。

記録形式

画像のファイルフォーマットを設定します。

JPEG	JPEG形式で記録します。（初期設定） 「JPEG記録サイズ」と「JPEG画質」が設定できます。
RAW	CMOSセンサーからの出力を加工せずに記録するデータ形式です。Adobe Systems 社が提唱する汎用フォーマットのDNG（Digital Negative）形式のRAWファイルで記録します。 ホワイトバランス／カスタムイメージ／色空間などの設定は画像に反映されず、情報として記録されます。「RAW展開」（p.196）時は、これらの設定を使ってJPEG画像が作成されます。
RAW+	JPEG形式とRAW形式の両方で記録します。 **RAW/Fx**ボタンに「ワンタッチRAW+」を割り当てているときは、ボタンを押すと一時的に両形式で記録することができます。（p.166）



- デジタルフィルター／HDR撮影を設定しているときは、「JPEG」から変更できません。変更するときは、これらの機能をオフに設定してください。
- SCN モードの （夜景 HDR）を選択しているときは、設定にかかわらず「JPEG」で撮影されます。

JPEG記録サイズ

記録形式がJPEGのときの記録サイズを選択します。

記録サイズ	画素数
16M	4928×3264（初期設定）
12M	4224×2816
8M	3456×2304
5M	2688×1792



- 画素数が多くなるほど画像の容量が大きくなります。また、「JPEG画質」の設定によっても容量が異なります。
- 撮影した画像の美しさや鮮明さは、撮影時の設定や使用するプリンターの解像度等によって異なります。

JPEG画質

JPEG画像の画質（圧縮比）を設定します。初期設定は、★★★（スーパーファイン）です。

★★★	スーパーファイン	↑ 画質：鮮明　容量：大
★★	ファイン	
★	エコノミー	↓ 画質：粗　容量：小

色空間

使用する色空間を設定します。

sRGB	パソコンを中心とした機器で広く使われています。（初期設定）
AdobeRGB	sRGB色空間よりも広い色再現範囲を持っており、主に商業印刷などの業務用途で使われています。



色空間の設定によって、ファイル名の付け方が次のようになります（「xxxx」は4桁の連番）。

sRGBのとき：　　IMGPxxxx.JPG
AdobeRGBのとき：_IGPxxxx.JPG

ホワイトバランスを設定する

白いものが白く写るように撮影時の光の状態に応じて画像の色合いを調整します。

項目	設定	色温度 *1
AWB オート	カメラが自動調整します。(初期設定)	約4000〜8000K
太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。	約5200K
日陰	日陰で撮影するときに設定します。青みを抑えます。	約8000K
曇天	曇りの日に撮影するときに設定します。	約6000K
蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。蛍光灯の種類が選択できます。 **D** 昼光色蛍光灯 **N** 昼白色蛍光灯 **W** 白色蛍光灯 **L** 電球色蛍光灯	 約6500K 約5000K 約4200K 約3000K
白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。赤みを抑えます。	約2850K
WB ストロボ	内蔵ストロボを使用して撮影するときに設定します。	約5400K
CTE *2	光源の特徴を誇張し、色味を残します。	—
マニュアル1~3	撮影時の光の状態で手動でホワイトバランスを調整します。3種類の設定が保存できます。	—
K 色温度	色温度を数値で設定します。	—

*1 色温度(K)は目安です。正確な色を示すものではありません。
*2 CTE = Color Temperature Enhancement



AUTO/**SCN**モードのときは、**AWB**固定です。

1 撮影待機状態で十字キー（▼）を押す

ホワイトバランスを設定する画面が表示されます。
直前に撮影した画像がある場合は、背景に表示されます。

2 十字キー（◀▶）でホワイトバランスを選択する



蛍の場合は、十字キー（▼）を押してから十字キー（◀▶）で**D**／**N**／**W**／**L**を選択します。
微調整が必要ないときは、手順6に進みます。

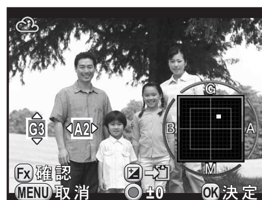
ボタン・ダイヤル等の操作

RAW/Fxボタン	設定を適用した背景画像をデジタルプレビューで表示（ファインダー撮影時のみ）
☒ボタン	背景画像を保存（保存可能なときのみ）
INFOボタン	微調整画面を表示

3 INFOボタンを押す

微調整画面が表示されます。

4 微調整をする



ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼）	G-M（グリーン－マゼンタ）間
十字キー（◀▶）	B-A（ブルー－アンバー）間
⦿ボタン	調整値をリセット

5 OKボタンを押す

手順2の画面に戻ります。

6 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。



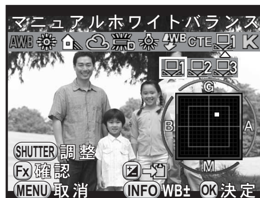
ストロボを発光したときのホワイトバランスについては、「**C** カスタム2」メニューの「10. ストロボ発光時のWB」で **AWB**／変更しない／ストロボから選択します。

マニュアルでホワイトバランスを調整する

撮影時の光源に合わせて任意の場所のホワイトバランスを測定します。

1 p.144の手順2の画面でを選択して十字キー（▼）を押す

2 十字キー（◀▶）で1～3を選択する



3 ホワイトバランスを測定する照明の下で白く写したい被写体を選ぶ

または、白い紙等をファインダー／画像モニター中央に入れます。

4 シャッターボタンを全押しする

シャッターがきれないときは、**MF** モードにしてください。
測定範囲を選択する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼◀▶）で測定枠を移動する

6 OKボタンを押す

ホワイトバランスが測定され、手順2の画面に戻ります。

必要に応じて微調整をしてください。

測定がうまくいかなかったときは、「正しく処理できませんでした」と表示されます。**OK**ボタンを押すと、再測定ができます。

7 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。



極端な露出オーバーや露出アンダーの状態では、ホワイトバランス調整ができない場合があります。その場合は、適正露出に調整した上で、ホワイトバランス調整を行ってください。

撮影済み画像のホワイトバランス設定を登録する

撮影した画像のホワイトバランスの設定をコピーし、マニュアルホワイトバランスに登録できます。



ホワイトバランスをコピーできるのは、このカメラで撮影した静止画のみです。また、次の画像は選択できません。

- 多重露出画像
- インデックス画像
- 動画から切り出した静止画

1 再生モードの1画像表示で十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

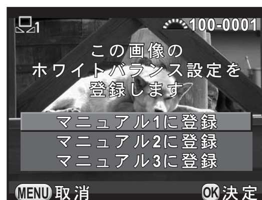
2 十字キー（▲▼◀▶）で 凸（マニュアル WB 登録）を選び、OKボタンを押す

登録の確認画面が表示されます。

3 前電子ダイヤル（ ）で画像を選択する

4 十字キー（▲▼）で登録する番号を選択し、OKボタンを押す

指定した画像の設定がマニュアルホワイトバランスに登録され、撮影できる状態になります。ホワイトバランスの設定は⊡になります。



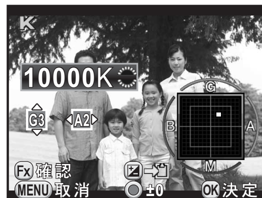
色温度でホワイトバランスを調整する

色温度を数値で設定します。

1 p.144の手順2の画面でKを選択し、INFOボタンを押す

2 前／後電子ダイヤルで色温度を調整する

2500～10000Kの範囲で設定できます。



電子ダイヤルによって色温度のステップが異なります。

電子ダイヤル	ケルビン	ミレッド *1
前（前ダイヤル）	1ステップ（100K）	1ステップ（20ミレッド）
後（後ダイヤル）	10ステップ（1000K）	5ステップ（100ミレッド）

*1 色温度のステップ単位の初期設定はケルビンです。「**C** カスタム 2」メニューの「12. 色温度ステップ」でステップ単位をミレッドに設定できます。数値はケルビン換算で表示されます。

3 OKボタンを押す

ホワイトバランスを選択する画面に戻ります。

4 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

画像を補正して撮影する

明るさやレンズ特性を補正して撮影することができます。

明るさを補正する

ダイナミックレンジを拡大して表現できる階調の幅を広げ、白とび・黒つぶれを防ぎます。

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でハイライト補正／シャドー補正を選択し、OKボタンを押す

「ハイライト補正」「シャドー補正」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で設定を選択する

ハイライト補正は、オート（初期設定）／オン／オフが選択できます。



シャドー補正は、オート（初期設定）／弱／中／強／オフが選択できます。



4 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。



- 「ハイライト補正」をオンに設定すると、最低感度はISO 200になります。
- ハイライト補正／シャドー補正をメニューから設定するときは、「撮影2」メニューの「D-Range設定」で設定します。

ハイダイナミックレンジ撮影を行う

ハイダイナミックレンジ撮影とは、標準／アンダー／オーバーの画像を合成して暗部から明部までを1枚の画像で表現する撮影方法です。
本機は、以下のハイダイナミックレンジ撮影ができます。

HDR撮影	コントロールパネル、または「撮影1」メニューで設定します。
（夜景HDR）	SCNモードから選択します。（p.82）

ここでは、「HDR撮影」の設定方法を説明します。



- 以下のときは、HDR撮影はできません。
  - 「記録形式」をRAW／RAW+に設定しているとき
  - Bモードのとき
- HDR撮影／（夜景HDR）では、以下の機能は使用できません。
  - 連続撮影
  - 露出ブラケット
  - ストロボ
  - 多重露出
  - デジタルフィルター
- （夜景HDR）を選択しているときは、撮影モードの設定が優先されます。
- HDR撮影／（夜景HDR）は画像を合成するため、保存に時間がかかります。

1 「撮影1」メニューの「HDR撮影」を選び、十字キー（▶）を押す

「HDR撮影」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で設定を選択してOKボタンを押す



3 十字キー（▲▼）で「自動位置調整」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	自動位置調整を行います。「Shake Reduction」の設定に従って、手ぶれ補正を行います。（初期設定）
□	自動位置調整を行いません。「Shake Reduction」はオフ固定です。

4 十字キー（▲▼）で「振り幅設定」を選び、十字キー（▶）を押す

5 十字キー（▲▼）で露出を変化させる幅を選択してOKボタンを押す

±1 EV／±2 EV（初期設定）／±3 EVが設定できます。

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。



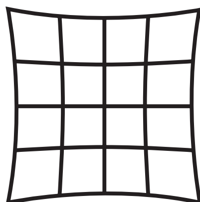
- 手順2の設定は、コントロールパネルで設定することもできます。
- 「Shake Reduction」と「自動位置調整」が両方ともオンの場合、次の点に注意してください。
  - 3コマの撮影中に構図がずれないように撮影してください。コマ間の構図のずれが大きいと、自動位置調整ができない場合があります。
  - 手ぶれや被写体ぶれの影響を受けやすいため、シャッタースピードを速めに、ISO感度を高めに設定してください。
  - ISO感度を「ISO AUTO」に設定している場合、通常より感度が上がりやすくなります。
  - 焦点距離が100mmを超えるレンズや、被写体全体が格子模様や単調な面の場合は、自動位置調整ができない場合があります。
- （夜景HDR）を選択しているときのHDR撮影の設定は「オート」、「自動位置調整」はオン固定です。
- **RAW/Fx**ボタンに「ワンタッチRAW+」を割り当てているときにボタンを押すと、一時的にHDR撮影はオフとなりRAW+で記録されます。

レンズ特性を補正する

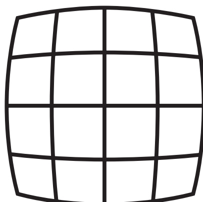
レンズの特性によって生じる歪曲収差と倍率色収差を軽減します。

● **歪曲収差（ディストーション）**

画像の両端が縮まって、中央部分が膨らんだように写ったり（樽型歪曲）、逆に中央部分が縮まったように写る（糸巻型歪曲）現象をいいます。歪曲収差はズームレンズや小口径のレンズに発生しやすい現象で、壁や水平線が曲がったように写ります。



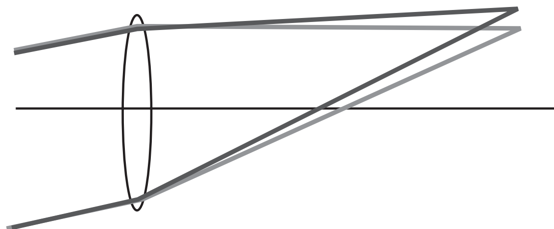
糸巻型歪曲



樽型歪曲

● **倍率色収差**

画像を写す際に色（光の波長）によって画像の倍率が異なり、画像がずれてしまう現象をいいます。焦点距離が短くなると、色収差が起こりやすくなります。



注意

- DA・DA L・D FAレンズと一部のFAレンズを使用したときのみ、補正できます。対応レンズ以外を装着している場合は、選択できません。（p.255）
- 接写リングやリアコンバーターなどレンズとカメラの間に装着するアクセサリーを使用すると、レンズ補正は無効になります。
- ディストーション補正を使用すると、連続撮影の撮影速度が遅くなる場合があります。
- 撮影条件等によっては、レンズ補正の効果がほとんど感じられない場合があります。

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でディストーション補正／倍率色収差補正を選択し、OKボタンを押す

「ディストーション補正」「倍率色収差補正」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でオフ／オンを切り替える

ディストーション補正
オン



MENU 取消　OK 決定

4 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

メモ

- 対応レンズを装着し、「記録形式」がRAW／RAW+の場合は、RAWファイルのパラメーターとして補正情報が記録され、RAW展開時にオン／オフが選択できます。（p.197）
- ディストーション補正／倍率色収差補正をメニューで設定するときは、「📷 撮影2」メニューの「レンズ補正」で設定します。

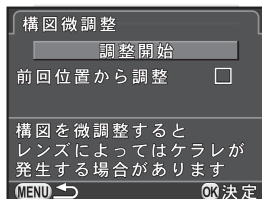
構図を補正する

Shake Reductionユニットを移動させることによって、構図の位置と傾きを補正します。三脚などにカメラを固定した状態で構図を調整したいときに使用します。

1 「撮影3」メニューの「構図微調整」を選び、十字キー（▶）を押す

「構図微調整」画面が表示されます。

2 「調整開始」でOKボタンを押す



前回設定した調整位置から調整を開始する場合は、「前回位置から調整」を☑にします。

ライブビューが表示され、構図が調整できる状態になります。

3 構図を補正する



補正量が画面右上にステップ数で表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	構図を上下左右に移動 撮像素子上で±1.0mm程度（最大16ステップ）まで調整できます。
後電子ダイヤル（ ）	構図の傾きを調整 ±1°程度（最大8ステップ）まで調整できます。
⦿ボタン	調整値をリセット

4 OKボタンを押す

通常のライブビュー表示になり、撮影できる状態になります。



- 「Shake Reduction」と「自動水平補正」は無効です。
- ライブビューを終了すると、構図微調整の値はリセットされます。
- 構図微調整を頻繁に使用する場合は、**RAW**/**Fx**ボタンに割り当てて利用することもできます。（p.165）

仕上がりイメージを設定して撮影する

どのような雰囲気の画像にしたいかを設定して撮影します。

カスタムイメージを設定する

画像の仕上がりイメージ（画像仕上）を設定して撮影することができます。
以下の画像仕上が選択できます。

画像仕上	イメージ
鮮やか	彩度・色相・コントラストを高めにし、メリハリのある画像に仕上げます。（初期設定）
ナチュラル	実際の色合いに近い自然な仕上がりです。
人物	肌色を健康的に仕上げます。
風景	木々の緑や青空などの輪郭・彩度を強調して鮮やかな色に仕上げます。
雅（MIYABI）	色合いを変化させて古風な雰囲気に仕上げます。
ポップチューン	艶やかさを強調し、華やかに仕上げます。
ほのか	彩度を低めにして柔らかな雰囲気に仕上げます。
銀残し	彩度を低くし、コントラストを高めにして古い写真のような雰囲気に仕上げます。
リバーサルフィルム	リバーサルフィルムで撮影したような、明暗差を強調した仕上がりです。
モノトーン	モノクロ用の色フィルターを使用して撮影します。
クロスプロセス	色合いやコントラストを故意に変化させます。撮影するたびに異なった処理結果が得られます。



AUTO／**SCN**モードのときは、それぞれの撮影モードに合った画像仕上が自動的に設定されるため、設定を変更することはできません。

1　撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「カスタムイメージ」を選択し、OKボタンを押す

カスタムイメージを設定する画面が表示されます。
直前に撮影した画像がある場合は、背景に表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で画像仕上を選択する



設定に応じて背景画像が変化します。
パラメーターを変更する必要がないときは、手順8に進みます。

ボタン・ダイヤル等の操作

⊠ボタン	背景画像を保存（保存可能なときのみ）
INFOボタン	パラメーター調整画面を表示
RAW/Fxボタン	設定を適用した背景画像をデジタルプレビューで表示（ファインダー撮影時のみ）

4 INFOボタンを押す

パラメーター調整画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で変更したいパラメーターを選択する



選択した画像仕上によって以下のパラメーターが変更できます。

画像仕上	パラメーター
鮮やか／ナチュラル／人物／風景／雅（MIYABI）／ポップチューン	彩度：-4～+4
	色相：-4～+4
	キー：-4～+4
	コントラスト：-4～+4
	シャープネス：-4～+4
ほのか／銀残し	彩度：-4～+4
	調色：オフ／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／パープル／ブルー／シアン
	キー：-4～+4
	コントラスト：-4～+4
	シャープネス：-4～+4
リバーサルフィルム	シャープネス：-4～+4
モノトーン	フィルター効果：なし／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／赤外調
	調色：オフ／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／パープル／ブルー／シアン
	キー：-4～+4
	コントラスト：-4～+4
	シャープネス：-4～+4
クロスプロセス	シャッフル／プリセット1～3／お気に入り1～3 *1

*1 再生モードパレットで撮影済み画像の設定が登録できます。（p.158）

6 十字キー（◀▶）で値を調整する

彩度／色相は、レーダーチャートで確認できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

後電子ダイヤル（R）	シャープネス／ファインシャープネス切り替え
⦿ボタン	調整値をリセット

7 OK ボタンを押す

手順3の画面に戻ります。

8 OK ボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。



メニューから設定するときは、「◘撮影1」メニューで設定します。

撮影済み画像のクロスプロセス設定を登録する

クロスプロセスは、撮影するたびに処理結果が異なります。気に入ったクロスプロセス画像が撮影できたときは、その設定を登録しておくことができます。3つまで登録できます。

1 再生モードの1画像表示で十字キー（▼）を押す

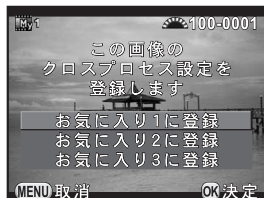
再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で （クロスプロセス登録）を選び、OKボタンを押す

最新の画像から順にクロスプロセス画像を検索します（検索中は砂時計のアイコンが表示されます）。画像が見つかると、登録の画面が表示されます。

クロスプロセス画像がない場合は、「クロスプロセス撮影画像がありません」と表示されます。

3 前電子ダイヤル（ ）でクロスプロセス画像を選択する



4 十字キー（▲▼）で登録する番号を選択し、OKボタンを押す

指定した画像の設定がお気に入り1～3に登録され、登録に使用した画像が1画像表示されます。

デジタルフィルターを設定する

フィルターをかけて撮影します。
以下のフィルターが選択できます。

フィルター名	効果	パラメーター
色抽出	特定の1色または2色だけを抽出し、他の部分を白黒で撮影します。	抽出色 1：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色1の感度：1～5
		抽出色2：オフ／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色2の感度：1～5
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像を撮影します。	シェーディング強度：オフ／弱／中／強（動画モードは無効）
		ぼかし：弱／中／強
		トーンブレイク：レッド／グリーン／ブルー／イエロー
レトロ	古い写真のような画像を撮影します。	調色（B-A）：7段階
		縁取り：なし／細／中／太（動画モードは無効）
ハイコントラスト	コントラストを強くして撮影します。	強度：1～5
シェーディング *1	周辺を暗くした画像を撮影します。	シェーディングタイプ：4種類
		シェーディング強度：-3～+3
ネガポジ反転	画像を反転して撮影します。	オフ／オン
カラー	選択したカラーフィルターをかけて撮影します。	色：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		濃淡：薄／中／濃

*1 動画モードでは選択できません。

注意
- 以下のときは、デジタルフィルターは選択できません。
  - SCNモードの夜景HDR（夜景HDR）を選択しているとき
  - 「記録形式」をRAW／RAW+に設定しているとき
- デジタルフィルターを設定すると、以下の機能は使用できません。
  - 連続撮影
  - 多重露出
  - HDR撮影
  - インターバル撮影
- フィルターによっては、画像の保存に時間がかかることがあります。

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「デジタルフィルター」を選択し、OKボタンを押す

デジタルフィルターを設定する画面が表示されます。
直前に撮影した画像がある場合は、背景に表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）でフィルターを選択する



設定に応じて背景画像が変化します。
パラメーターを変更する必要がないときは、手順7に進みます。

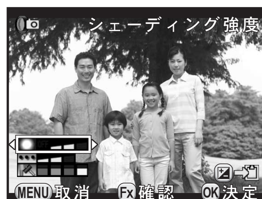
ボタン・ダイヤル等の操作

INFOボタン	パラメーター調整画面を表示
ボタン	背景画像を保存（保存可能なときのみ）
RAW/Fxボタン	設定を適用した背景画像をデジタルプレビューで表示（ファインダー撮影時のみ）

4 INFOボタンを押す

パラメーター調整画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）でパラメーターを選択し、十字キー（◀▶）で値を調整する



⦿ボタンを押すと、値がリセットされます。

6 OKボタンを押す

手順3の画面に戻ります。

7 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。



- メニューから設定するときは、「撮影1」メニューで設定します。
- デジタルフィルター撮影を終了するときは、手順3で「フィルターオフ」を選択します。
- JPEG／RAW画像は、撮影後にデジタルフィルターで加工することもできます。（p.189）
- トイカメラ／シェーディングの「シェーディング強度」は、ライブビューでは確認できません。

ボタン／ダイヤルの機能をカスタマイズする

前／後電子ダイヤルと**RAW/Fx**ボタン／**AF/AE-L**ボタンは、機能を割り当てて使用することができます。
各ボタン／ダイヤルの現在の機能は、ガイド表示で確認できます。



電子ダイヤルの動作を設定する

前／後電子ダイヤルと⦿ボタンを操作したときの動作を露出モードごとに設定します。

1 「撮影4」メニューの「電子ダイヤル」を選択し、十字キー（▶）を押す

「電子ダイヤル1」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で露出モードを選ぶ

後電子ダイヤル（）で「電子ダイヤル2」画面に切り替えます。

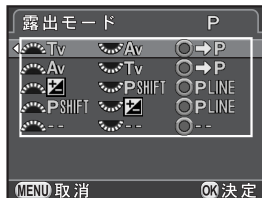


3 十字キー（▶）を押す

選択した露出モードの画面が表示されます。

4 十字キー（▶）を押してから十字キー（▲▼）で動作を選択する

それぞれ以下の設定が選択できます。



露出モード	前電子ダイヤル	後電子ダイヤル	◉ボタン	
P	Tv	Av	➡P	（初期設定）
	Av	Tv	➡P	
	±	P SHIFT	P LINE	
	P SHIFT	±	P LINE	
	--	--	--	
Sv	--	ISO	--	（初期設定）
	ISO	--	--	
	P SHIFT	ISO	P LINE	
	ISO	P SHIFT	P LINE	
	±	ISO	--	
	ISO	±	--	
Tv	Tv	--	--	（初期設定）
	--	Tv	--	
	Tv	±	--	
	±	Tv	--	
	Tv	ISO	ISO AUTO	
	ISO	Tv	ISO AUTO	
Av	--	Av	--	（初期設定）
	Av	--	--	
	±	Av	--	
	Av	±	--	
	ISO	Av	ISO AUTO	
	Av	ISO	ISO AUTO	

露出モード	前電子ダイヤル（　）	後電子ダイヤル（　）	◉ボタン	
TAv／M	Tv	Av		（初期設定）
	Av	Tv		
			PLINE	（初期設定）
			TvSHIFT	
			AvSHIFT	
			--	
B	--	Av	--	（初期設定）
	Av	--	--	
	ISO	Av	--	
	Av	ISO	--	
	「動画1」メニューの「露出設定」（p.128）によって異なる			

Tv：シャッター速度変更　Av：絞り値変更　ISO：ISO感度変更　：露出補正
➡P：Pに戻る　PLINE：プログラムライン　PSHIFT：プログラムシフト
--：操作無効

5 OKボタンを押す

6 MENUボタンを押す

手順2の画面に戻ります。
他の露出モードも設定する場合は、手順2～6を繰り返します。

7 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

RAW/Fxボタンの動作を設定する

RAW/Fx ボタンには、次のいずれかの機能が割り当てられます。

ワンタッチRAW+	「記録形式」の設定にかかわらず、JPEG形式とRAW形式を同時に記録します。撮影ごとに解除するかどうかと、ボタンを押したときの記録形式を選択します。（p.166）（初期設定）
露出ブラケット	露出ブラケット撮影を行います。（p.91）
光学プレビュー	ボタンを押している間、設定した絞り値まで絞って被写界深度の確認ができます。（p.112）
デジタルプレビュー	デジタルプレビューを表示します。（p.113） 拡大表示／プレビュー画像保存／ヒストグラム表示／白とび黒つぶれ警告を行うかどうか設定できます。
構図微調整	構図微調整を行います。（p.153）
測距点切替	測距点が「セレクト」に設定されているときに、測距点移動の有効／無効を切り替えます。（p.103）

1 「撮影4」メニューの「ボタンカスタマイズ」を選択し、十字キー（▶）を押す

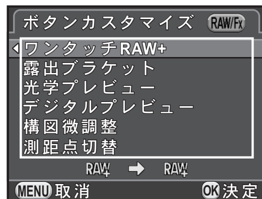
「ボタンカスタマイズ」画面が表示されます。

2 RAW/Fxで十字キー（▶）を押す

RAW/Fx ボタンの機能を選択する画面が表示されます。



3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で機能を選択してOKボタンを押す



4 MENUボタンを3回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

ワンタッチRAW+を設定する

RAW/**Fx**ボタンの機能を「ワンタッチRAW+」に設定しているときの記録形式を設定します。

1 p.165の手順3で「ワンタッチRAW+」を選択する

2 十字キー（▲▼）で「撮影毎に解除」を選択し、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	1回撮影するたびに「記録形式」の設定に戻ります。（初期設定）
□	次の場合に設定が解除されます。 • もう一度**RAW**/**Fx**ボタンを押す • ▶ボタン／**MENU**ボタンのどちらかを押す • モードダイヤルを回す

3 十字キー（▲▼）で設定したい記録形式を選ぶ

左が「記録形式」（p.141）の設定、右が**RAW**/**Fx**ボタンを押したときの記録形式です。

4 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で記録形式を選択してOKボタンを押す



5 MENUボタンを3回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

AF/AE-Lボタンの動作を設定する

AF/AE-Lボタンには、次のいずれかの機能が割り当てられます。静止画撮影時と動画撮影時の動作がそれぞれ設定できます。

AF作動1	**AF/AE-L**ボタンとシャッターボタンのどちらでもオートフォーカスができます。（p.99）（初期設定）
AF作動2	シャッターボタン半押しの操作を無効にし、**AF/AE-L**ボタンを押したときだけオートフォーカスを行います。
AFキャンセル	**AF/AE-L**ボタンを押している間は、シャッターボタンを押してもオートフォーカスしません。**AF/AE-L**ボタンを放すと、通常のオートフォーカス動作に戻ります。
AEロック	**AF/AE-L**ボタンを押すと、露出を記憶します。（p.94）

1 **「撮影4」メニューの「ボタンカスタマイズ」を選択し、十字キー（▶）を押す**

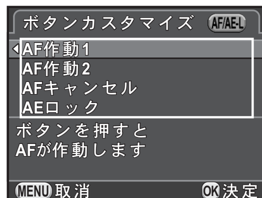
「ボタンカスタマイズ」画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）でAF/AE-Lを選択し、十字キー（▶）を押す**

マークは動画撮影時の設定です。

AF/AE-Lボタンの機能を選択する画面が表示されます。

3 **十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で機能を選択してOKボタンを押す**



4 **MENUボタンを3回押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

よく使う設定を登録する

現在のカメラの設定をまとめて登録し、簡単に呼び出すことができます。以下の設定が登録できます。

- 撮影モード（**P**／**Sv**／**Tv**／**Av**／**TAv**／**M**／**B**）
- ISO感度
- ホワイトバランス
- ストロボモード／ストロボ光量補正値
- ドライブモード
- 露出ブラケット
- 露出補正値
- デジタルフィルター
- カスタムイメージ
- HDR撮影
- 記録形式
- JPEG記録サイズ
- JPEG画質
- 色空間
- 測光方式
- AF.A
- 測距点
- レンズ補正
- D-Range設定
- 高感度NR
- 長秒時NR
- Shake Reduction／自動水平補正
- 電子ダイヤル
- ボタンカスタマイズ
- 「**C**カスタム1～4」メニューの設定

注意　モードダイヤルが**AUTO**／**SCN**／🎥になっているときは、設定できません。

設定を登録する

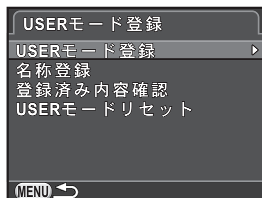
モードダイヤルの**U1**／**U2**に設定を登録します。

1　撮影モードを選択し、必要な設定を行う

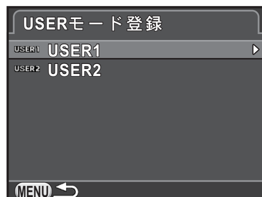
2　「📷撮影4」メニューの「USERモード登録」を選択し、十字キー（▶）を押す

「USERモード登録」画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押す

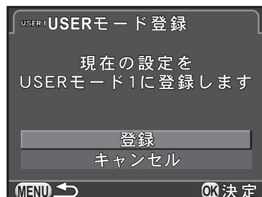


4 十字キー（▲▼）で USER1 ／ USER2を選択し、十字キー（▶）を押す



5 十字キー（▲）で「登録」を選択し、OKボタンを押す

設定が登録され、手順3の画面に戻ります。



名前を登録する

登録した設定に名前を付けることができます。

1 「設定を登録する」の手順3の画面で「名称登録」を選択し、十字キー（▶）を押す

「名称登録」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）でUSER1／USER2を選択し、十字キー（▶）を押す

文字を入力する画面が表示されます。

3 文字を入力する

半角18文字までの英数字・記号が入力できます。



ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	文字選択カーソルを移動
後電子ダイヤル（ ）	文字入力カーソルを移動
ボタン	大文字／小文字切り替え
OK ボタン	文字選択カーソルが選択している文字を文字入力カーソルの位置に入力
LV/ ボタン	文字入力カーソル位置の文字を消去

4 文字が全部入力できたら、文字選択カーソルを「確定」まで移動し、OKボタンを押す

名前が確定し、「名称登録」画面に戻ります。

登録されている設定を確認する

1　p.169の手順3の画面で「登録済み内容確認」を選択し、十字キー（▶）を押す

「登録済み内容確認」画面が表示されます。

2　十字キー（▲▼）でUSER1／USER2を選択し、十字キー（▶）を押す

登録されている現在の設定が表示されます。

十字キー（▲▼）でページを切り替えます。



3　OKボタンを押す

「USERモード登録」画面に戻ります。

登録した設定を利用する

登録した設定は簡単に呼び出せます。

1　モードダイヤルをU1／U2 に合わせる

USERモードのガイドが表示され、登録した設定が呼び出されます。このガイド表示は30秒間表示されます。

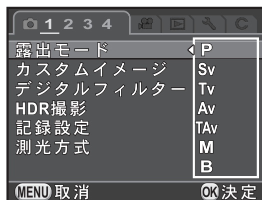
十字キー（▲▼）で登録されている設定が確認できます。



2 必要に応じて設定を変更する

撮影モードを変更する場合は、「◘撮影1」メニューの「露出モード」で変更します。

この画面はモードダイヤルが**U1**／**U2**になっているときだけ表示されます。



3 撮影する



手順2で変更した設定は、USERモードに登録されません。電源を切ると、登録済みの設定に戻ります。設定を変更する場合は、登録し直してください。

設定をリセットする

USERモードに登録した設定を初期状態に戻します。

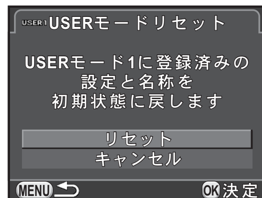
1 p.169の手順3の画面で「USERモードリセット」を選択し、十字キー（▶）を押す

「USERモードリセット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）でUSER1／USER2を選択し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲）で「リセット」を選択し、OKボタンを押す

設定と名称が初期設定に戻り、メニュー選択前の画面に戻ります。



6 いろいろな再生と画像編集

さまざまな再生方法と画像編集についてご紹介します。

再生・編集関連機能の操作

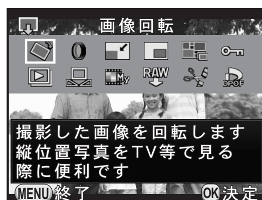
再生や編集に関する機能は、再生モードパレット／「▶再生」メニューで指定します。



メニューの操作方法は、「メニューで設定する」（p.38）を参照してください。

再生モードパレットの設定項目

1画像表示で十字キー（▼）を押すと、再生モードパレットが表示されます。
動画再生の停止中も、再生モードパレットを表示することができます。



項目	機能	参照
画像回転 *1	画像の回転情報を変更します。	p.183
デジタルフィルター *1	画像の色調を変えたり、ソフトやスリムに加工します。	p.189
リサイズ *1 *2	画像の記録サイズを変更し、新規保存します。	p.187
トリミング *1	画像の必要な部分だけを切り取って、新規保存します。	p.188
インデックス *1	複数の画像を1枚に貼り付けて、新たな画像を作成します。	p.194
プロテクト	画像を誤って消去しないように保護します。	p.220
スライドショウ	画像を連続して再生します。	p.182
マニュアルWB登録 *1	撮影済み画像のホワイトバランスの設定を、マニュアルホワイトバランスに登録します。	p.146
クロスプロセス登録	カスタムイメージの「クロスプロセス」で撮影された画像の設定をお気に入りとして登録します。	p.158

項目	機能	参照
RAW展開 *1	RAW画像をJPEG形式に変換して新規保存します。	p.196
動画編集 *3	動画を分割したり、不要な範囲を消去します。	p.136
DPOF *1 *2	SDメモリーカード内の画像に印刷枚数や日付を設定します。	p.224

*1 動画を表示しているときは実行できません。
*2 RAW画像を表示しているときは実行できません。
*3 動画を表示しているときのみ実行できます。

再生メニューの設定項目

「▶再生」メニューでは、以下の設定を行います。
再生モードで **MENU** ボタンを押すと、「▶再生1」メニューが表示されます。

メニュー	項目	機能	参照
▶1	スライドショウ	画像を連続して再生します。スライドショウの表示の設定を行います。	p.181
	クイック拡大	拡大表示するときの最初の拡大率を設定します。	p.176
	白とび黒つぶれ警告	再生時に白とび黒つぶれ警告を表示するかどうかを設定します。	
	画像の自動回転	縦位置で撮影した画像や回転情報を縦に変更した画像を再生時に回転して表示するかどうかを設定します。	
	全画像消去	保存されているすべての画像を消去します。	p.186

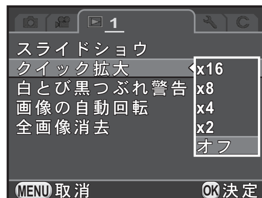
再生モードの表示を設定する

1画像表示で拡大表示（p.177）するときの最初の拡大率と、白とび黒つぶれ警告、縦位置画像の自動回転について設定します。

1 「▶再生1」メニューの「クイック拡大」を選択し、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で倍率を選択してOKボタンを押す

×16／×8／×4／×2／オフ（初期設定）から選択します。



3 十字キー（▲▼）で白とび黒つぶれ警告／画像の自動回転を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

白とび黒つぶれ警告	白とび部分を赤、黒つぶれ部分を黄色で点滅表示します。（p.32）
画像の自動回転	「Cカスタム3」メニューの「19. 回転情報の記録」が「オン」の設定で撮影した場合、回転情報に従って再生時に回転して表示します。

4 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。



「白とび黒つぶれ警告」は、詳細情報表示／RGBヒストグラム表示のときは表示されません。（p.28）

再生方法を選択する

画像を一覧表示したり、保存されている画像を連続して再生することができます。

画像を拡大表示する

再生した画像を約16倍まで拡大して表示できます。

1 **1画像表示で画像を選択する**

2 **後電子ダイヤル（ ）を右（ ）に回す**

1クリック回すごとに画像が1.2～16倍に拡大表示されます。



ボタン・ダイヤル等の操作

後電子ダイヤル（ ）右（ ）	拡大（16倍まで）
後電子ダイヤル（ ）左（ ）	縮小（1倍まで）
十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動
前電子ダイヤル（ ）	拡大倍率と拡大位置を保ったまま、前後の画像を表示
⦿ボタン	（拡大位置移動中）表示を中央に戻す
INFOボタン	標準情報表示／情報表示なし切り替え
OKボタン	1画像表示に戻る



- 1クリック目の倍率は、初期設定では1.2倍です。「 再生1」メニューの「クイック拡大」で変更できます。（p.176）
- 縦画像は、最初の全体表示が横画像に比べて0.75倍のため、拡大1クリック目は1倍で表示されます。

複数画像を表示する

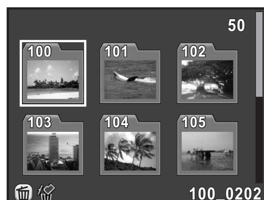
1 1画像表示で後電子ダイヤル（）を左（）に回す

9画像表示になります。



2 フォルダー表示にするときは、もう一度後電子ダイヤル（）を左（）に回す

画像が保存されているフォルダーごとに表示されます。



3 表示する画像を選択する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
LV/🗑ボタン	画像消去（p.184）
OKボタン	選択画像を1画像表示 （フォルダー表示）フォルダー内画像を1画像表示

4 後電子ダイヤル（）を右（）に回す

1画像表示に戻ります。

複数画像の表示方法を変更する

一度に表示する画像数を変更したり、撮影した日付別に表示することができます。

1 p.178の手順1の画面でINFOボタンを押す

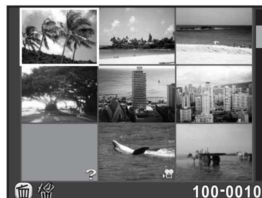
複数画像の表示を選択する画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で表示方法を選択する



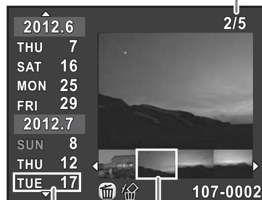
4画像表示／9画像表示／16画像表示／36画像表示／81画像表示

サムネイル上に🎥や?などのアイコンが表示されます（81画像表示を除く）。



撮影日別表示

撮影した日付ごとに画像を表示します。



ボタンダイヤル等の操作

十字キー（▲▼）	撮影日を選択
十字キー（◀▶）	撮影日の画像を選択
後電子ダイヤル（ ）右（Q）	選択画像を1画像表示 後電子ダイヤル（ ）左（ ）で撮影日別表示に戻る

3 OKボタンを押す

複数画像の表示方法が選択されます。

次に1画像表示で後電子ダイヤル（ ）を左（ ）に回したときは、ここで選択した画面が表示されます。

連続して再生する

SDメモリーカードに保存されている全画像を、スライドショウで連続再生します。

スライドショウの表示方法を設定する

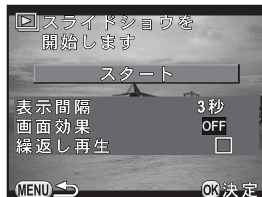
スライドショウでの表示のしかたを設定します。

1 **「▶ 再生 1」メニューの「スライドショウ」を選択し、十字キー（▶）を押す**

スライドショウの設定画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）で設定する項目を選ぶ**

次の項目が設定できます。



項目	内容	設定値
表示間隔	画像を切り替える間隔を選択します。	3秒（初期設定）／5秒／10秒／30秒
画面効果	画面を切り替えるときの効果を設定します。	オフ（初期設定）／フェード／ワイプ／ストライプ
繰返し再生	最後の画像を再生した後に、また最初から再生を繰り返すかどうか設定します。	□（初期設定）／☑

3 **十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で設定を選択してOKボタンを押す**

スライドショウを開始する

1 p.181の手順2の画面で「スタート」を選択し、OK ボタンを押す
または再生モードパレットで▣（スライドショウ）を選択し、OK ボタンを押す

スタート画面が表示され、スライドショウが始まります。



ボタン・ダイヤル等の操作

OK ボタン	一時停止／再開
十字キー（◀）	前の画像を表示
十字キー（▶）	次の画像を表示

2 十字キー（▼）を押す

スライドショウが停止し、1画像表示に戻ります。
スライドショウの再生が終わったときは、十字キー（▼）を押さなくても1画像表示に戻ります。



動画は1コマ目の画像が表示され、表示間隔の設定時間が過ぎると次の画像が再生されます。スライドショウ中に動画を再生するときは、1コマ目が表示されているときにOK ボタンを押します。動画の再生が終わると、スライドショウの続きに戻ります。

画像を回転する

縦位置で撮影すると、縦位置センサーの働きによって画像に回転情報が付加され、画像を正しい向きで再生することができます。回転情報を変更する場合は、以下の手順で再保存します。



- 「C カスタム3」メニューの「19. 回転情報の記録」が「オフ」の状態で撮影すると、画像に回転情報が付加されません。
- 「▶ 再生1」メニューの「画像の自動回転」（p.176）をオンに設定すると、回転情報が付加された画像は再生時に回転して表示されます。



- 次のときは、回転情報を変更できません。
  - プロテクトされた画像
  - 回転情報タグがない画像
  - 「▶ 再生1」メニューの「画像の自動回転」（p.176）がオフに設定されているとき
- 動画は回転表示できません。

1　1画像表示で回転する画像を選択し、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で ◇（画像回転）を選び、OK ボタンを押す

選択した画像を90°ずつ回転させた画像が表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で回転方向を選択し、OK ボタンを押す

画像の回転情報が保存されます。



複数画像を消去する

複数の画像をまとめて消去します。消去した画像は復元できないので、注意してください。

☞画像を消去できないようにする（プロテクト）（p.220）

選択して消去する

複数の画像を選択し、一括して消去します。



- プロテクトされている画像は選択できません。
- 一度に選択できるのは、100枚までです。

1 1画像表示で後電子ダイヤル（）を左（）に回す

複数画像表示になります。

2 LV/ボタンを押す

消去画像を選択する画面になります。

3 消去する画像を選択する



ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
OK ボタン	画像を選択／解除
後電子ダイヤル（）	選択画像を1画像表示 前電子ダイヤル（）で画像切り替え

4 **LV/🗑ボタンを押す**

消去の確認画面が表示されます。

5 **十字キー（▲▼）で「選択消去」を選び、OKボタンを押す**

選択した画像が消去されます。

フォルダーごと消去する

1 **1画像表示で後電子ダイヤル（ ）を左（⊞）に2クリック回す**

フォルダー表示になります。

2 **LV/🗑ボタンを押す**

消去の確認画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で「消去」を選び、OKボタンを押す**

選択したフォルダーとフォルダー内の画像が消去されます。

フォルダー内にプロテクトした画像があった場合は、確認画面が表示されます。十字キー（▲▼）ですべて消去／すべて残すを選び、**OK**ボタンを押します。「すべて消去」を選ぶと、プロテクトした画像も消去されます。

まとめて消去する

SDメモリーカードに保存されているすべての画像を消去します。

1 「▶ 再生 1」メニューの「全画像消去」を選択し、十字キー（▶）を押す

全画像消去の確認画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「全画像消去」を選び、OK ボタンを押す

全画像が消去されます。

プロテクトされた画像があった場合は、確認画面が表示されます。十字キー（▲▼）ですべて消去／すべて残すを選び、**OK** ボタンを押します。

「すべて消去」を選ぶと、プロテクトした画像も消去されます。

画像を加工する

記録サイズを変更する（リサイズ）

画像の記録サイズを変更して新規保存します。

注意
- リサイズできるのは、本機で撮影したJPEG画像のみです。
- 本機でリサイズした 0.3M ／ 0.2M の画像はリサイズできません。

1　1画像表示でリサイズする画像を選択し、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で（リサイズ）を選び、OK ボタンを押す

記録サイズを選択する画面が表示されます。

3　十字キー（◀▶）で記録サイズを選択し、OK ボタンを押す

元の画像より1つ小さいサイズから選択できます。



4　十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OK ボタンを押す

リサイズされた画像が新規保存されます。

画像の一部を切り取る（トリミング）

画像の必要な部分だけを切り取って、新規保存します。



- トリミングできるのは、本機で撮影したJPEG画像のみです。
- 本機でリサイズした 0.3M ／ 0.2M の画像はトリミングできません。

1 1画像表示でトリミングする画像を選択し、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で ⬚（トリミング）を選び、OK ボタンを押す

トリミング範囲を指定する画面が表示されます。

3 トリミングする大きさと範囲を指定する



ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	トリミング範囲を移動
後電子ダイヤル（⌒）	トリミングサイズを変更
INFOボタン →十字キー（▲▼◀▶）	アスペクト比変更 画像回転（最大±45°）
⊠ボタン	トリミング範囲を90°回転（可能なときのみ）

4 OK ボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OK ボタンを押す

トリミングされた画像が新規保存されます。

デジタルフィルターで加工する

撮影した画像を、デジタルフィルターで加工します。
以下のフィルターが選択できます。

フィルター名	効果	パラメーター
モノトーン	白黒写真のような単色の画像に加工します。	フィルター効果：オフ／レッド／グリーン／ブルー／赤外調
		調色（B-A）：7段階
色抽出	特定の1色または2色だけを抽出し、他の部分を白黒に加工します。	抽出色1：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色1の感度：1～5
		抽出色2：オフ／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色2の感度：1～5
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像に加工します。	シェーディング強度：オフ／弱／中／強
		ぼかし：弱／中／強
		トーンブレイク：レッド／グリーン／ブルー／イエロー
レトロ	古い写真のような画像に加工します。	調色（B-A）：7段階
		縁取り：なし／細／中／太
ハイコントラスト	コントラストを強くします。	強度：1～5
シェーディング	周辺を暗くした画像に加工します。	シェーディングタイプ：4種類
		シェーディング強度：-3～+3
ネガポジ反転	画像を反転します。	オフ／オン
カラー	選択したカラーフィルターをかけた画像に加工します。	色：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		濃淡：薄／中／濃
ドラマチックアート	独特なコントラストの画像に加工します。	弱／中／強
デッサン	鉛筆で下書きしたような画像に加工します。	コントラスト：低／中／高
		スクラッチ：オフ／オン
水彩画	絵の具で描いたような画像に加工します。	強度：弱／中／強
		彩度：オフ／弱／中／強

フィルター名	効果	パラメーター
パステル	クレヨンで描いたような画像に加工します。	弱／中／強
ポスタリゼーション	画像の階調を落として手描きのような雰囲気を表現します。	強度：1～5
ミニチュア	画像のボケ具合を操作してミニチュア風の写真に加工します。	芯の位置：-3～+3
		幅：狭／中／広
		角度：横／縦／右上がり／右下がり
		ぼかし：弱／中／強
ソフト	全体をぼかしたようなやわらかい画像に加工します。	ソフトフォーカス：弱／中／強
		シャドーぼかし：オフ／オン
クロス	夜景や水面の光の輝きなど、ハイライト部に光条を表現し、キラキラした雰囲気を強調します。	個数：少／中／多
		大きさ：小／中／大
		角度：0／30／45／60°
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような画像に加工します。	弱／中／強
スリム	画像の縦横比を変更します。	-8～+8
ベースメイク	各パラメーターを調整し、お好みの画像に加工します。	明るさ：-8～+8
		彩度：-3～+3
		色相：-3～+3
		コントラスト：-3～+3
		シャープネス：-3～+3



デジタルフィルターで加工できるのは、本機で撮影したJPEG／RAW画像のみです。

1 1画像表示でデジタルフィルターを設定する画像を選択し、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（デジタルフィルター）を選び、OKボタンを押す

フィルターを選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）でフィルターを選択する



設定に応じて背景画像が変化します。
前電子ダイヤル（）で画像を切り替えることもできます。
パラメーターを変更する必要がないときは、手順7に進みます。

4 INFOボタンを押す

パラメーターを調整する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）でパラメーターを選択し、十字キー（◀▶）で値を調整する



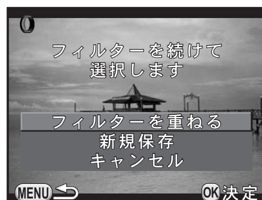
6 OKボタンを押す

手順3の画面に戻ります。

7 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

8 十字キー（▲▼）でフィルターを重ねる／新規保存を選択し、OKボタンを押す



続けて他のフィルターを重ねて指定する場合は「フィルターを重ねる」を選択します。手順3の画面に戻ります。

「新規保存」を選択した場合は、フィルター処理された画像が新規保存されます。

メモ　フィルターは撮影時デジタルフィルター（p.159）も含めて、通算20回まで重ねることができます。

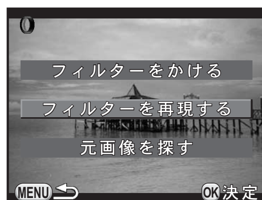
フィルターを再現する

デジタルフィルターを指定した画像の設定を呼び出し、他の画像に同じフィルターを適用します。

1 1画像表示でデジタルフィルターが設定された画像を選択する

2 再生モードパレットで（デジタルフィルター）を選び、OKボタンを押す

3 十字キー（▲▼）で「フィルターを再現する」を選び、OKボタンを押す

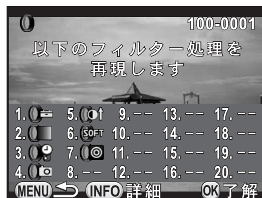


選択した画像に設定されているフィルターの履歴が表示されます。

4 詳細を確認する場合は INFO ボタンを押す

フィルターのパラメーターが確認できます。

MENUボタンを押すと、元の画面に戻ります。



5 OK ボタンを押す

画像を選択する画面が表示されます。

6 前電子ダイヤル（ ）でデジタルフィルターを設定する画像を選択し、OK ボタンを押す

フィルター処理されていない画像のみ選択できます。

保存の確認画面が表示されます。



7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OK ボタンを押す

フィルターが適用された画像が保存されます。



手順3で「元画像を探す」を選択すると、デジタルフィルターを設定する前の画像を呼び出すことができます。元の画像がSDメモリーカード内に残っていない場合は、「フィルター処理前の画像が見つかりません」と表示されます。

複数画像を貼り付ける（インデックス）

複数の画像を1画面に貼り付けてインデックスプリントのように表示します。貼り付ける画像を選択したり、ランダムに貼り付けることもできます。

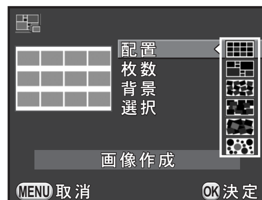
1 1画像表示で十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（インデックス）を選び、OKボタンを押す

インデックスの設定画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で配置を選択してOKボタンを押す



（サムネイル）／（スクエア）／（ランダム1）／（ランダム2）／（ランダム3）／（バブル）が選択できます。

はファイルNo.の小さい順、それ以外はランダムに画像が配置されます。

4 十字キー（▲▼）で「枚数」を選び、十字キー（▶）を押す

5 十字キー(▲▼)で貼り付ける枚数を選択し、OKボタンを押す

12／24／36から選択します。

保存されている画像の数が選択した枚数より少ない場合、「配置」がのときは空欄、それ以外は画像が重複して表示されます。

6 十字キー（▲▼）で「背景」を選び、十字キー（▶）を押す

7 十字キー（▲▼）で背景色を選択し、OKボタンを押す

白または黒を選択します。

8 十字キー（▲▼）で「選択」を選び、十字キー（▶）を押す

9 十字キー（▲▼）で画像の選択方法を選択し、OKボタンを押す

オート	保存されているすべての画像から自動的に選択します。
手動	貼り付ける画像を1つずつ選択します。続けて「画像選択」を選び、貼り付ける画像を指定します。
フォルダー	指定したフォルダーから自動的に選択します。続けて「フォルダー選択」を選び、フォルダーを指定します。

10 十字キー（▲▼）で「画像作成」を選び、OKボタンを押す

インデックス画像が作成され、確認の画面が表示されます。

11 十字キー（▲▼）で保存／再シャッフルを選び、OKボタンを押す

保存	インデックス画像を 6M（3072×2048）・★★★ のファイルで保存します。
再シャッフル	貼り付ける画像を選び直して、新たなインデックス画像を表示します。「配置」で ▦ を選択した場合は、表示されません。

保存が完了すると再生モードに戻り、インデックス画像が再生されます。

注意 インデックス画像の作成は、処理に時間がかかることがあります。

RAW展開する

撮影したRAW画像をJPEG形式に変換して新規保存します。



RAW展開できるのは、本機で撮影したRAW画像のみです。他のカメラで撮影したRAW画像はRAW展開できません。

1画像ずつRAW展開する

1 **1画像表示でRAW画像を選択し、十字キー（▼）を押す**

再生モードパレットが表示されます。

2 **十字キー（▲▼◀▶）で RAW（RAW展開）を選び、OK ボタンを押す**

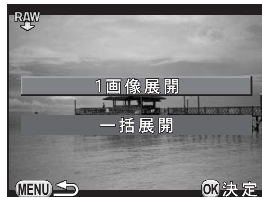
展開方法を選択する画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で「1 画像展開」を選び、OK ボタンを押す**

画像に記録されているパラメーターが表示されます。

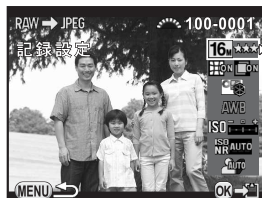
パラメーターを変更しない場合は、手順6に進みます。

処理対象の画像がない場合は、「処理できる画像がありません」と表示されます。



4 **十字キー（▲▼）で変更したいパラメーターを選択する**

前電子ダイヤル（ダイヤル）で画像を切り替えることもできます。



以下のパラメーターが変更できます。

パラメーター	値	参照
記録設定	アスペクト比(16:9／3:2／4:3／1:1)／JPEG記録サイズ [*1]／JPEG画質／色空間	p.141
レンズ補正	ディストーション補正／倍率色収差補正(対応レンズを使用したときのみ選択可(p.255))	p.151
カスタムイメージ	鮮やか／ナチュラル／人物／風景／雅（MIYABI）／ポップチューン／ほのか／銀残し／リバーサルフィルム／モノトーン／クロスプロセス	p.155
ホワイトバランス	AWB／☼／⌂／☁／D／N／W／L／☀／WB／CTE／□／K	p.143
増減感	-2.0～+2.0	—
高感度NR	オフ／オート／弱／中／強	p.96
シャドー補正	オフ／オート／弱／中／強	p.148

*1 アスペクト比に対応したJPEG記録サイズから選択します。

5 十字キー（◀▶）で値を変更する

記録設定／レンズ補正は、十字キー（▶）を押してから十字キー（▲▼）で項目を選択します。

カスタムイメージ／ホワイトバランスは、十字キー（▶）を押すと設定画面が表示されます。

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

画像がRAW展開され、JPEG画像が新規保存されます。

8 十字キー（▲▼）で継続／終了を選び、OKボタンを押す

他の画像も展開する場合は、「継続」を選びます。手順4の画面に戻ります。

まとめてRAW展開する

複数の画像を同じ設定でRAW展開します。

1 p.196の手順3の画面で「一括展開」を選び、OKボタンを押す

4画像表示／9画像表示／16画像表示／36画像表示（直前に設定したいずれか）になります。

2 RAW展開する画像を選択する

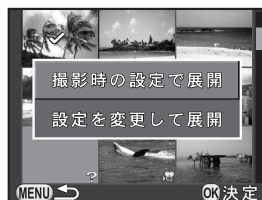
ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
OKボタン	画像を選択／解除
後電子ダイヤル（ ）	選択画像を1画像表示 前電子ダイヤル（ ）で画像切り替え

3 INFOボタンを押す

展開の確認画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で撮影時の設定で展開／設定を変更して展開を選択し、OKボタンを押す



パラメーターを変更する場合は、「設定を変更して展開」を選びます。

5 十字キー（▲▼◀▶）でJPEG記録サイズ／JPEG画質を設定する



手順4で「撮影時の設定で展開」を選択した場合は、「JPEG記録サイズ」はLL／L／M／Sから選択します。

「設定を変更して展開」を選択した場合は、p.197を参照してその他のパラメーターを変更してください。

6 OK ボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OK ボタンを押す

選択した画像がRAW展開され、JPEG画像が新規保存されます。

AV機器と接続する

テレビなどと接続してライブビュー画像を表示したり、撮影した画像を再生することができます。



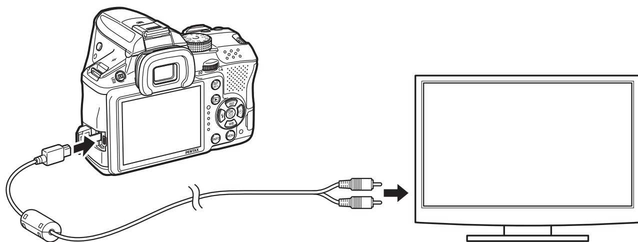
- 複数の映像入力端子があるAV機器で画像を見る場合は、ご使用の機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続する映像入力端子を選択してください。
- 長時間使用するときは、別売のACアダプターキットのご使用をお勧めします。

ビデオ端子に接続する

ビデオ端子を備えた機器に接続します。
別売のAVケーブル I-AVC7を用意してください。

1 AV機器とカメラの電源を切る

2 カメラの端子カバーを開け、AVケーブルをVIDEO/PC出力端子に接続する



3 AVケーブルのもう一方の端子をAV機器の映像入力端子に接続する

4 AV機器とカメラの電源を入れる

カメラがビデオモードで起動し、AV機器にカメラの情報が表示されます。

注意
- AV機器と接続中は、カメラで音量調節はできません。AV機器側で音量を調節してください。
- 音声はモノラルです。
- AV機器の対応解像度にかかわらず、通常の解像度で再生されます。ハイビジョンで出力する場合は、パソコンへ転送して再生してください。

出力方式を設定する

「初期設定」（p.56）で現在地を設定すると、その地域に合ったビデオ出力方式が設定されます。国や地域によっては、初期設定のビデオ出力方式では、うまく映らない場合があります。その場合は、設定を変更してください。

1 「詳細設定2」メニューの「外部接続」を選び、十字キー（▶）を押す

「外部接続」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「ビデオ出力」を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）でNTSC／PALを選択し、OKボタンを押す

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。



ビデオ出力方式は地域によって異なります。「ワールドタイム」（p.207）を✈（目的地）に切り替えると、その都市の出力方式に切り替わります。日本国内では、NTSC方式です。現在地／目的地で設定できる都市のビデオ出力方式は、「都市名一覧」（p.209）を参照してください。

メモ

7 その他の設定を変更する

その他の設定変更のしかたをご紹介します。

詳細設定メニューの操作

カメラの全般的な設定は「🔧詳細設定」メニューで指定します。



メニューの操作方法は、「メニューで設定する」（p.38）を参照してください。

詳細設定メニューの設定項目

「🔧詳細設定1～3」メニューでは、以下の設定を行います。
撮影または再生モードで**MENU**ボタンを押し、十字キー（◀▶）または後電子ダイヤル（）で「🔧詳細設定1～3」メニューを表示します。

<table>
<tr><th>メニュー</th><th colspan="2">項目</th><th>機能</th><th>参照</th></tr>
<tr><td rowspan="7">🔧1</td><td colspan="2">Language/言語</td><td>メニューやメッセージを表示する言語を切り替えます。</td><td>p.56</td></tr>
<tr><td colspan="2">日時設定</td><td>年月日の表示形式と日時を設定します。</td><td>p.58</td></tr>
<tr><td colspan="2">ワールドタイム</td><td>現在地とは別に、指定した都市の日時を画像モニターに表示できるようにします。</td><td>p.207</td></tr>
<tr><td colspan="2">文字サイズ</td><td>メニュー選択時の文字の大きさを設定します。</td><td>p.57</td></tr>
<tr><td colspan="2">電子音</td><td>電子音の音量とオン／オフを切り替えます。</td><td>p.206</td></tr>
<tr><td colspan="2">画面表示</td><td>ガイド表示と画面の配色を設定します。</td><td>p.210</td></tr>
<tr><td colspan="2">LCD設定</td><td>画像モニターの明るさと色味を調整します。</td><td>p.211</td></tr>
<tr><td rowspan="4">🔧2</td><td colspan="2">フリッカー低減</td><td>ご使用の地域の電源周波数を設定し、画面のちらつきを抑えます。</td><td>p.25</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外部接続</td><td>ビデオ出力</td><td>ビデオ端子を備えたAV機器と接続するときの出力方式を設定します。</td><td>p.201</td></tr>
<tr><td>USB接続</td><td>パソコンと接続するときの転送モードを設定します。</td><td>p.229</td></tr>
<tr><td colspan="2">フォルダー名</td><td>画像が保存されるフォルダー名の付け方を設定します。</td><td>p.221</td></tr>
</table>

メニュー	項目	機能	参照
🔧2	フォルダー新規作成	SDメモリーカードに新しいフォルダーを作成します。	p.221
	著作権情報	Exifに書き込む撮影者と著作権者の情報を設定します。	p.222
	オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	p.214
	リセット	設定内容を初期化します。	p.217
🔧3	単3形電池の種類	別売の電池ホルダーにセットした単3形電池の種類を設定します。	p.214
	ピクセルマッピング	CMOSセンサーの画素の欠損部分を補完します。	p.213
	ダストリムーバル	CMOSセンサーを振動させてクリーニングします。	p.260
	センサークリーニング	CMOSセンサーをブロアーでクリーニングするために、ミラーをアップした状態に固定します。	p.261
	フォーマット	SDメモリーカードをフォーマットします。	p.219
	バージョン情報	カメラのファームウェアのバージョンを表示します。	p.218

カメラの設定

音／日時／言語の設定

電子音を設定する

カメラ操作時の電子音の音量とオン／オフを設定できます。
設定できる項目は以下のとおりです。

- 合焦音
- AE-L（AEロック時の操作音）
- セルフタイマー
- リモコン
- ワンタッチRAW+（**RAW**/**Fx**ボタンに「ワンタッチRAW+」を割り当てているときの操作音）
- OKボタン1秒押し（測距点移動の有効／無効を切り替えるときの操作音）

1 「詳細設定1」メニューの「電子音」を選び、十字キー（▶）を押す

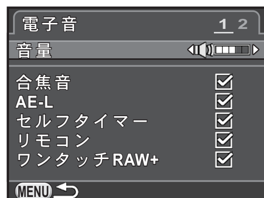
「電子音1」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で音量を設定する

6段階で設定できます。（0）を選択すると、すべての項目の電子音が鳴りません。

3 十字キー（▲▼）で項目を選択し、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

後電子ダイヤル（）で「電子音2」画面に切り替えます。



4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

ワールドタイムを設定する

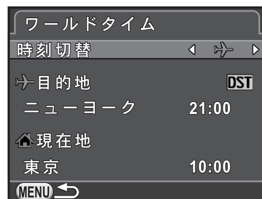
「初期設定」(p.56) で設定した日時は、現在地の日時として設定されます。「ワールドタイム」で目的地を設定しておくと、海外で使用する際に画像モニターに目的地の都市の日時を表示できます。

1 「🔧詳細設定1」メニューの「ワールドタイム」を選び、十字キー（▶）を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で✈（目的地）／⌂（現在地）を切り替える

コントロールパネルに表示される日時は、この設定で切り替わります。



3 十字キー（▼）でカーソルを「✈目的地」に移動し、十字キー（▶）を押す

「✈目的地」画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）で目的地の都市名を選ぶ

後電子ダイヤル（⌒）を回すと、地図表示が切り替わります。

選択した都市の位置・時差・現在時刻が表示されます。



5 十字キー（▼）で「夏時間」を選び、十字キー（◀▶）で□／☑を切り替える

目的地が夏時間を採用している場合は、☑にします。

6 OKボタンを押す

目的地の設定が保存され、手順2の画面に戻ります。

7 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。



- 現在地／目的地として指定できる都市については、「都市名一覧」（p.209）を参照してください。
- 手順3で「⌂現在地」を選択すると、現在地の都市や夏時間を設定できます。
- 「時刻切替」を✈（目的地）に設定すると、コントロールパネルに✈が表示されます。またビデオ出力方式（p.201）は、その都市の初期設定に切り替わります。

● **都市名一覧**

地域	都市名	ビデオ出力方式
北米	ホノルル	NTSC
	アンカレジ	NTSC
	バンクーバー	NTSC
	サンフランシスコ	NTSC
	ロサンゼルス	NTSC
	カルガリー	NTSC
	デンバー	NTSC
	シカゴ	NTSC
	マイアミ	NTSC
	トロント	NTSC
	ニューヨーク	NTSC
	ハリファックス	NTSC
中南米	メキシコシティ	NTSC
	リマ	NTSC
	サンティアゴ	NTSC
	カラカス	NTSC
	ブエノスアイレス	PAL
	サンパウロ	PAL
	リオデジャネイロ	NTSC
ヨーロッパ	リスボン	PAL
	マドリード	PAL
	ロンドン	PAL
	パリ	PAL
	アムステルダム	PAL
	ミラノ	PAL
	ローマ	PAL
	コペンハーゲン	PAL
	ベルリン	PAL
	プラハ	PAL
	ストックホルム	PAL
	ブダペスト	PAL
	ワルシャワ	PAL
	アテネ	PAL
	ヘルシンキ	PAL
	モスクワ	PAL
アフリカ・西アジア	ダカール	PAL
	アルジェ	PAL
	ヨハネスブルグ	PAL

地域	都市名	ビデオ出力方式
アフリカ・西アジア	イスタンブール	PAL
	カイロ	PAL
	エルサレム	PAL
	ナイロビ	PAL
	ジッダ	PAL
	テヘラン	PAL
	ドバイ	PAL
	カラチ	PAL
	カブール	PAL
	マーレ	PAL
	デリー	PAL
	コロンボ	PAL
	カトマンズ	PAL
	ダッカ	PAL
東アジア	ヤンゴン	NTSC
	バンコク	PAL
	クアラルンプール	PAL
	ビエンチャン	PAL
	シンガポール	PAL
	プノンペン	PAL
	ホーチミン	PAL
	ジャカルタ	PAL
	香港	PAL
	北京	PAL
	上海	PAL
	マニラ	NTSC
	台北	NTSC
	ソウル	NTSC
	東京	NTSC
	グアム	NTSC
オセアニア	パース	PAL
	アデレード	PAL
	シドニー	PAL
	ヌーメア	PAL
	ウェリントン	PAL
	オークランド	PAL
	パゴパゴ	NTSC

画像モニター／メニュー表示の設定

電子水準器の表示を設定する

ファインダー内とライブビューに電子水準器のバーグラフを表示します。「撮影3」メニューの「電子水準器」で設定します。

□	電子水準器のバーグラフを表示しない（初期設定）
☑	電子水準器のバーグラフを表示する

画面の表示を設定する

ガイド表示とステータススクリーン／コントロールパネル／メニュー選択カーソルの配色を設定します。

1 「詳細設定1」メニューの「画面表示」を選び、十字キー（▶）を押す

「画面表示」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で「ガイド表示」の☑／□を切り替える



3 十字キー（▲▼）で「配色」を選び、十字キー（◀▶）で色を選択する

12色から選択できます。

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

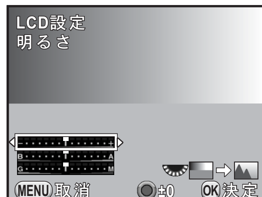
画像モニターの明るさと色味を設定する

画像モニターの明るさと色味を調整します。

1 **「🔧 詳細設定 1」メニューの「LCD 設定」を選び、十字キー（▶）を押す**

「LCD設定」画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）で明るさ／色調整を選択する**



明るさ	明るさを調整します（-7～+7）
色調整（ブルー／アンバー）	ブルー－アンバー間の色味を調整します。（B7～A7）
色調整（グリーン／マゼンタ）	グリーン－マゼンタ間の色味を調整します。（G7～M7）

3 **十字キー（◀▶）で調整する**

ボタン・ダイヤル等の操作

後電子ダイヤル（ ）	撮影済み画像を背景に表示
⦿ボタン	調整値をリセット

4 **OK ボタンを押す**

5 **MENU ボタンを押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

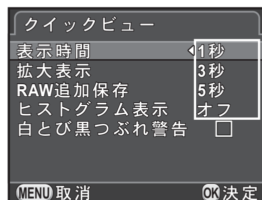
クイックビューの表示を設定する

撮影直後に画像を再生するクイックビュー（p.64）の動作と表示を設定します。

1 「撮影4」メニューの「クイックビュー」を選び、十字キー（▶）を押す

「クイックビュー」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でクイックビューの表示時間を選択してOKボタンを押す



3 十字キー（▲▼）で拡大表示／RAW追加保存／ヒストグラム表示／白とび黒つぶれ警告を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

拡大表示	後電子ダイヤル（ ）で拡大表示ができます。（p.177）
RAW追加保存	JPEG 形式で撮影した直前の画像のRAW画像が撮影バッファに残っているときに、ボタンを押してRAW画像を追加保存するかどうか設定します。（p.70）
ヒストグラム表示	画像の明るさの分布をグラフで表示します。（p.31）
白とび黒つぶれ警告	白とび部分を赤、黒つぶれ部分を黄色で点滅表示します。（p.32）

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

メニューの表示ページを設定する

MENU ボタンを押してメニューを表示したときに最初に表示するページについて設定します。

1 「C カスタム3」メニューの「20. メニュー選択の記憶」を選び、十字キー（▶）を押す

「20. メニュー選択の記憶」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で記憶しない／記憶するを選び、OK ボタンを押す

記憶しない	常に「📷撮影1」（🎥モードのときは「🎥動画1」、再生モードのときは「▶再生1」）から表示します。（初期設定）
記憶する	直前に選択したメニューのページを最初に表示します。

3 MENU ボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

センサー画素の欠けを補完する（ピクセルマッピング）

CMOSセンサーの画素に欠けがあった場合に補完処理を行います。
カメラにレンズを取り付けて実行してください。

1 「🔧詳細設定3」メニューの「ピクセルマッピング」を選び、十字キー（▶）を押す

「ピクセルマッピング」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「ピクセルマッピング」を選び、OK ボタンを押す

補完処理が行われ、メニュー選択前の画面に戻ります。



- 補完処理は、30秒程の時間がかかります。
- バッテリー／電池の容量が少ない場合、「電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません」と画像モニターに表示されます。十分に充電されたバッテリーまたは新しい電池と交換するか、別売のACアダプターキットを使用してください。

バッテリー／電池に関する設定

バッテリーの消耗を抑える

一定時間操作しないときに、自動的に電源が切れるように設定できます。

「🔧詳細設定2」メニューの「オートパワーオフ」で設定します。電源が切れるまでの時間は、1分（初期設定）／3分／5分／10分／30分／オフから選択できます。



- 次のいずれかの操作でオートパワーオフから復帰します。
  - 電源を入れ直す
  - シャッターボタンを半押しする
  - ▶ボタン／**MENU**ボタン／**INFO**ボタンのいずれかを押す
- スライドショウ再生中／USB接続中は、オートパワーオフは働きません。

電池の種類を設定する

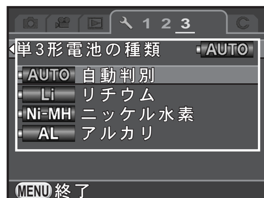
別売の単3形電池ホルダー D-BH109を使用する場合の電池の種類を設定します。初期設定は「自動判別」です。

1 「🔧詳細設定3」メニューの「単3形電池の種類」を選び、十字キー（▶）を押す

「単3形電池の種類」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で電池の種類を選択し、OKボタンを押す

「自動判別」に設定すると、セットされた電池の種類を自動で判別します。



3 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

注意　セットした電池と設定が異なると、電池残量が正しく判断されません。正しく設定するようにしてください。通常は「自動判別」のままで問題ありませんが、判別に時間がかかる場合があります。また、低温時や長期間保存してあった電池を使用する場合などは、電池の種類を正しく指定することで、適切な残量表示ができます。

カメラに保存する設定を選択する（モードメモリ）

カメラの電源を切っても設定を記憶しておく機能を選択します。以下の機能について設定できます。

機能	初期設定
ストロボモード	☑
ドライブモード	☑
ホワイトバランス	☑
カスタムイメージ	☑
ISO感度	☑
露出補正	☑

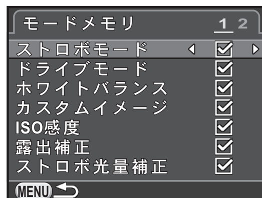
機能	初期設定
ストロボ光量補正	☑
デジタルフィルター	□
HDR撮影	□
撮影情報表示	□
再生情報表示	☑
ファイルNo.	☑

注意　モードダイヤルが**U1**／**U2**になっているときは、設定できません。

1 **「📷 撮影 4」メニューの「モードメモリ」を選び、十字キー（▶）を押す**

「モードメモリ1」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で項目を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える



後電子ダイヤル（ ）で「モードメモリ2」画面に切り替えます。

☑	電源を切っても設定は記録されます。
□	電源を切ると、初期設定に戻ります。

3 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。



- 「撮影情報表示」で、撮影待機画面の設定を記憶するかどうかが設定できます。（p.27）

□	電源を入れたときに、常にステータススクリーンを表示します。
☑	電源を入れたときに、撮影情報表示選択で設定した画面（「電子コンパス」を除く）を表示します。

- 「ファイルNo.」を☑にすると、フォルダーが新しくなってもファイル名の連番（4桁）が継続されます。

☑	前のフォルダーに最後に保存された画像のファイルNo.が記憶され、フォルダーが新しくなっても続きのファイルNo.になります。
□	画像を保存するフォルダーが新しくなるたびに、画像のファイルNo.が0001に戻ります。

- 「🔧詳細設定2」メニューの「リセット」を実行すると、モードメモリの設定はすべて初期設定に戻ります。（p.217）

設定をリセットする

メニューなどで設定した内容をリセットし、初期設定に戻します。



モードダイヤルが**U1**／**U2**になっているときは、リセットできません。

撮影／動画／再生／詳細設定メニューのリセット

「撮影」メニュー／「動画」メニュー／「再生」メニュー／「詳細設定」メニュー／ダイレクトキー／再生モードパレットの設定内容を初期設定に戻します。

1 「詳細設定2」メニューの「リセット」を選び、十字キー（▶）を押す

「リセット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「リセット」を選び、OKボタンを押す

設定がリセットされ、メニュー選択前の画面に戻ります。



以下の設定はリセットされません。

- USERモード登録
- Language/言語
- 日時設定
- ワールドタイムの都市設定
- フリッカー低減
- ビデオ出力
- 著作権情報
- 「**C**カスタム」メニュー

カスタムメニューのリセット

「**C**カスタム」メニューの設定内容をすべて初期設定に戻します。

1 「Cカスタム4」メニューの「カスタムのリセット」を選び、十字キー（▶）を押す

「カスタムのリセット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「リセット」を選び、OKボタンを押す

設定がリセットされ、メニュー選択前の画面に戻ります。

カメラのバージョンを確認する

カメラ内のソフトウェア（ファームウェア）のバージョンを確認します。ファームウェアのアップデートファイルが公開された場合は、カメラをアップデートし、最新の状態にすることができます。

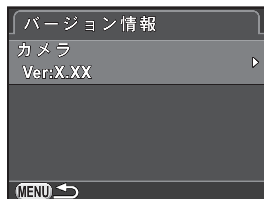


アップデートについての情報や詳しい手順は、当社ホームページをご確認ください。

1 「🔧詳細設定3」メニューの「バージョン情報」を選び、十字キー（▶）を押す

「バージョン情報」画面に、カメラのファームウェアのバージョンが表示されます。

SDメモリーカード内にアップデートファイルがある場合は、このあとアップデートを実行することができます。



2 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

注意

- アップデートしたカメラを元のバージョンに戻すことはできません。
- アップデートを実行する前に、SDメモリーカード内のデータをパソコンなどに保存しておいてください。
- バッテリー／電池の容量が少ない場合、「電池容量がたりないためアップデートを行えません」と画像モニターに表示されます。十分に充電されたバッテリーまたは新しい電池と交換するか、別売のACアダプターキットを使用してください。

画像管理に関する設定

SDメモリーカードをフォーマットする

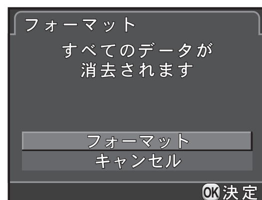
未使用または他の機器で使用したSDメモリーカードは、必ず本機でフォーマット（初期化）してからご使用ください。
フォーマットを行うと、SDメモリーカードに保存されていたすべてのデータが消去されます。

注意
- SDメモリーカードのフォーマット中は、絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行うと、プロテクトした画像も消去されます。

1 「🔧詳細設定3」メニューの「フォーマット」を選び、十字キー（▶）を押す

「フォーマット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「フォーマット」を選び、OKボタンを押す



フォーマットが開始されます。

フォーマットが終わると、メニュー選択前の画面に戻ります。

メモ
フォーマットすると、SDメモリーカードに「K-30」というボリュームラベルが付きます。本機をパソコンに接続した場合、SDメモリーカードは「K-30」という名称のリムーバブルディスクとして認識されます。

画像を消去できないようにする（プロテクト）

画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）することができます。

注意 プロテクトした画像も、SDメモリーカードをフォーマットすると消去されます。

1 再生モードの1画像表示で十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でO¬¬（プロテクト）を選び、OKボタンを押す

設定方法を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で1画像／全画像を選び、OKボタンを押す

「全画像」を選択した場合は、手順5に進みます。



4 前電子ダイヤル（ ）で画像を選択する

5 十字キー（▲）で「プロテクト」を選び、OKボタンを押す

プロテクトを解除する場合は「解除」を選びます。

画像がプロテクトされ、画面右上に が表示されます。

他の画像をプロテクトする場合は、手順4～5を繰り返します。



手順3で「全画像」を選択した場合は、1画像表示に戻ります。

6 MENUボタンを押す

1画像表示に戻ります。

フォルダー名の付け方を選択する

本機で撮影を行うと、フォルダーが自動的に作成されて画像が格納されます。フォルダー名には、100～999の連番と5文字の文字列が付きます。フォルダー名の文字列は、「🔧詳細設定2」メニューの「フォルダー名」で設定できます。

日付	「xxx_MMDD」の形式で、画像を撮影した月／日が2桁表示でフォルダー名に付けられます。（初期設定） 「MMDD」（月日）の表示は、「日時設定」（p.58）の表示スタイルに準じます。 例）101_0125：1月25日に撮影した画像が保存されるフォルダー
PENTX	「xxxPENTX」の形式でフォルダー名が付けられます。 例）101PENTX



1つのフォルダーに保存される画像は最大で500枚です。撮影枚数が500枚を超えた場合は、新しいフォルダーが作成されて保存されます。露出ブラケット撮影のときは、500枚を超えても撮影が終了するまで同じフォルダーに保存されます。

フォルダーを作成する

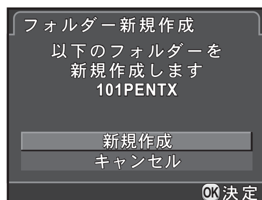
SDメモリーカードに新しくフォルダーを作成します。使用中フォルダーの次の番号のフォルダーを作成し、次回の撮影から新しいフォルダーに保存できます。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「フォルダー新規作成」を選び、十字キー（▶）を押す

「フォルダー新規作成」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「新規作成」を選び、OKボタンを押す

新しい番号のフォルダーが作成されます。





この操作で作成されるフォルダーは1つのみです。空のフォルダーを続けて複数作成することはできません。

撮影者情報を設定する

撮影した画像には、カメラの機種や撮影条件などの情報がExifというデータ形式で自動的に埋め込まれています。このExifに撮影者情報を書き込むことができます。



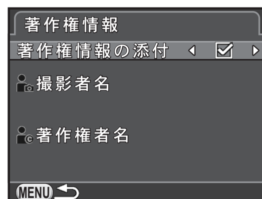
Exif情報は、付属のソフトウェア（p.231）などで確認できます。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「著作権情報」を選び、十字キー（▶）を押す

「著作権情報」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で□／☑を切り替える

□	著作権情報を書き込まない（初期設定）
☑	著作権情報を書き込む



3 十字キー（▲▼）で「撮影者名」を選び、十字キー（▶）を押す

文字を入力する画面が表示されます。

4 文字を入力する

半角32文字までの英数字・記号が入力できます。



ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	文字選択カーソルを移動
後電子ダイヤル（ ）	文字入力カーソルを移動
ボタン	大文字／小文字切り替え
OK ボタン	文字選択カーソルが選択している文字を文字入力カーソルの位置に入力
LV/🗑ボタン	文字入力カーソル位置の文字を消去

5 文字が全部入力できたら、文字選択カーソルを「確定」まで移動し、OKボタンを押す

「著作権情報」画面に戻ります。

6 十字キー（▲▼）で「著作権者名」を選び、「撮影者名」と同様に入力する

7 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

DPOFを設定する

画像を記録したSDメモリーカードにDPOF（Digital Print Order Format）を設定することで、プリント枚数や日付印刷が指定できます。このSDメモリーカードをプリント取扱店に持っていくと、従来の写真のようにプリントが注文できます。



- RAW画像と動画は設定できません。
- DPOFが設定できるのは、最大で999画像です。

1 再生モードの1画像表示で十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（DPOF）を選び、OKボタンを押す

設定方法を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で1画像／全画像を選び、OKボタンを押す

「全画像」を選択した場合は、手順5に進みます。



4 前電子ダイヤル（）で画像を選択する



5 十字キー（▲▼）でプリント枚数を指定する

99枚まで設定できます。

枚数を指定した画像には、画面右上にが表示されます。

DPOF設定を解除するときは、枚数を「00」に設定します。

6 INFOボタンで日付の□／☑を切り替える

□	日付をプリントしない
☑	日付をプリントする

他の画像も設定する場合は、手順4～6を繰り返します。

7 OKボタンを押す

DPOF設定が保存され、1画像表示に戻ります。

注意
- プリンターやプリント取扱店の機器によっては、日付がプリントされないことがあります。
- 全画像設定では、すべての画像に同じプリント枚数が設定され、1画像ずつの設定は解除されます。

メモ

8 パソコンと接続する

カメラとパソコンの接続方法や、付属ソフトウェアのインストール手順と概要を説明します。

画像をパソコンで利用するには

撮影した静止画・動画は、本機とパソコンをUSBケーブルで接続して転送したり、付属ソフトウェア「SILKYPIX Developer Studio」でRAW画像の展開ができます。
パソコンとの接続と付属ソフトウェアの使用には、以下のシステム環境が必要です。

● Windows

OS	Windows 7（32bit／64bit）／Windows Vista（32bit／64bit）／Windows XP（SP3以降、Home／Pro 32bit） • インストールには管理者権限が必要 • 64bit OS上では、32bitアプリケーションとして動作可能
CPU	Intel Pentium互換プロセッサ（Pentium 4／Athlon XP以上推奨） • マルチコア（Intel Core i7, i5／Core 2 Quad, Duo／AMD Phenom II X6, X4／Athlon II X4, X2等）対応
メモリ	1GB以上（2GB以上推奨）
HDD	プログラムのインストール、起動時：100MB以上の空き容量 画像ファイル保存：1ファイルあたり10MB程度
モニター	1024×768ドット、24bitフルカラー以上
その他	キーボード、マウス等の入力デバイス

● Macintosh

OS	Mac OS X 10.7／10.6／10.5
CPU	Intelプロセッサ対応／Power PC
メモリ	1GB以上（2GB以上推奨）
HDD	プログラムのインストール、起動時：100MB以上の空き容量 画像ファイル保存：1ファイルあたり10MB程度
モニター	1024×768ドット、24bitフルカラー以上
その他	キーボード、マウス等の入力デバイス



• 本機で撮影したRAW画像を展開するときは、付属ソフトウェアを使用してください。
• 本機で撮影した動画をパソコンで再生するときは、QuickTimeが必要です。QuickTimeは下記アドレスからダウンロードできます。
http://www.apple.com/jp/quicktime/

画像をパソコンに保存する

転送モードを設定する

本機とパソコンを接続するときの転送モードを設定します。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「外部接続」を選び、十字キー（▶）を押す

「外部接続」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「USB接続」を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）でMSC／PTPを選択し、OKボタンを押す

MSC	マスストレージクラス（初期設定） パソコンにUSB接続された機器を記憶装置として扱うための汎用のドライバープログラムです。
PTP	ピクチャートランスファープロトコル USBを通じてデジタル画像の転送やデジタルカメラの制御を行うためのプロトコルです。

特に指定がない限り、「MSC」を選択します。

4 MENUボタンを2回押す

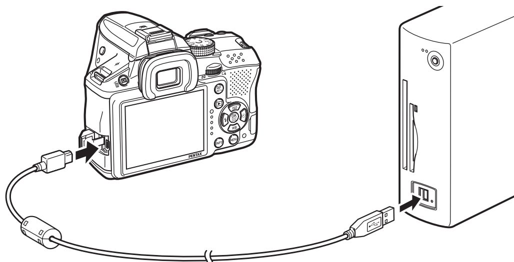
メニュー選択前の画面に戻ります。

カメラとパソコンを接続する

付属のUSBケーブル I-USB7を使用してパソコンと接続します。

1 パソコンの電源を入れる

2 カメラの電源を切り、USBケーブルでカメラのVIDEO/PC出力端子とパソコンを接続する



3 カメラの電源を入れる

カメラは「K-30」というボリュームラベルで、リムーバブルディスクまたはSDメモリーカードとして認識されます。
カメラの電源を入れたときに「K-30」ダイアログが表示された場合は、ダイアログ内の「フォルダを開いてファイルを表示する エクスプローラ使用」を選択してOKボタンをクリックします。

4 カメラの画像をパソコンに保存する

画像ファイルまたはフォルダーをパソコンのハードディスクなどにコピーします。

5 カメラをパソコンから取り外す



パソコンと接続中は、カメラの操作はできません。操作を行うときは、カメラの電源を切ってからUSBケーブルを抜いてください。

付属ソフトウェアを使用する

付属のCD-ROM（S-SW128）には、「SILKYPIX Developer Studio 3.0 for PENTAX」が収録されています。SILKYPIX Developer Studioは、RAWファイルを展開（現像）して色調整などを行い、JPEGまたはTIFF形式で保存します。

ソフトウェアのインストール

付属のCD-ROMからソフトウェアをインストールします。
ご使用のOSで複数アカウントを設定している場合は、administrator（管理者）権限でログオンしてからインストールを始めてください。

1 パソコンの電源を入れる

他に起動しているソフトがあるときは、終了させます。

2 CD-ROMをパソコンのCD／DVDドライブにセットする

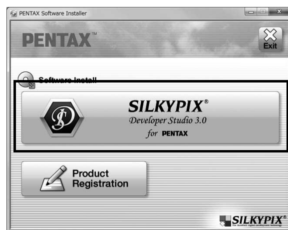
「PENTAX Software Installer」の画面が表示されます。

「PENTAX Software Installer」の画面が表示されない場合

- **Windows**
  1 スタートメニューから「マイコンピュータ」をクリックする
  2「CD／DVDドライブ（S-SW128）」のアイコンをダブルクリックする
  3「Setup.exe」のアイコンをダブルクリックする
- **Macintosh**
  1 デスクトップのCD／DVD（S-SW128）のアイコンをダブルクリックする
  2「PENTAX Installer」のアイコンをダブルクリックする

3 「SILKYPIX Developer Studio 3.0 for PENTAX」をクリックする

Macintoshの場合は、以降の操作は画面の指示に従ってください。



4 「設定言語の選択」画面で「日本語」を選択し、[OK] ボタンをクリックする

5 日本語の「InstallShield Wizard」画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックする

以降の操作は画面の指示に従ってください。

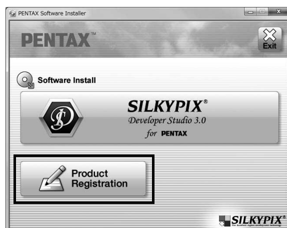


ソフトウェアの詳しい使い方は、SILKYPIX Developer Studioを起動してヘルプを参照してください。

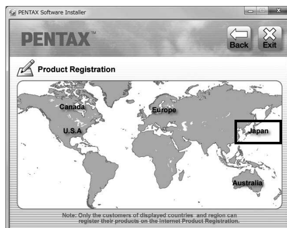
ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、ユーザー登録にご協力ください。

p.232の手順3の画面で、「Product Registration」をクリックします。



右図の地図画面が表示されたら、「Japan」をクリックしてください。パソコンがインターネットに接続できる環境にあれば、弊社ホームページのユーザー登録画面が表示されます。画面の指示に従って、登録をしてください。



ユーザー登録画面が表示されない場合は、下記アドレスから直接アクセスしてください。

https://service.pentax.jp/pentax/user

メモ

9 ストロボの活用

内蔵ストロボの詳細と外付けストロボを使用した撮影方法をご紹介します。

内蔵ストロボの詳細

露出モードによるストロボ撮影の特徴

Tvモードでストロボを使用する

1/180秒以下のシャッター速度が設定できます。

Avモードでストロボを使用する

シャッター速度は1/180秒から低速側はカメラぶれしにくいシャッター速度まで自動的に変化します（シャッター速度の低速限界は、レンズの焦点距離によって異なります）。DA・DA L・D FA・FA J・FA・Fレンズ以外のレンズを使用した場合は、シャッター速度は1/180秒固定です。

スローシンクロを利用する

夕景などを背景にして人物撮影をするときは、**SCN**モードの（夜景人物）や、**Tv**／**TAv**／**M**モードを使ってスローシンクロを行うと、人物も背景もきれいに撮影できます。**P**／**Sv**／**Av**モードのときは、ストロボモードの／が使用できます。

P／Sv／Avモードを使用する場合

1 モードダイヤルをP／Sv／Avに合わせる

2 ボタンを押す

内蔵ストロボがポップアップします。

3 ストロボモードを SLOW ／ SLOW に設定する

背景も適正露出になるようにシャッター速度が遅く設定されます。

4 撮影する

Tv／TAv／Mモードを使用する場合

1 モードダイヤルをTv／TAv／M に合わせる

2 ストロボモードを／に設定する

3 Tvモードはシャッター速度、TAv／Mモードはシャッター速度と絞り値を設定する

1/180秒以下で背景が適正露出になるように設定します。

4 ボタンを押す

内蔵ストロボがポップアップします。

5 撮影する

内蔵ストロボ撮影時の距離と絞り

ストロボを使って撮影するときには、ストロボのガイドナンバーとカメラの絞り値、撮影距離の間に一定の条件が必要です。
計算してみて光量が不足する場合は、撮影条件を見直してください。

ISO感度	内蔵ストロボのガイドナンバー	ISO感度	内蔵ストロボのガイドナンバー
ISO 100	約12	ISO 3200	約68
ISO 200	約17	ISO 6400	約96
ISO 400	約24	ISO 12800	約136
ISO 800	約34	ISO 25600 *1	約192
ISO 1600	約48		

*1「**C** カスタム1」メニューの「3. 拡張感度」がオンのときのみ

絞り値から撮影距離を算出する方法

ストロボが使用できる距離は、次の式で計算できます。

遠距離側の目安　距離L1＝ガイドナンバー÷絞り値
近距離側の目安　距離L2＝遠距離側目安÷5 *

* この数値は、本機の内蔵ストロボを単独で使用した場合に適用される数値です。

例）ISO感度ISO 200、絞り値F5.6のとき

L1＝17÷5.6＝約3（m）

L2＝3÷5＝約0.6（m）

すなわち、約0.6～3mの範囲でストロボが使用できます。
ただし、本機の内蔵ストロボは、0.7m以下の距離では使用できません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレ、露出オーバーの原因になります。

撮影距離から絞り値を算出する方法

撮影距離が決まっている場合は、次の式で絞り値を算出します。

絞り値F＝ガイドナンバー÷撮影距離

例）ISO感度ISO 200、撮影距離4mのとき

F＝17÷4＝約4.2

上記の計算で出た数字が「4.2」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方で近い値（この例では「4.0」）に設定します。

外付けストロボ（別売）を利用する

別売の外付けストロボAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCを使用すると、P-TTLオートストロボ撮影が可能なほか、さまざまなストロボ撮影ができます。

○：使用可
△：条件付きで使用可
×：使用不可

カメラの機能＼ストロボ	内蔵ストロボ	AF540FGZ AF360FGZ	AF200FG AF160FC
赤目軽減機能	○	○	○
ストロボ自動発光	○	○	○
同調速度への自動切り替え	○	○	○
P／**Tv**モードで絞り値自動セット	○	○	○
P-TTLオートストロボ撮影	○*1	○*1	○*1
スローシンクロ撮影	○	○	○
ストロボ光量補正	○	○	○
外付けストロボのAF補助光使用	×	○	×
後幕シンクロ撮影 *2	○	○	×
光量比制御モード	△*3	○	△*4
スレーブ機能	×	○	×
ハイスピードシンクロ撮影	×	○	×
ワイヤレス撮影	△*4	○*5	×

*1 DA・DA L・D FA・FA J・FA・F・Aレンズを使用した場合のみ可
*2 シャッター速度は1/90秒以下
*3 AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせたときに、内蔵ストロボ1/3、外付けストロボ2/3の光量配分で可能
*4 AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせた場合のみ可能
*5 AF540FGZ／AF360FGZが複数台、または1台と内蔵ストロボと組み合わせることが必要

注意
- 極性が逆（ホットシューの中心の接点がマイナス）のストロボは使用できません。カメラやストロボが壊れるおそれがあります。
- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると誤動作の原因となるので、使用しないでください。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGの使用をお勧めします。

P-TTLで撮影する

AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCは、「P-TTLオートストロボ撮影」ができます。

1　カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボを取り付ける

2　カメラと外付けストロボの電源を入れる

3　外付けストロボの発光モードを「P-TTL」に設定する

4　外付けストロボの充電完了を確認し、撮影する

ストロボの充電が完了すると、ファインダー内／ライブビューの ϟ が点灯します。



- 操作のしかたや撮影できる距離など詳しい内容については、外付けストロボの使用説明書を参照してください。
- 外付けストロボを取り付けた状態で、ϟボタンを押さないでください。内蔵ストロボが外付けストロボに接触します。内蔵ストロボと外付けストロボを同時に使用する場合は、ワイヤレスモードを使用するか延長コードを利用して接続してください。（p.244）

ハイスピードシンクロモードで使う

AF540FGZ／AF360FGZを使用すると、1/180秒より速いシャッター速度でストロボを発光させて撮影できます。

1 カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボを取り付ける

2 カメラのモードダイヤルをTv／Mに合わせる

3 カメラと外付けストロボの電源を入れる

4 外付けストロボのシンクロモードをHS⚡（ハイスピードシンクロ）に設定する

5 外付けストロボの充電完了を確認し、撮影する

ストロボの充電が完了すると、ファインダー内／ライブビューの⚡が点灯します。



- シャッター速度が 1/180 秒を超えた場合のみハイスピードシンクロモードになります。
- **B** モードのときは、ハイスピードシンクロはできません。
- 内蔵ストロボでハイスピードシンクロはできません。

ワイヤレスモードで使う

外付けストロボ AF540FGZ／AF360FGZの組み合わせ、または内蔵ストロボとの組み合わせで、ストロボ同士をコードで接続しないでP-TTL撮影ができます。



- 外付けストロボの電源スイッチはWIRELESSに合わせてください。
- ハイスピードシンクロモードをワイヤレスで使用するには、AF540FGZ ／AF360FGZが2台以上必要です。内蔵ストロボとの組み合わせでは利用できません。
- カメラから離して設置する外付けストロボのワイヤレスモードは、SLAVEに設定してください。

外付けストロボのチャンネルをカメラに登録する

まず外付けストロボのチャンネルをカメラに登録します。

1 外付けストロボのチャンネルを設定する

2 カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボを取り付ける

3 カメラと外付けストロボの電源を入れ、シャッターボタンを半押しする

外付けストロボと同じチャンネルが内蔵ストロボに設定されます。



使用するすべてのストロボは、必ず同じチャンネルに合わせてください。外付けストロボのチャンネルの設定方法は、AF540FGZ／AF360FGZの使用説明書を参照してください。

内蔵ストロボと外付けストロボでのワイヤレス撮影

外付けストロボと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合は、カメラのストロボモードをワイヤレスモードに設定します。

1 カメラとチャンネルを合わせた外付けストロボを、発光させたい位置に固定する

2 カメラのストロボモードを W⚡ に設定する



撮影できる状態になります。

ファインダー内／ライブビューに内蔵ストロボのチャンネルが表示されます。

3 カメラの⚡ボタンを押す

4 両方のストロボが充電完了していることを確認し、撮影する



以下のときは、W⚡は選択できません。

- 🎥モード
- ドライブモードが「リモコン（3秒後レリーズ）」のとき
- レンズの絞りが **A** 位置以外のとき



内蔵ストロボのワイヤレス時の発光方式は「**C** カスタム3」メニューの「18. ワイヤレス時の発光」で設定します。

オン	内蔵ストロボをマスター発光させます。（初期設定）
オフ	内蔵ストロボをコントローラー発光させます。

外付けストロボを組み合わせたワイヤレス撮影

1　カメラに取り付けた側のストロボのワイヤレスモードを、MASTER／CONTROLに設定する

MASTER	カメラ側のストロボと離して設置するストロボの両方を本発光させます。
CONTROL	カメラ側のストロボはコントロール発光のみで本発光しません。

2　カメラから離して設置するストロボのワイヤレスモードをSLAVEに、チャンネルをカメラ側のストロボと同じチャンネルに設定し、発光させたい位置に固定する

3　両方のストロボが充電完了していることを確認し、撮影する

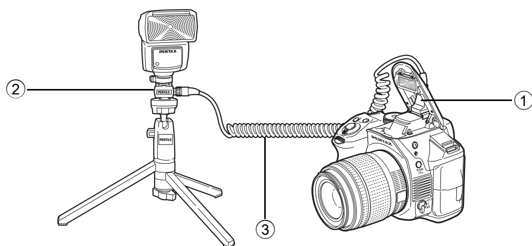


- 「Shake Reduction」はオフ固定です。
- AF540FGZ ／ AF360FGZ を複数台使用してワイヤレスモードでハイスピードシンクロ撮影を行う場合は、カメラに取り付けた方のストロボをハイスピードシンクロモードに設定してください。

外付けストロボを延長コードで接続する

外付けストロボをカメラから離して使用する場合は、カメラのホットシュー部分にホットシューアダプター FG（①、別売）を、外付けストロボの下にオフカメラシューアダプター F（②、別売）を付け、延長コード F5P（③、別売）で接続します。オフカメラシューアダプター Fの下には三脚取り付け用のねじがあるので、三脚に固定できます。

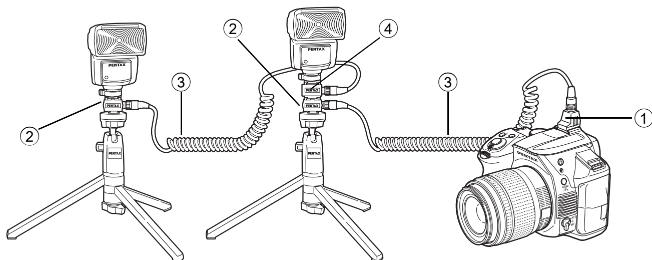
内蔵ストロボと組み合わせて使用する場合



延長コードを使用したストロボの多灯撮影

外付けストロボ AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGを複数台組み合わせて多灯撮影ができます。
AF540FGZを使用する場合は、ストロボの延長コード接続用端子が使用できます。AF360FGZ／AF200FGを使用する場合は図のように、外付けストロボとホットシューアダプターF（④、別売）にオフカメラシューアダプターF（②、別売）を付け、もう一方の外付けストロボに付けたオフカメラシューアダプターF（②）と、延長コードF5P（③、別売）で接続します。
接続方法については、ストロボの使用説明書も参照してください。

2台の外付けストロボを組み合わせて使用する場合





AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGを複数台、またはAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。

光量比制御シンクロ撮影

外付けストロボ AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGを複数台組み合わせるか、外付けストロボと内蔵ストロボを組み合わせることで、ストロボ光量の違いを利用した増灯撮影（光量比制御シンクロ撮影）ができます。



AF200FGは、AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせる必要があります。

1 外付けストロボをカメラから離して接続する

p.244を参照してください。

2 外付けストロボのシンクロモードを光量比制御モードに設定する

3 外付けストロボと内蔵ストロボの充電完了を確認し、撮影する



- 光量の比率は、外付けストロボ同士の場合、光量比制御に設定しているストロボが「2」に対して、それ以外のストロボが「1」、外付けストロボと内蔵ストロボの場合は、外付けストロボが「2」に対して内蔵ストロボが「1」になります。
- AF540FGZ ／ AF360FGZ ／ AF200FG を複数台、または AF540FGZ ／ AF360FGZ／AF200FGと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。

10 付録

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
カメラの電源を切っても、モードメモリ（p.215）で設定した機能は保存されます。

リセット設定
する　：リセット（p.217）で初期設定に戻る
しない：リセットしても設定が保存される

ダイレクトキー

項目	初期設定	リセット設定	参照
ISO感度	ISO AUTO （ISO 100～3200）	する	p.85
ホワイトバランス	**AWB**	する	p.143
ストロボモード	撮影モードによる	する	p.66
ドライブモード	1コマ撮影	する	p.91 p.117 p.119 p.121

「撮影」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
露出モード		**P**	する	p.172
カスタムイメージ		鮮やか	する	p.155
シーンモード		人物	する	p.82
デジタルフィルター		フィルターオフ	する	p.159
HDR撮影	HDR撮影	オフ	する	p.149
	自動位置調整	オン	する	
	振り幅設定	±2 EV	する	
記録設定	記録形式	JPEG	する	p.141
	JPEG記録サイズ	16M	する	p.141
	JPEG画質	★★★	する	p.142
	色空間	sRGB	する	p.142
測光方式		分割	する	p.95

項目		初期設定	リセット設定	参照
AF設定	AF.A	オフ	する	p.101
	セレクトエリア拡大	オフ	する	p.103
	測距点切替	オート（5点）	する	p.102
	AF補助投光	オン	する	p.101
レンズ補正	ディストーション補正	オフ	する	p.151
	倍率色収差補正	オン	する	
多重露出	撮影回数	2回	する	p.126
	自動露出調整	オフ	する	
インターバル撮影	撮影間隔	00:00'03"	する	p.123
	撮影枚数	2枚	する	
	開始トリガー	即時	する	
	撮影開始時刻	12：00AM／00：00	する	
D-Range設定	ハイライト補正	オート	する	p.148
	シャドー補正	オート	する	
高感度NR		オート	する	p.96
長秒時NR		オート	する	p.98
構図微調整	X-Y方向	中央	する	p.153
	回転	±0°		
	前回位置から調整	オフ		
電子水準器		オフ	する	p.210
自動水平補正		オフ	する	p.116
Shake Reduction		オン	する	p.114
焦点距離入力		35mm	する	p.258
ライブビュー	コントラストAF	顔検出	する	p.104
	AF時の自動拡大	オフ	する	p.107
	フォーカスアシスト	オフ	する	p.109
	グリッド表示	オフ	する	p.105
	情報表示	オン	する	
	ヒストグラム表示	オフ	する	
	白とび黒つぶれ警告	オフ	する	

項目			初期設定	リセット設定	参照
クイックビュー	表示時間		1秒	する	p.212
	拡大表示		オン	する	
	RAW追加保存		オン	する	
	ヒストグラム表示		オフ	する	
	白とび黒つぶれ警告		オフ	する	
電子ダイヤル	**P**		Tv／Av／⦿➡P	する	p.162
	Sv		--／ISO／⦿--	する	
	Tv		Tv／--／⦿--	する	
	Av		--／Av／⦿--	する	
	TAv／M		Tv／Av／⦿ P LINE	する	
	B		--／Av／⦿--	する	
			--／--／⦿--	する	
ボタンカスタマイズ	RAW/Fx		ワンタッチRAW＋	する	p.165
	AF/AE-L （静止画／動画）		AF作動1	する	p.167
モードメモリ	デジタルフィルター／HDR撮影／撮影情報表示		オフ	する	p.215
	上記以外		オン	する	
GPS	アストロトレーサー	B時の動作	**B**	する	p.263
		タイマー露光	オフ	する	
		露光時間	5'00"	する	
		GPSユニットのランプ	オン	する	
	キャリブレーション		—	—	
	測位時間		1分	する	
	自動時刻修正		オン	する	
USERモード登録			—	する *1	p.168

*1「USERモード登録」画面の「USERモードリセット」で初期化されます。

「動画」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
露出設定		P	する	p.128
記録設定	記録サイズ	FullHD	する	
	フレームレート	30fps	する	
	画質	★★★	する	
録音レベル		3	する	
Movie SR		オン	する	
インターバル動画	撮影間隔	3秒	する	p.132
	撮影所要時間	00:00'12"	する	
	開始トリガー	即時	する	
	撮影開始時刻	12：00AM／00：00	する	

再生モードパレット

項目	初期設定	リセット設定	参照
画像回転	—	—	p.183
デジタルフィルター	モノトーン	する	p.189
リサイズ	設定可能な最大値	—	p.187
トリミング	設定可能な最大値	—	p.188
インデックス	—	—	p.194
プロテクト	—	しない	p.220
スライドショウ	—	する	p.182
マニュアルWB登録	—	—	p.146
クロスプロセス登録	—	する	p.158
RAW展開	記録サイズ：16M 画質：★★★	する	p.196
動画編集	—	—	p.136
DPOF	—	しない	p.224

「▶再生」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
スライドショウ	表示間隔	3秒	する	p.181
	画面効果	オフ	する	
	繰返し再生	オフ	する	
クイック拡大		オフ	する	p.176
白とび黒つぶれ警告		オフ	する	
画像の自動回転		オン	する	
全画像消去		—	—	p.186

「🔧詳細設定」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
Language/言語		English	しない	p.56
日時設定		2012/01/01	しない	p.58
ワールドタイム	時刻切替	現在地	する	p.207
	目的地（都市）	現在地と同じ	しない	
	目的地（夏時間）	現在地と同じ	しない	
	現在地（都市）	初期設定による	しない	
	現在地（夏時間）	初期設定による	しない	
文字サイズ		初期設定による	しない	p.57
電子音	音量	3	する	p.206
	設定	すべてオン		
画面表示	ガイド表示	オン	する	p.210
	配色	1		
LCD設定		±0	する	p.211
フリッカー低減		50Hz	しない	p.25
外部接続	ビデオ出力	初期設定による	しない	p.201
	USB接続	MSC	する	p.229
フォルダー名		日付	する	p.221
フォルダー新規作成		—	—	p.221
著作権情報	著作権情報の添付	オフ	しない	p.222
	撮影者名	—	しない	
	著作権者名	—	しない	

項目		初期設定	リセット設定	参照
オートパワーオフ		1分	する	p.214
リセット		—	—	p.217
単3形電池の種類		自動判別	する	p.214
ピクセルマッピング		—	—	p.213
ダストリムーバル	ダストリムーバル	—	—	p.260
	起動時の作動／終了時の作動	オフ	する	
センサークリーニング		—	—	p.261
フォーマット		—	—	p.219
バージョン情報		—	—	p.218

「Cカスタム」メニュー

項目	初期設定	リセット設定	参照
1. 露出設定ステップ	1/3 EVステップ	する	p.90
2. ISO感度ステップ	1 EVステップ	する	p.86
3. 拡張感度	オフ	する	p.86
4. 測光作動時間	10秒	する	p.95
5. AFロック時のAE-L	オフ	する	p.94
6. 測距点と露出の関連付	オフ	する	p.95
7. B時の撮影方法	Mode1	する	p.89
8. ブラケット撮影順	0 – +	する	p.91
9. ワンプッシュブラケット	オフ	する	p.93
10. ストロボ発光時のWB	**AWB**	する	p.145
11. 白熱灯下のAWB	弱	する	—
12. 色温度ステップ	ケルビン	する	p.147
13. スーパーインポーズ	オン	する	p.102
14. リモコン時のAF	オフ	する	p.120
15. AF.Sの動作	フォーカス優先	する	p.100
16. AF.Cの動作	フォーカス優先	する	p.100
17. 充電中のレリーズ	オフ	する	p.69
18. ワイヤレス時の発光	オン	する	p.243
19. 回転情報の記録	オン	する	p.176

項目	初期設定	リセット設定	参照
20. メニュー選択の記憶	記憶しない	する	p.213
21. キャッチインフォーカス	オフ	する	p.111
22. AF微調整	オフ	する	p.110
23. 絞りリングの使用	禁止	する	p.259
カスタムのリセット	—	—	p.217

各種レンズを組み合わせたときの機能

DA・DA L・FA Jレンズまたは絞り**A**位置があるレンズを絞り**A**位置で使用すると、カメラの撮影モードがすべて利用できます。
これ以外のレンズや絞りを**A**位置以外で使用する場合は、以下の制限があります。

○：絞りが**A**位置であれば、制限なく使用可
△：機能制限あり
×：使用不可

機能 ＼ レンズグループ［マウント名称］	DA DA L D FA ［KAF］［KAF2］［KAF3］	FA J FA *6 ［KAF］［KAF2］	F *6 ［KAF］	A ［KA］	M P ［K］
オートフォーカス （レンズ単体使用） （AFアダプター 1.7×使用） *1	○ －	○ －	○ －	－ △	－ △
マニュアルフォーカス （フォーカスインジケーター表示の利用） *2 （マット面の利用）	○	○	○	○	○
クイックシフトフォーカス	△ *4	×	×	×	×
測距点「オート」	○	○	○	△ *8	×
測光方式「分割」	○	○	○	○	×
P／**Sv**／**Tv**／**Av**／**TAv** モード	○	○	○	○	△ *9
Mモード	○	○	○	○	△
P-TTLオートストロボ撮影 *3	○	○	○	○	×
パワーズーム	－	×	－	－	－
レンズ焦点距離の自動取得	○	○	○	×	×
レンズ補正	○ *5	× *7	×	×	×

*1　レンズの開放F値がF2.8、またはそれより明るいレンズで**A**位置でのみ使用可
*2　レンズの開放F値がF5.6、またはそれより明るいレンズのみ使用可
*3　内蔵ストロボまたはAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FC使用時
*4　対応レンズのみ可
*5　DA 10-17mm FISH EYEは「ディストーション補正」無効
*6　FA・F SOFT 85mm F2.8／FA SOFT 28mm F2.8は、「**C**カスタム4」メニューの「23. 絞りリングの使用」で「許可」を設定した上で、手動絞りの範囲でのみ設定した絞り値で撮影可

*7　FA 31mm F1.8 Limited／FA 43mm F1.9 Limited／FA 77mm F1.8 Limitedのみ可
*8 「スポット」固定
*9　絞りは開放の**Av**自動露出（絞りリング無効）

レンズ名称とマウント名称について

DAレンズのうちモーターを搭載したレンズと、FAズームレンズのうちパワーズームが可能なレンズのマウントはKAF2マウント（AFカプラーのないレンズはKAF3マウント）です。
FAの単焦点レンズ（ズームでないレンズ）と、モーターを搭載していないDA・DA Lレンズ、D FA・FA J・FレンズのマウントはKAFマウントです。
詳しくはレンズの使用説明書を参照してください。なお、本機にパワーズーム機能はありません。

使用できないレンズ・アクセサリーについて

絞り**A**位置があるレンズを絞り**A**位置以外で使用したり、**A**位置のないレンズやオート接写リング、オートベローズなどのアクセサリーを取り付けた場合、「**C**カスタム4」メニューの「23. 絞りリングの使用」で「許可」を設定しない限り、カメラは作動しません。「絞りリングの使用を許可する」（p.259）を参照してください。

使用レンズと内蔵ストロボについて

本機と組み合わせるレンズによっては、ケラレが発生するために内蔵ストロボが使用できなかったり、機能に制限がある場合があります。
また、絞り**A**位置があるレンズを絞り**A**位置以外で使用したり、Aレンズ以前のレンズやソフトレンズを使用した場合、内蔵ストロボは光量制御ができずに、常にフル発光となります。
下記の一覧表にないDA・DA L・D FA・FA J・FAレンズは、問題なく使用できます。
　※一覧表はフードなしの評価です。

ケラレが発生するので内蔵ストロボ使用不可

レンズ名
DA FISH-EYE 10-17mm F3.5-4.5 ED (IF)
DA 12-24mm F4 ED AL
DA 14mm F2.8 ED (IF)
FA★300mm F2.8 ED (IF)
FA★600mm F4 ED (IF)
FA★250-600mm F5.6 ED (IF)

条件付きで内蔵ストロボ使用可能

レンズ名	制限
F FISH-EYE 17-28mm F3.5-4.5	焦点距離20mm未満ではケラレが発生することがあります。
DA 16-45mm F4 ED AL	焦点距離が28mm未満のとき、または焦点距離が28mmで撮影距離が1m以下のときはケラレが発生することがあります。
DA★16-50mm F2.8 ED AL (IF) SDM	焦点距離が20mm以下のとき、または焦点距離が35mmで撮影距離が1.5m未満のときはケラレが発生します。
DA 17-70mm F4 AL (IF) SDM	焦点距離が24mm未満のとき、または焦点距離が35mmで撮影距離が1m以下のときはケラレが発生します。
DA 18-250mm F3.5-6.3 ED AL (IF)	焦点距離が35mm未満ではケラレが発生します。
FA★28-70mm F2.8 AL	焦点距離が28mmで撮影距離が1m未満のときは、ケラレが発生することがあります。
FA SOFT 28mm F2.8／FA SOFT 85mm F2.8	内蔵ストロボは常にフル発光になります。

レンズ焦点距離を入力する

Shake Reductionは、レンズの焦点距離などの情報を取得して動作します。そのため、焦点距離が自動取得できないレンズを使用する場合は、手動で設定する必要があります。

1 「Shake Reduction」がオンに設定されていることを確認し、電源を切る

「縦・横方向の手ぶれを補正する」（p.114）を参照してください。

2 レンズを装着し、電源を入れる

「焦点距離入力」画面が表示されます。

3 後電子ダイヤル（）でレンズ焦点距離を設定する



レンズ焦点距離は以下から選択します。
（初期設定：35mm）

8	10	12	15	18	20	24	28	30	35
40	45	50	55	65	70	75	85	100	120
135	150	180	200	250	300	350	400	450	500
550	600	700	800						



- ご使用のレンズの焦点距離が上記にない場合は、最も近い値（例：17mmの場合は「18」、105mmの場合は「100」）を設定してください。
- ズームレンズを使用している場合も同様に、ズーム撮影時の実際の焦点距離を設定してください。

4 OKボタンを押す

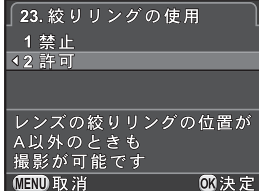
撮影できる状態になります。



- レンズ焦点距離の設定を変更する場合は、「撮影3」メニューの「焦点距離入力」で設定します。
- 絞り **A** 位置がないレンズの場合または絞りを **A** 位置から外して使用する場合は、「**C** カスタム4」メニューの「23. 絞りリングの使用」を「許可」に設定してください。（p.259）

絞りリングの使用を許可する

D FA・FA・F・Aレンズで絞りを**A**位置以外にしたり、**A**位置のないレンズでも、撮影ができるようにします。
「**C**カスタム4」メニューの「23. 絞りリングの使用」で「許可」を選択します。



この場合、次の制約があります。

使用レンズ	撮影モード	制約
D FA・FA・F・A・M（レンズ単体、オート接写リングKなどの自動絞り機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	**Av**	絞りリングを操作しても、絞りは開放のままです。レンズの開放絞りに連動してシャッター速度は変化しますが、露出の誤差が生じることがあります。絞り値は[F--]と表示されます。
D FA・FA・F・A・M・S（接写リングKなどの絞り込み機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	**Av**	設定した絞り値で撮影されますが、露出の誤差が生じることがあります。絞り値は[F--]と表示されます。
レフレックスレンズなどの手動絞りのレンズ（レンズ単体）	**Av**	
FA・F SOFT 85mm／FA SOFT 28mm（レンズ単体）	**Av**	手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されます。絞り値は[F--]と表示されます。 光学プレビューで露出の確認ができます。
すべてのレンズ	**M**	設定した絞り値とシャッター速度で撮影されます。絞り値は[F--]と表示されます。 光学プレビューで露出の確認ができます。



絞りを**A**位置以外にセットした場合、**M**／動画モード以外はモードダイヤルの位置にかかわらず、**Av**モードで動作します。

CMOSセンサーのクリーニング

CMOSセンサーに汚れやほこりが付着していると、背景が白いものなど撮影条件によっては画像に影が写り込むことがあります。そのような場合には、CMOSセンサーのクリーニングが必要です。

CMOSセンサーを振動させてほこりを落とす（ダストリムーバル）

CMOSセンサーを振動させて付着したゴミを落とします。

1 「🔧詳細設定3」メニューの「ダストリムーバル」を選び、十字キー（▶）を押す

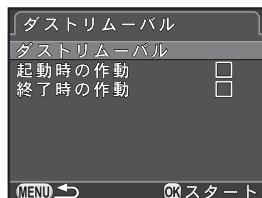
「ダストリムーバル」画面が表示されます。

2 OKボタンを押す

CMOSセンサーが駆動し、ダストリムーバル機能が作動します。

電源のオン／オフ時に毎回ダストリムーバルを作動させたい場合は、起動時の作動／終了時の作動を☑にします。

ダストリムーバルが終了すると、「🔧詳細設定3」メニューに戻ります。



ブロアーでほこりを落とす

ブロアーでクリーニングするためにミラーをアップし、シャッターを開けた状態にします。
CMOS センサーは精密部品ですので、できるだけ当社の修理センターまたは、お客様窓口にご用命ください。有料にて清掃を承っております。



- センサークリーニング中はセルフタイマーランプが点滅します。
- センサークリーニング中にCMOSセンサーが振動する音がしますが、故障ではありません。
- クリーニングには、別売のイメージセンサークリーニングキットもご使用いただけます。



- スプレー式やブラシ付きのブロアーは使用しないでください。これらを使用すると、CMOS センサーが傷つくことがあります。また、CMOS センサーは絶対に布で拭かないでください。
- モードダイヤルを**B**にしてセンサークリーニングを行わないでください。
- カメラにレンズを装着しないときは必ずレンズマウント部にキャップを取り付け、CMOS センサーに汚れやほこりが付着しないようにしてください。
- バッテリーの容量が少ない場合、「電池容量がたりないためクリーニングを行えません」と画像モニターに表示されます。
- クリーニングをするときは、別売のACアダプターキットのご使用をお勧めします。ACアダプターキットを使用しない場合は、容量が十分に残っているバッテリー／電池を使用してください。クリーニングの途中でバッテリー／電池の容量が少なくなると、セルフタイマーランプが速い点滅になります。その場合は、すぐにクリーニング作業を中止してください。
- クリーニングをするときは、ブロアーの先端をレンズマウント面より中に入れないでください。万一電源が切れた場合、シャッター機構部やCMOS センサー部、ミラー部を破損するおそれがあります。

1　カメラの電源を切り、レンズを取り外す

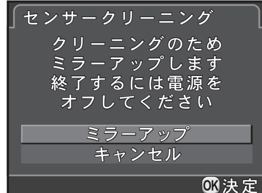
2　カメラの電源を入れる

3　「🔧詳細設定3」メニューの「センサークリーニング」を選び、十字キー（▶）を押す

「センサークリーニング」画面が表示されます。

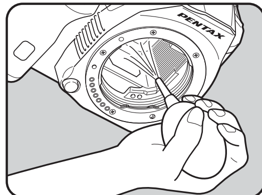
4 十字キー（▲）で「ミラーアップ」を選び、OKボタンを押す

ミラーがアップした状態に固定されます。



5 CMOSセンサーをクリーニングする

ブラシが付いていないブロアーで落としてください。



6 カメラの電源を切る

ミラーが元に戻ります。

7 レンズまたはボディマウントカバーを取り付ける

GPSユニットを利用する

本機に別売のGPSユニット O-GPS1を装着すると、以下の機能が使用できます。

電子コンパス	撮影待機中に現在地の緯度・経度・高度とカメラの向き（方位）、協定世界時を表示します。
アストロトレーサー	天体を追尾して撮影します。カメラに内蔵されている手ぶれ補正ユニットを天体の動きに合わせて動かすことによって、長時間露光でも天体が点状に撮影できます。（p.264）
自動時刻修正	GPS衛星から取得した情報を利用して、カメラの日時設定を自動的に補正します。



- GPSユニットの取り付け方や機能の詳細は、GPSユニットの使用説明書を参照してください。
- 「電子コンパス」は、撮影待機中に**INFO**ボタンを2回押して表示情報を選択する画面で「電子コンパス」を選択すると表示できます。（p.27）



本機では、「直線ナビ」は使用できません。

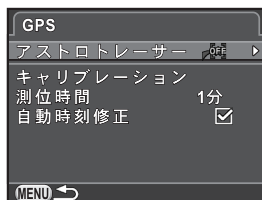
天体を撮影する（アストロトレーサー）

1 **「📷撮影4」メニューの「GPS」を選び、十字キー（▶）を押す**

「GPS」画面が表示されます。

2 **「アストロトレーサー」で十字キー（▶）を押す**

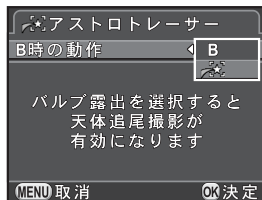
「アストロトレーサー」画面が表示されます。



3 **「B 時の動作」で十字キー（▶）を押し、アストロトレーサーアイコンを選択してOK ボタンを押す**

B モードでの撮影が、「アストロトレーサー」モードになります。

撮影時間を指定する場合は「タイマー露光」でオンを選択し、「露光時間」を設定します。



4 **MENUボタンを3回押す**

撮影できる状態になります。

5 **モードダイヤルをBに合わせる**

6 **シャッターボタンを全押しする**

撮影が開始されます。

7 もう一度シャッターボタンを全押しする

露光が終了します。

「タイマー露光」をオンに設定した場合は、「露光時間」が経過すると自動的に撮影が終了します。



- アストロトレーサーで撮影中に GPS ユニットの ランプを点灯させたくない場合は、手順3の画面の「GPSユニットのランプ」でオフに設定できます。
- アストロトレーサーの詳細は、GPS ユニットの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージ

エラーメッセージ	内容
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードの容量いっぱいに画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.50、p.184）記録設定を変更すると、保存できる可能性があります。（p.140）
画像がありません	SDメモリーカードに再生できる画像が保存されていません。
この画像を表示できません	本機で再生できない画像を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
カードが入っていません	SDメモリーカードがセットされていません。（p.50）
このカードは利用できません	本機がサポートしていないメモリーカードがセットされています。
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコンでは表示できる場合もありますが、本機では使用できません。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、他の機器でフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています。本機でフォーマットしてからお使いください。（p.219）
カードがロックされています	ライトプロテクトスイッチがロックされたSDメモリーカードがセットされています。SDメモリーカードのロックを外してください。（p.6）
電子的にロックされています	SDメモリーカードのセキュリティー機能によって保護されています。
この画像を拡大表示できません	拡大不可能な画像を拡大表示しようとしています。
この画像はプロテクトされています	消去しようとしている画像がプロテクトされています。画像のプロテクトを解除してください。（p.220）
電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません	ピクセルマッピング時にバッテリー／電池容量が足りない場合に表示されます。十分に充電されたバッテリーまたは新しい電池と交換するか、別売のACアダプターキットを使用してください。

エラーメッセージ	内容
電池容量がたりないため クリーニングを 行えません	センサークリーニング時にバッテリー／電池容量が足りない場合に表示されます。十分に充電されたバッテリーまたは新しい電池と交換するか、別売のACアダプターキットを使用してください。
電池容量がたりないため アップデートを行えません	アップデート時にバッテリー／電池容量が足りない場合に表示されます。十分に充電されたバッテリーまたは新しい電池と交換するか、別売のACアダプターキットを使用してください。
ファイルが壊れているため アップデートを行えません	アップデートファイルが壊れているためアップデートが実行できません。アップデートファイルを再度ダウンロードしてください。
フォルダーが作成できません	最大のフォルダー No.（999）／ファイル No.（9999）が使用されているため、画像が保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください。（p.219）
画像を保存 できませんでした	SDメモリーカードの異常で、撮影した画像が保存できませんでした。
設定を正しく 保存できませんでした	SDメモリーカードが容量いっぱいまで使用されていて、DPOF設定が保存できません。不要な画像を消去して、再度DPOFを設定してください。（p.184）
正しく処理できませんでした	マニュアルホワイトバランス測定（p.145）／HDR撮影（p.149）に失敗しました。もう一度やり直してください。
これ以上 選択できません	選択消去（p.184）／インデックス（p.194）処理は、上限枚数以上は選択できません。
処理できる 画像がありません	デジタルフィルター（p.189）を適用できる画像、またはRAW展開（p.196）できる画像がありません。
この画像を処理できません	他のカメラで撮影した画像に対してリサイズ（p.187）／トリミング（p.188）／デジタルフィルター（p.189）／RAW展開（p.196）を実行した場合、または最小サイズの画像に対してリサイズ／トリミングを実行した場合に表示されます。
画像の作成に 失敗しました	インデックスで画像の作成に失敗しました。（p.194）
このモードでは 設定することができません	AUTO／SCN／動画モードのときに、設定できない機能を設定しようとしています。

エラーメッセージ	内容
高温のため ライブビューを 使用できません	カメラ内部の温度が上昇したため、ライブビュー撮影ができません。温度が下がってからライブビューを実行してください。
カメラが高温になりました 電源をオフします	カメラ内部が高温になったため、電源がオフになります。しばらくしてから電源を入れてください。

困ったときは

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい動作をしなくなることがあります。このような場合には、バッテリー／電池を入れ直してみてください。カメラが正常に動作すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。
修理を依頼する前にもう一度、次の点をご確認ください。

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリー／電池が入っていない	バッテリー／電池が入っているか確認してください。
	バッテリー／電池の入れ方が間違っている	バッテリー／電池の挿入方向を確認してください。バッテリー室の＋／－表示に従ってバッテリー／電池を入れ直してください。（p.45、p.46）
	バッテリー／電池の残量がない	容量のあるバッテリー／電池に交換するか、別売のACアダプターキットを使用してください。
シャッターがきれない	内蔵ストロボが充電中	ストロボの充電中は、ϟが点滅表示します。充電が完了するまで待ってください。
	SDメモリーカードに空き容量がない	空き容量があるSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.71、p.184）
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。
	レンズの絞りが**A**位置以外になっている	絞りを**A**位置にするか、「**C**カスタム4」メニューの「23. 絞りリングの使用」で「許可」を選択してください。（p.259）
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	コントラストの低いもの（青空や白壁など）、暗いもの、細かい模様のもの、速く動いているもの、窓やネット越しの風景などは、オートフォーカスが苦手なものです。いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを固定したまま、撮りたい構図に変えてシャッターをきります。またはマニュアルフォーカスを使用してください。（p.108）

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	AF領域に被写体が入っていない	AFフレームに、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、AFフレームにない場合は、いったん撮りたいものをAFフレームに入れて、ピントを固定したまま、撮りたい構図に変えてシャッターをきります。
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影してください。
	フォーカスモードが**MF**になっている	フォーカスモードレバーを**AF.S**／**C**にしてください。（p.99）
AEロックできない	**B**モードになっている	**B**モードではAEロックは使用できません。
内蔵ストロボが発光しない	ストロボモードが⚡A／⚡A◉になっているときは、被写体が明るいとストロボは発光しません	ストロボモードを⚡（強制発光）または⚡◉（強制発光＋赤目軽減）に設定してください。（p.66）
	SCNモードの［アイコン］／［アイコン］／［アイコン］／［アイコン］／［アイコン］／［アイコン］／［アイコン］／［アイコン］を選択している	左記以外の撮影モードを選択してください。（p.80）
パワーズームができない	本機はパワーズームに対応していません	マニュアルズームを使用してください。
パソコンとUSB接続ができない	転送モードが「PTP」になっている	「🔧詳細設定2」メニューの「外部接続」の「USB接続」を「MSC」に切り替えてください。（p.229）

現象	原因	対処方法
手ぶれ補正が効かない	手ぶれ補正機能がオフになっている	「Shake Reduction」をオンに設定してください。（p.114）
	レンズ焦点距離が設定されていない	レンズ焦点距離の情報が取得できないレンズを使用している場合は、「焦点距離入力」画面でレンズ焦点距離を設定してください。（p.258）
	流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件で、手ぶれ補正機能の補正範囲を超えている	手ぶれ補正機能の補正範囲を超える場合は、「Shake Reduction」をオフに設定して、三脚などを使用してください。
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影するか、「Shake Reduction」をオフに設定して、三脚などを使用してください。

主な仕様

型式

型式	P-TTLストロボ内蔵 TTL AE・AF一眼レフデジタルカメラ
レンズマウント	ペンタックスバヨネットKAF2マウント（AFカプラー・情報接点・電源接点付き）
使用レンズ	KAF3、KAF2（パワーズーム非対応）、KAF、KAマウントレンズ

撮像部

撮像素子	種類：原色フィルター／CMOS、サイズ：23.7×15.7mm
有効画素数	約1628万画素
総画素数	約1649万画素
ダストリムーバル	撮像素子駆動およびSPコーティング
感度（標準出力感度）	ISO AUTO 100～12800（1 EVステップ、1/2 EVステップまたは1/3 EVステップ）、カスタム設定により拡張ISO 100～25600使用可能
手ぶれ補正	撮像素子シフト方式

記録形式

画像ファイル形式	RAW（DNG）、JPEG（Exif 2.3）準拠、DCF 2.0準拠
記録サイズ（画素数）	JPEG：16M（4928×3264） 12M（4224×2816） 8M（3456×2304） 5M（2688×1792） RAW：16M（4928×3264）
画質	RAW（12bit）：DNG JPEG：★★★（スーパーファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー） RAWとJPEGの同時記録可能
色空間	sRGB、AdobeRGB
記録媒体	SD、SDHC、SDXCメモリーカード
記録フォルダー	日付（100_1018、100_1019・・・）／ PENTX（100PENTX、101PENTX・・・）

ファインダー

方式	ペンタプリズムファインダー
視野率	約100％
倍率	約0.92×（50mm F1.4・∞）
アイレリーフ長	約21.7mm（見口枠より）、約24.5mm（レンズ中心より）
視度調節機能	約-2.5～+1.5m^{-1}

フォーカシングスクリーン	ナチュラルブライトマットIII、交換式

ライブビュー

方式	撮像素子によるTTL方式
フォーカス	コントラスト検出式（顔検出、追尾、セレクト、スポット）
表示	視野率約100%、拡大表示（2倍／4倍／6倍）、グリッド表示（16分割表示、黄金分割表示、スケール表示）、白とび黒つぶれ警告表示、ヒストグラム表示、フォーカスアシスト

画像モニター

形式	TFTカラー LCD、広視野角タイプ
イメージサイズ	3.0型
ドット数	約92.1万ドット
調整	明るさ調整、色調整

ホワイトバランス

オート	撮像素子および光源検知センサーによる併用方式
プリセット	太陽光、日陰、曇天、蛍光灯（**D**：昼光色、**N**：昼白色、**W**：白色、**L**：電球色）、白熱灯、ストロボ、**CTE**、マニュアル、色温度
マニュアル	モニター確認による設定（3種類登録可）、色温度設定、撮影画像設定
微調整	A-B軸、G-M軸で±7ステップで調整可

オートフォーカス

方式	TTL位相差検出式
測距センサー	SAFOX IXi+、11点測距（中央9点はクロスタイプ）
輝度範囲	EV -1～18 （ISO 100）
AFモード	オートAF（**AF.A**）、シングルAF（**AF.S**）、コンティニュアスAF（**AF.C**） **AF.S**はフォーカス優先・レリーズ優先切替可、**AF.C**はフォーカス優先・コマ速優先切替可
AFエリア	5点オート、11点オート、セレクト（セレクトエリア拡大設定可）、スポット
AF補助光	専用LEDによるAF補助光

露出制御

測光方式	TTL開放77分割測光、分割／中央重点／スポット
露出範囲	EV 0～22 （ISO 100 50mm F1.4）
露出モード	オートピクチャーモード（標準、人物、風景、マクロ、動体、夜景人物、夜景、青空、フォレストを自動選択） シーンモード（人物、風景、マクロ、動体、夜景人物、夕景、青空、フォレスト、夜景、夜景HDR、ナイトスナップ、料理、ペット、キッズ、サーフ&スノー、逆光シルエット、キャンドルライト、ステージライト、美術館）※夜景HDRはJPEG固定 プログラム、感度優先、シャッター優先、絞り優先、シャッター&絞り優先、マニュアル、バルブ
露出補正	±5 EV（1/3 EVステップ、1/2 EVステップ選択可能）
AEロック	メニューにて**AF**/**AE-L**ボタンに割り当て可能
シャッター	オート：1/6000秒～30秒、マニュアル：1/6000秒～30秒（1/3 EVステップまたは1/2 EVステップ）、バルブ

ドライブ

ドライブモード	1コマ、連続（Hi、Lo）、セルフタイマー（12秒後、2秒後）、リモコン（即、3秒後）、露出ブラケット（3コマ）
連続撮影	約6コマ/秒（JPEG、連続Hi時） 約3コマ/秒（JPEG、連続Lo時）

ストロボ

内蔵ストロボ	ポップアップ機能付きP-TTL内蔵ストロボ、ガイドナンバー約12（ISO 100・m）、28mmレンズの画角（35ミリ判換算）をカバー
発光方式	P-TTL、赤目軽減、スローシンクロ、後幕シンクロ （対応外付けストロボにおいて）ハイスピードシンクロ、ワイヤレスシンクロ可能
シンクロ同調速度	1/180秒
ストロボ光量補正	-2.0～+1.0 EV

撮影機能

カスタムイメージ	鮮やか、ナチュラル、人物、風景、雅、ポップチューン、ほのか、銀残し、リバーサルフィルム、モノトーン、クロスプロセス
ノイズリダクション	高感度NR、長秒時NR
ダイナミックレンジ設定	ハイライト補正、シャドー補正
レンズ収差補正	ディストーション補正、倍率色収差補正
デジタルフィルター	色抽出、トイカメラ、レトロ、ハイコントラスト、シェーディング、ネガポジ反転、カラー
HDR撮影	オート／HDR1／HDR2／HDR3、自動位置調整可
多重露出	撮影回数2～9回、自動露出調整可

インターバル	撮影間隔（3秒～24時間）、最大撮影枚数999枚、開始トリガー（即時、時刻指定）
自動水平補正	SRオン時：最大±1度まで補正可能、SRオフ時：最大±1.5度まで補正可能
構図微調整	上下左右シフト調整範囲±1.0mm、回転調整範囲±1度
電子水準器	ファインダー内表示（水平方向のみ）、画像モニター表示（水平・あおり方向）

動画

ファイル形式	MPEG-4 AVC/H.264
記録サイズ	FullHD（1920×1080・16:9・30fps／25fps／24fps） HD（1280×720・16:9・60fps／50fps／30fps／25fps／24fps） VGA（640×480・4:3・30fps／25fps／24fps）
画質	★★★（スーパーファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）
音声	内蔵モノラルマイク、録音レベル
記録時間	最長約25分、内部温度上昇時は自動終了
カスタムイメージ	鮮やか、ナチュラル、人物、風景、雅、ポップチューン、ほのか、銀残し、リバーサルフィルム、モノトーン、クロスプロセス
デジタルフィルター	色抽出、トイカメラ、レトロ、ハイコントラスト、ネガポジ反転、カラー
インターバル動画	撮影間隔（3秒～24時間）、撮影所要時間（12秒～99時間）、開始トリガー（即時、時刻指定） ※記録形式はMotion JPEG（AVI）

再生機能

再生方法	1画像、マルチ画像表示（4／9／16／36／81画像）、拡大（最大16倍まで、スクロール可、クイック拡大可）、回転表示、ヒストグラム表示（Yヒストグラム、RGBヒストグラム）、白とび黒つぶれ警告表示、縦位置自動回転、詳細情報表示、著作権情報表示（撮影者名、著作権者名）、GPS情報（緯度、経度、高度、方位、協定世界時）、フォルダー表示、撮影日別表示、スライドショウ
消去機能	1画像消去、全画像消去、選択消去、フォルダー消去、クイックビュー消去
デジタルフィルター	モノトーン、色抽出、トイカメラ、レトロ、ハイコントラスト、シェーディング、ネガポジ反転、カラー、ドラマチックアート、デッサン、水彩画、パステル、ポスタリゼーション、ミニチュア、ソフト、クロス、フィッシュアイ、スリム、ベースメイク
RAW展開	記録形式（JPEG）、記録設定（アスペクト比、記録サイズ、画質、色空間）、ディストーション補正、倍率色収差補正、カスタムイメージ、ホワイトバランス、増減感、高感度NR、シャドー補正

編集機能	リサイズ、トリミング（アスペクト比変更可、傾き修正可）、インデックス、動画編集（分割および不要部分消去）、動画フレーム画像JPEG保存、バッファ RAW保存

カスタマイズ機能

ユーザーモード	最大2件まで登録可
カスタムファンクション	23項目
モードメモリ	12項目
電子ダイヤル	露出モード別電子ダイヤルカスタマイズ各種
カスタムボタン	**RAW**/**Fx** ボタン（ワンタッチRAW＋、露出ブラケット、光学プレビュー、デジタルプレビュー、構図微調整、測距点切替） **AF**/**AE-L** ボタン（AF作動1、AF作動2、AFキャンセル、AEロック）
文字サイズ	標準、大きい
ワールドタイム	世界75都市に対応（28タイムゾーン）
AF微調整	±10ステップ、一律調整、個別調整（最大20本まで登録可）
著作権情報	「撮影者名」「著作権者名」を画像ファイルに記録

電源

使用電池	充電式リチウムイオンバッテリー D-LI109 単3形電池ホルダー D-BH109（別売）使用時、単3形電池4本（リチウム電池、ニッケル水素充電池、アルカリ電池）
ACアダプター	ACアダプターキット K-AC128J（別売）
電池寿命	(D-LI109使用時) 撮影可能枚数…ストロボ50％発光：約410枚、 ストロボ発光なし：約480枚 再生時間…約270分 ※23℃、撮影枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

外部インターフェイス

端子	USB 2.0（ハイスピード対応）／AV出力端子、外部レリーズ端子
USB接続	MSC／PTP
ビデオ出力方式	NTSC／PAL

外形寸法・質量

外形寸法	約128.5mm（幅）× 96.5mm（高）× 71.5mm（厚）（ホットシュー、操作部を除く）
質量	約650g（専用電池、SDカード付き）、約590g（本体のみ）

付属品

同梱物	USBケーブル I-USB7、ストラップ O-ST53、充電式リチウムイオンバッテリー D-LI109、専用充電器 D-BC109、ACコード、ソフトウェア（CD-ROM）S-SW128 <これ以降はカメラに装着状態で出荷> アイカップ FR、ホットシューカバー FK、ボディマウントカバー
ソフトウェア	SILKYPIX Developer Studio 3.0 for PENTAX

● 撮影可能枚数と再生時間

バッテリーフル充電時

バッテリー	使用温度	一般撮影	ストロボ撮影		再生時間
			使用率50％	使用率100％	
D-LI109	23℃	約480枚	約410枚	約360枚	約270分
	0℃	約360枚	約300枚	約250枚	約210分

撮影枚数（一般撮影、ストロボ使用率50％）はCIPA規格に準じた測定条件、その他については当社の測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

● 記録サイズ別撮影可能枚数の目安

2GBのSDメモリーカード使用時

記録サイズ（画素数）	JPEG画質			RAW
	★★★	★★	★	
16M（4928×3264）	214枚	379枚	749枚	76枚
12M（4224×2816）	289枚	512枚	1007枚	–
8M（3456×2304）	429枚	758枚	1463枚	–
5M（2688×1792）	706枚	1229枚	2363枚	–

撮影可能枚数は、被写体・撮影状況・撮影モード・使用するSDメモリーカード等により異なります。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理いたしますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品がある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ほこり・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。従って本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］
7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

メモ

メモ

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックス製品をご愛用の方なら、どなたでも入会できる全国的な写真クラブです。
ペンタックスファミリーは、たくさんの会員特典や楽しいイベントであなたのフォトライフをバックアップ！あなたもペンタックスファミリーで、すばらしい写真の世界をお楽しみください。
詳しくは、下記ホームページをご覧いただくか、Pentax Family事務局までお問い合わせください。

ペンタックスファミリーホームページ　http://pentax.jp/family/

Pentax Family事務局　TEL 03-3580-2060　FAX 03-3580-2065
〒100-0014　東京都千代田区永田町1-11-1 三宅坂ビル2階
営業時間　9：00～17：00（土・日・祝日、弊社休業日を除く）

ペンタックスホームページアドレス　http://www.pentax.jp/

本製品に関するお問い合わせ　http://www.pentax.jp/japan/support/

PENTAX お客様相談センター



ナビダイヤル　0570-001323
（市内通話料金でご利用いただけます。）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、下記の電話番号をご利用ください。

TEL 03-3960-5705（代）　FAX 03-3960-4976

営業時間　9：00～18：00（平日）　10：00～17：00（土・日・祝日）
（年末年始、ビル点検日を除く）

修理に関するお問い合わせ　http://www.pentax.jp/japan/support/repair.html

PENTAX 東京サービスセンター　TEL 03-3960-5140（代）　FAX 03-3960-5147

〒174-0041　東京都板橋区舟渡1-12-11 ヘリオスⅡビル3階

営業時間　9：00～17：30（土・日・祝日、弊社休業日を除く）

PENTAX 大阪サービスセンター　TEL 06-6271-7996（代）　FAX 06-6271-3612

〒542-0081　大阪府大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階

営業時間　9：00～17：00（土・日・祝日、弊社休業日を除く）

ペンタックスピックアップリペアサービス　フリーダイヤル　0120-97-0405

全国（離島など、一部の地域を除く）どこからでも電話一本でペンタックス指定の宅配業者がお客様ご指定の日時・場所に梱包資材を持って不具合品を引き取りにお伺いし、専門修理スタッフが修理を行って、お客様ご指定の場所に完成品をお届けするサービスです。（全国一律料金）※ 弊社修理受付後のお問い合わせは、東京サービスセンターにて承ります。

受付時間　8：00～21：00（平日）　9：00～18：00（土・日・祝日・年末年始）

ショールーム・ギャラリー・修理受付

ペンタックスフォーラム　TEL 03-3348-2941（代）　FAX 03-3345-8076

〒163-0690　東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービルMB（中地下1階）

営業時間　10：30～18：30（毎週火曜日、年末年始、ビル点検日を除く）

ペンタックスリコーイメージング株式会社
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-35-7

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

58264
R01DTE12
Printed in Philippines